

2 0 0 4

# 授業概要

【シラバス】

## 保育科

白梅学園短期大学

SHIRAZUME GAKUEN COLLEGE



## 目次(保育科)

教養教育科目(1年)	1
ヒューマニズム論	3
総合科目・人間	4
総合科目・生命	5
現代とヒューマニズムⅠ(近代国家と戦争)	6
現代とヒューマニズムⅡ(消費社会と欲望)	7
現代とヒューマニズムⅢ(科学技術と生命)	8
人物研究Ⅰ[和泉式部]	9
人物研究Ⅱ[柳田国男]	10
人物研究Ⅲ[有島武郎]	11
心理学入門Ⅰ[心のしくみ]	12
心理学入門Ⅱ[性格と人間関係]	13
体の不思議	14
生物の世界と人間	15
人間と環境	16
生と死を考える	17
人間の生と性	18
生活と健康	19
教養体育(実技)	20~22
教養体育(講義)	23
外国語Ⅰ	24~31
外国語Ⅱ	32~39
海外語学研修	40
情報処理入門	41~42
選択外国語 英会話(基礎)	43
選択外国語 ビジネス英語	44
選択外国語 時事英語	45
選択外国語 異文化コミュニケーション	46
言語とコミュニケーション	47
手話入門	48
文学芸術・フィクションと人間	49
造形美術とイマジネーション	50
話し言葉の伝承	51
絵本・絵巻と物語表現	52
源氏物語の世界	53
近現代の日本文学	54
庶民の生活文化	55
現代の文化と風俗	56
現代英米の文学	57
世界の児童文学	58
比較文化論・近代文明と日本人	59
国境を越える民俗学	60
現代社会と人権	61
憲法と私たち(日本国憲法)	62
日本とアジアの近現代史	63
社会福祉の考え方	64

男と女・ジェンダーを考える	65
現代世界とマイノリティー	66
女性労働の問題	67
地域生活と家族	68

## 専門教育科目(1年) 69

社会福祉	71
地域の福祉	72
児童福祉	73
保育原理Ⅰ	74
保育原理Ⅱ	75
保育者論	76
教育原理	77
教育の思想と歴史	78
発達心理学	79
遊びの発達心理学	80
教育心理学	81
小児保健Ⅰ	82
小児保健Ⅱ	83
小児栄養Ⅰ	84
教育課程総論	85
保育内容総論	86
保育内容 健康	87
保育内容 言葉	88
乳児保育Ⅰ	89
音楽Ⅰ	90~92
図画工作	93
ゼミナールⅠ	94
幼稚園実習	95
実習指導	96
保育所実習Ⅰ	97

## 教養教育科目(2年) 99

海外語学研修	101
選択外国語 英会話(応用)	102
選択外国語 フランス語会話	103
選択外国語 ドイツ語会話	104
選択外国語 英文購読	105

## 専門教育科目(2年) 107

社会福祉援助技術	109
現代保育の課題	110
養護原理	111
小児保健実習	112

小児栄養Ⅱ	113
精神保健	114
保育内容 人間関係	115
保育内容 環境	116
保育内容 表現	117~119
幼児の運動遊び	120
子どもの活動と自然	121
お話しの世界	122
子どもの音楽の世界	123
子どもの造形と遊び	124
遊びと身体表現	125
乳児のあそび	126
保育計画法	127
幼児教育の方法	128
乳児保育Ⅱ	129
養護内容	130
障害児保育	131
保育臨床相談	132
音楽Ⅱ	133~134
体育	135
ゼミナールⅡ	136~155
幼稚園実習	156
実習指導	157~158
保育所実習Ⅱ	159
施設実習Ⅰ	160
施設実習Ⅱ	161



教養教育科目（1年）





【授業科目】 ヒューマニズム論	
【開講期】 前期	【担当者】 栗田廣美
<p>【授業目標】</p> <p>「ヒューマニズム」とは、「<u>人間の価値を第一と考へ、人間が最高で、人間性こそ尊重すべきもの</u>」だとする、態度・思想傾向・世界観のことだと、説明されている（「岩波国語辞典」）。そして、この「ヒューマニズム」——「<u>人間を愛し、人間の価値を最高度を実現しようとするヒューマニズムの精神</u>」を、<u>白梅学園短大は「建学の理念」としている</u>（『学生便覧』等）。</p> <p>しかし、<u>なぜ「人間の価値」が「第一」なのだろう。なぜ「人間性こそ尊重すべき」なのだろう。なぜ「人間を大切にすべき」なのだろう。</u>言い方を換えれば、<u>なぜ、「ヒューマニズム」は「正しい」なのだろう。</u>——「<u>人間を大切にするのはアタリマエだ</u>」では、「<u>自分の思想</u>」にも「<u>学問</u>」にもならない。そういう発想は「<u>世間的通念</u>」に<u>流されているだけ</u>なのではないか。</p> <p>「<u>人間中心主義</u>」こそが地球を危機に陥れた、とさえ言われている現在、「ヒューマニズム」は、本当に「<u>人間の支え</u>」になりうるのか。<u>つまり、「現代におけるヒューマニズム」は可能なのか。</u>「ヒューマニズムの精神＝建学の理念」も、自由な立場で検証されなければならない。</p> <p>本講では、このような「<u>問いかけ</u>」を大切に、有島武郎等の「<u>実例</u>」にも触れながら、「<u>近代以後の人間のあり方</u>」を考へることを出発点に、現在、<u>何によって人間が圧迫されているか、何に抗って「人間を大切にする」のか、</u>という問題に迫っていきたいと思っている（たぶん「<u>明瞭な結論</u>」は出ないだろうが）。——大学生になった諸君が、知的に、根源的に「<u>自分自身と世界</u>」を考へるための、一つのキッカケになれば、と願っている。</p> <p>大切なことは「<u>知識</u>」や「<u>結論</u>」ではない。疑問を持つこと、考へること。諸君の中に「<u>問題意識</u>」を喚起することを最大の目標にしたい。</p>	
【テキスト】 用いない。必要に応じてプリントを配布する。	
【参考書】 必要に応じ、講義中に紹介する。	
授 業 計 画	
<p>◆ <u>授業中の「私語・内職」はもとより「よそ見・ぼんやり」も厳禁する。</u></p> <p>これらの行為は教室の「<u>空気</u>」を乱し、「<u>ライブとしての授業</u>」に必要な「<u>ピーンと張りつめた緊張感</u>」を崩し、その結果「<u>授業のレベル</u>」を下げて、そのことで、<u>真面目に学ぼうとする学生の迷惑</u>になるからである。<u>注意に従わぬ学生は追放し、以後の受講を認めない。</u></p>	
<p>◆ 「<u>実習</u>」や、病気・不慮の事態以外は、<u>一度も休まずに出席することが大切。</u></p> <p>病気等やむをえぬ理由でも、<u>実授業数の2/3以上出席していなければ受験資格は与えない。</u></p>	
<p>◎ <u>講義を「全身全霊で聞き・感じ取り・考へようとする態度」があれば大丈夫</u>（無ければダメ）。「<u>板書</u>」は、ほとんどしない。「<u>黒板写し型勉強</u>」から脱却しよう。何よりも、話をよく聞いて、その場で「<u>感じ</u>」、その場で「<u>考へ</u>」、その場で「<u>理解できるだけ理解してしまう</u>」ことが大切。——ノートを取るべきポイント等は、授業中に指摘するから、安心していて大丈夫。内容的には、予備知識が無くても、最低限必要なことは「<u>分かる</u>」はずだ。</p> <p>おおむね、以下の順序で講義する予定（諸君の問題意識や理解度によって途中変更あり）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「<u>根源的（ラディカル）に考へる</u>」態度について       <ol style="list-style-type: none"> <li>①「<u>根源的に問う</u>」こと</li> <li>②「<u>自己</u>」と「<u>世界</u>」</li> <li>③何が「<u>人間</u>」を価値づけるか——「<u>神のある世界</u>」と「<u>神の無い世界</u>」（有島武郎等）</li> </ol> </li> <li>2 我々の状況——近代における「<u>人間</u>」の問題       <ol style="list-style-type: none"> <li>①近代と前近代——「<u>人間</u>」の問題として</li> <li>②「<u>神・超越性</u>」と近代人（有島武郎等）</li> <li>③近代的「<u>人間</u>」観と、その問題点</li> <li>④「<u>近代ヒューマニズム思想</u>」について</li> <li>⑤何に抗って「<u>人間を大切に</u>」するのか</li> </ol> </li> <li>3 現代の状況と人間       <ol style="list-style-type: none"> <li>①「<u>国家</u>」と人間</li> <li>②「<u>資本</u>」と人間</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】 学期末に、ノート（そのほか何でも）持ち込み可の、記述式テストを行う。それと、出席点を加味して評価する。ノートをしっかり取っていることが大切だ。</p>	

【授業科目】総合科目・人間	「言語活動と人間」
【開講期】前期	【担当者】東・中島・佐々
<b>【授業目標】</b> 東：人間とことば。 中島：文学作品を通して、言語が人と人との関係をどのように作り出しているかを見る。 佐々：生活の中で生きていく言語を扱い、その方向を探れるようにする。	
<b>【テキスト】</b> 東・中島：プリントを使用　佐々：使用しない。適宜プリントを配布する	
<b>【参考書】</b> 東・中島：授業中に紹介する 佐々：筆者の著書『コミュニケーション能力弱者のQOL 援助』ほか	
授　業　計　画	
東→中島→佐々　の順で授業する。  東：次の順で講義する。 (1) 人類の起源と言葉の創造 (2) ことばの役割 (3) ことばの功罪 (4) 「場」の民主性と言語表現 中島：次の順で講義する。 (1) 『ジョイ・ラック・クラブ』に見る、世代間の言語と言語間の強弱 (2) 欲望と権力：『ソフィーの選択』（アウシュヴィッツ） (3) 沈黙と歴史：『ピラウド』（アメリカ黒人奴隷制） (4) まとめとして：作家の言語（『月と六ペンス』） 佐々：計画 (1) ことばの正体を探る (2) 見えないことばを読む (3) ことばを育てる筋道を考える (4) ことばを育むプログラムの検討	
<b>【評価方法】</b> 東：ペーパーテスト（60分）実施（参照可）。 中島：出席点とレポート 佐々：平常点の重視、レポートによる評価	

【授業科目】総合科目・生命	
【開講期】後期	【担当者】明渡陽子・近藤正樹・柳下登
<p>【授業目標】半年間に3人の教員が担当するオムニバス形式の総合科目である。20世紀後半に発展した分子生物学は、従来の生物学・農学・医学を包括した形で生命現象を分子レベルで理解する生命科学を成立させた。この生命科学に、物理・化学的アプローチが加わることで、21世紀に入り、「生命」の概念が大きく変貌しつつある。30数億年前に生まれた生命、その由来から高度科学技術文明が作り出した生命操作に至るまで、地球上に生存してきた「生命」に対する理解を通して、地球に生きる多様な生命の中の一つにすぎない人類の位置づけを考察する。さらに農学・生物学・医学をbackgroundにもつ3人がそれぞれの視点で、21世紀の生命科学の課題を学生諸君と共に考えたい。</p>	
<p>【テキスト】  柳下登：プリントを使用  近藤正樹  明渡陽子：プリントを使用</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】  柳下登：どこまで描ける生物進化 宇佐美正一郎（新日本出版社）生命の塵 植田充美訳（翔泳社）自然の恩恵をひきだすために 柳下登（たたら書房）遺伝子組み換え作物に未来はあるか 柳下登（本の泉社）  近藤正樹  明渡陽子：生命とは何か（岩波新書）</p>	
授 業 計 画	
<p>以下のスケジュールに沿って行う予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命とはなにか：明渡陽子</li> <li>2. 生命の由来（物質の由来・太陽系・地球・生命体）：柳下登</li> <li>3. 地球生物と進化：柳下登</li> <li>4. 地球生物と環境：近藤正樹</li> <li>5. 地球生物と種の保存（自己保存・自己増殖・自動制御）：近藤正樹</li> <li>6. 生命科学の誕生と生命：明渡陽子</li> <li>7. 21世紀の課題：生命はどこへゆくのか。（それぞれの専門分野から）  柳下登  近藤正樹  明渡陽子</li> </ol>	
<p>【評価方法】  柳下登：出席状況と筆記テスト  近藤正樹  明渡陽子：出席状況と筆記テスト</p>	

【授業科目】 現代とヒューマニズムⅠ（近代国家と戦争）	
【開講期】 1年前期	【担当者】 平賀明彦
<p>【授業目標】</p> <p>近代・現代の戦争と平和の問題を通してヒューマニズムについて考える。戦争発生のメカニズムを探る中で、あらためて平和の意味を考える。平和という言葉の定義も含め、平和であるということとはどのような状態を言うのか、また、そうなるためにはどういった取り組みが必要であるかを検討する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>とくに定めない。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>多数あるのでその都度紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>平和の定義と意味を考える上で、まずは、平和的でない状態、平和の対局にあると考えられる戦争の問題を通して検討してみたい。その際、9月11日の同時多発テロ以降の動きを素材に、何故あのような事態が起こったのか、それへの対応として起こされたイラクでの戦争が果たして適切であったのか。暴力の連鎖が何を生み出し、また、私たちの現在と未来に何をもたらすのかを考えてみるのが重要ながかりとなるだろう。</p> <p>現代の戦争や地域紛争の発生原因として民族や宗教の問題、あるいは「文明の対立」といった形で説明されることがあるが、果たしてそのようなとらえ方は妥当であろうか。近代における国民国家の成立やナショナリズム形成の問題は、そういったこととどのような関係があるのかといった点からも検討を深める必要がある。また、戦争のない状態＝平和とは言えず、それ以外にも平和的でない状態を生み出す諸要因がある点も見逃してはならないだろう。</p> <p>戦争を回避し、平和を求める取り組みはこれまでも蓄積され、また今現在も続けられている。近代の平和思想の歴史をふりかえりながら、その足跡を辿り、有効性を検証することも試みたい。</p> <p>以下のような柱立てを考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇同時多発テロは何故起きたかー歴史的経過を探る意味</li> <li>◇報復戦争の意味するものーテロへの対応は「戦争」か</li> <li>◇近・現代の戦争、地域紛争とその原因ー民族、宗教、「文明の対立」を検討する</li> <li>◇国民国家形成とナショナリズムーフランス、イギリス、ドイツ、そして後発国日本の場合</li> <li>◇近代の平和思想の歴史ー『永遠平和のために』、パリ不戦条約の系譜</li> <li>◇不戦への挑戦、その可能性はー日本国憲法、コスタリカの挑戦、国連改革、国家を超える</li> <li>◇構造的暴力の問題ー貧困、飢餓、差別、人権侵害を生み出す社会構造</li> <li>◇平和への課題ー人権・福祉そして平和</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す。授業中に適宜小レポートの提出を求めることがある。</p>	

【授業科目】 現代とヒューマニズムⅡ(消費社会と欲望)	
【開講期】 前期	【担当者】 八田恵子
<p>【授業目標】</p> <p>私たちの日常的な行為である消費を学問として、歴史的な観点から見ていく。それにより大衆消費社会における消費者としての客観的な視点を養いたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に定めない。必要に応じ資料(プリント)を配布する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>私たちは大衆消費社会の中に生きている。大衆消費社会とは一握りの金持ちの好みによりモノが作られ、消費されるのではなく、「豊かな社会」に生きる大衆が大きな購買力(モノを買う力)を持ち、大衆の好みによりモノが大量に生産される社会である。私たち(大衆)は日々の生活の中であれが欲しい、これが欲しいとモノを買っているが、それは果たして本当に欲しいモノなのか。</p> <p>私たちにあるモノを欲しいと思わせる消費のしくみや消費社会の成立、消費革命の進展を時代を追いながら見ていく。</p> <p>その際、手がかりとして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デパートを中心とした流行の創出</li> <li>室内装飾、家具の販売による生活スタイルの商品化</li> <li>食の変化</li> <li>レジャーの広がり 等々の</li> </ul> <p>具体的事例を出来るだけ見て生きたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と学期末の試験あるいはレポートの結果で評価。試験の場合はノート、プリント等参照可。</p>	

【授業科目】現代とヒューマニズム III (科学技術と生命)	
【開講期】前期	【担当者】明渡陽子・柳下登
<p>【授業目標】  高度科学技術文明といわれる現代文明の基盤となっている科学技術は、人間の自然を理解する「科学」という営みから生まれ、その成果を日常の経験世界から広大な宇宙・微細な物質の世界にまで応用しつつ進歩をとげ、それらから人類は多くの恩恵を受けた。しかし同時に、それは地球規模でより多大な問題を引き起こしてきた。この授業では、物理学、生物学、医学などの近代科学と技術が相互に影響し合いながら創り上げた科学技術の過程を知ること、現代文明の一つの横顔の理解を計る。さらに、クローン人間という言葉に代表されるように、人間生命が科学技術の対象となる「生命の技術化」を可能にした現代文明の問題点を探る。</p>	
<p>【テキスト】  柳下登：プリントを使用  明渡陽子：プリントを使用</p>	
<p>【参考書】  柳下登：新編自然科学入門 甲斐義幸(学術図書) 科学の考え方・学び方 池内了(岩波書店)  世界のたね E. ニュート(NHK出版) 未来のたね 左に同じ 遺伝子組み換えに未来はあるか 柳下登ら(本の泉社)  明渡陽子：上記の参考書類の中のどれか。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマに沿って行う予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 私達が生きている高度科学技術文明とはいかなる文明か</li> <li>2. 科学技術はどのように生まれたか(発想・思考の原点)</li> <li>3. 道具や方法はどのように科学技術の発展に寄与したか(発想・思考の作用ベクトル方向)</li> <li>4. 近代科学(天文学・力学などの物理学・数学・生物学・医学など)と科学技術の発展との相互作用</li> <li>5. 近代科学の発展と先端技術—その光と影—</li> <li>6. 人間生命と科学技術のゆくえ</li> </ol>	
<p>【評価方法】  柳下登：出席状況と筆記テスト  明渡陽子：出席状況と筆記テスト</p>	

【授業科目】 人物研究 I [和泉式部]	
【開講期】 後期	【担当者】 久保木 寿子
<p>【授業目標】紫式部に「けしからぬ」所があると評された、和泉式部をとりあげる。  和泉は「あらざらむ此の世のほかの思ひ出に今ひとたびの逢ふこともがな」（百人一首）や「黒髪<small>の</small>乱れも知らずうち伏せば先ずかき遣りし人ぞ恋ひしき」などの歌で知られ、情熱の歌人とか恋多き歌人と言われる平安時代の女性であるが、その和歌の世界は、「恋」にのみ止まらないスケールを持っている。和歌という短詩が持つ可能性や彼女の創作方法について考えたい。またそのテーマと実人生との関わりを問題にしていく。  時代のモラルと苦闘しながらも、冷徹なまなざしで自己の思いを和歌に結晶させていった一人の女性芸術家の軌跡を追い、その現代的な意味を明らかにしていきたい。</p>	
<p>【テキスト】 近藤みゆき 訳注『和泉式部日記』（角川文庫）  他に、プリントを配布</p>	
<p>【参考書】 山中裕 著 人物叢書『和泉式部』吉川弘文館  増田繁夫著 『冥き途—和泉式部伝—』世界文化社  清水好子著 王朝の歌人6『和泉式部 恋歌まんだら』集英社  久保木 著 日本の作家13『実存を見つめる 和泉式部』新典社 ほか</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のようなことをテーマに、講義をしたいと思っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 悪女の評判さまざま  すでに彼女が生きていた頃から、その評判は宜しくはないが、平安以降はどうだったのか。様々な文献から、各時代の人々が思い描いた和泉式部の人物像を見ていく。</li> <li>2. 実人生を辿る  少女期の環境  最初の結婚と破綻  冷泉皇子兄弟との恋愛と死別  後宮出仕  再婚  娘との死別</li> <li>3. 実体験と和歌表現</li> <li>4. 恋歌と死の歌のあわい  恋歌を超える眼差し</li> <li>5. 実存のテーマと方法  和歌の時空  「自己客体視」の方法  連作の方法</li> <li>6. 歌集と日記</li> <li>7. 仏教的心性の問題</li> <li>8. 和泉式部和歌の評価をめぐる問題</li> </ol> <p>* 古文が読めなくても、大丈夫です。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と、毎回のメモを重視。それと定期試験時のレポートによる。</p>	

【授業科目】人物研究Ⅱ〔柳田国男〕	
【開講期】1・2年後期	【担当者】東 喜望
<p>【授業目標】柳田（旧姓・松岡）国男（明治8年—昭和37年）は、貧しい医師の子として、兵庫県神崎郡福山崎町で生まれた。大学を卒業してのち、彼はそれまで問題にもされなかった民衆の生活と文化を調査・研究し、日本民俗学の基礎を築いた。この授業では、柳田の生涯の行跡をたどりながら、激動の「近代」における彼の学問の成果と思想の意義を明らかにしていきたい。</p>	
<p>【テキスト】資料プリント集を配布する。スライド・ビデオ上映。</p>	
<p>【参考書】中村哲『柳田国男の思想』（法政大学出版局刊）・谷川健一『柳田国男の民俗学』（岩波新書）・鹿野政直『近代日本の民間学』（岩波新書）</p>	
授 業 計 画	
<p><u>講義概要</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>生いたち</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本—小さい家」———松岡家の一つの不幸。</li> <li>・利根川畔・布川徳満寺絵馬の衝撃。———経世済民の志。</li> </ul> </li> <li>2. <u>就学と詩人松岡国男</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊良湖山岬への旅と島崎藤村「椰子の実」。</li> </ul> </li> <li>3. <u>民俗学の夜明け</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農政学から民俗学へ —— 『後狩詞記』・『遠野物語』。</li> </ul> </li> <li>4. <u>官界から言論界へ</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅と学問——大正デモクラシーと民衆文化の発掘。</li> </ul> </li> <li>5. <u>日本民俗学の確立</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『海上の道』———壮大なる仮説———日本民族の南方起源説。</li> </ul> </li> <li>6. <u>まとめ</u>——柳田の学問と思想は「近代」を超えることができるか。</li> </ol>	
<p>【評価方法】定期試験時のペーパー・テスト（資料プリント集・ノート・参考書等参照可）</p>	



【授業科目】 人物研究Ⅲ〔有島武郎〕	
【開講期】 後期	【担当者】 栗田廣美
<p>【授業目標】 「時代の中で、誠実に生きようとする」とは、どういうことか。 有島武郎（ありしま・たけお、1878-1923）という人物は、「情熱の芸術家」でもあり、「革命的思想家」でもあるが、それ以前に、時代の現実を深く見詰め、「人間」を圧迫するものと闘い続けようとした「一人の人間」だ。</p> <p>資産家・大農場主の家に生まれながら、やがて、小作人に、無償で農場を解放した有島。自殺未遂の果てにクリスチャンになりながら、やがて「信仰」と訣別した有島。アメリカ留学中も「近代文明」の歪みを見つめ「新たな人間らしい文明」を求めつづけた有島。ロシア革命を擁護しながら、同時に、革命政権の独裁制を厳しく批判し、闘おうとした有島。日露戦争に反対し、朝鮮の植民地化に反対し、諸民族の自由と連帯を希求した有島。</p> <p>こうした闘いの中で孤立し、やがて、夫のある女性との激しい恋愛に命を燃やし、二人で共に自殺すること——「心中」に追い込まれていった有島。</p> <p>有島武郎の遺した日記や手紙、彼が生きた当時の札幌やアメリカ、ヨーロッパの資料、作品や評論を紹介しながら、「誠実に時代の歪みと闘い続けた人間」としての有島武郎を語りたい。</p> <p>我々は、有島の「自殺（心中）＝挫折（玉砕）」を、どうしたら乗り越えることが出来るか、いかにしたら、有島の遺志を継いで「人間を圧迫するもの」と闘うことが出来るか、という問題を考えていければ、と願っている。</p>	
【テキスト】 用いない。必要に応じてプリントを配布する。	
<p>【参考書】 高原二郎著『人と作品・有島武郎』清水書院 刊 栗田廣美著『死と飛躍・有島武郎の青春』右文（ゆうぶん）書院 刊 栗田廣美著『亡命・有島武郎のアメリカ』右文（ゆうぶん）書院 刊 ——本学図書館に何冊か置いてもらう予定。近所の公立図書館にも、どしどし「リクエスト」しよう！</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>おおむね以下のような順序（最大限進んだ場合）を予定しているが、「予定」に縛られるのではなく、可能な限り諸君との（毎回提出の「ポイント・メモ」等を利用した）意見交換を重視しつつ臨機応変に展開し、問題意識が「盛り上がり」きたら、その部分に思い切って集中する等、途中で変更することもある（例えば昨年度は「1の②」に集中し、2～3は割愛した）。</p> <p>大切なことは「知識をまんべんなく獲得する」ことではなく、「有島武郎」という「具体的な人物」の研究を通して、「人間」を考えることであり、以下は、その「様々な切り口」なのだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生い立ちと、札幌での青春       <ol style="list-style-type: none"> <li>①「特権階級の優等生息子」から、いかに「脱出」するか。</li> <li>②「神」と「人間」——自殺未遂とキリスト教入信</li> <li>③「家」と「国家」——反抗と訣別</li> </ol> </li> <li>2 アメリカ・ヨーロッパでの思想形成       <ol style="list-style-type: none"> <li>①「アメリカ＝巨大な近代文明」と「日露戦争」の重圧</li> <li>②キリスト教からの離脱と、個性的な思想の形成</li> <li>③中世ヨーロッパと「自由なコンミュニオン」への憧れ</li> </ol> </li> <li>3 日本での闘いと挫折       <ol style="list-style-type: none"> <li>①芸術・思想・革命・自由      ②農場解放の理想と現実      ③恋愛と死</li> </ol> </li> </ol> <p>◆ 授業中の「私語・内職・よそ見」等厳禁。 ◆ 「実習」や病気・不慮の事態以外は「一度も休まずに出席すること」が大切。 ◆ 「全身全霊で聞き、感じ取り、考えようとする態度」があれば大丈夫（無ければダメ）。 ◎ 「板書」はほとんどしない。「黒板写し型勉強」から脱却しよう。ノートすべきポイント等は授業中に指導するから大丈夫。真面目に出席して、（僕の指摘を受けつつ）ノートをしっかり取って聞いていれば、（予備知識が全く無くても）十分、分かるはずだ。</p>	
<p>【評価方法】 筆記試験（ノート・プリント等、何でも参照可）。講義に基づいて書く形式。しっかりノートをとって、講義を聴いていけば大丈夫。出席点を加味して総合的に評価する。</p>	

【授業科目】 心理学入門Ⅰ〔心のしくみ〕	
【開講期】 1年前期	【担当者】 佐久間路子
<p>【授業目標】</p> <p>心理学は、心に対してさまざまな方向からアプローチする学問である。この授業では心理学の各分野に関して、具体的で身近な例をあげて概説していく。日常生活の中で感じる心の不思議について考え、心のしくみへの理解を深めてもらいたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを配布</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>齊藤勇 『イラストレート心理学入門』 誠信書房      菊池聡・谷口高士・宮元博章編著 『不思議現象なぜ信じるのか：こころの科学入門』 北大路書房      そのほか授業中に適宜指示する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>心理学の各分野に関して、資料、ビデオを用いて概説する。簡単な実験や実習も行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学とは</li> <li>2. 知覚</li> <li>3. 学習・記憶</li> <li>4. 子どものこころの発達</li> <li>5. 青年のこころの発達</li> <li>6. 無意識と深層の心理</li> <li>7. 性格と性格検査</li> <li>8. 臨床心理学とカウンセリング</li> <li>9. 社会心理学</li> <li>10. こころに関する諸問題</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況、小レポート、期末筆記試験をもとに総合的に評価する</p>	

【授業科目】 心理学入門Ⅱ [性格と人間関係]	
【開講期】 教養教育1年前期	【担当者】 林 潔
<p>【授業目標】</p> <p>サブタイトル &lt;性格と人間関係&gt;</p> <p>心理学の領域では、性格心理学と社会心理学の一部にあたります。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>なし</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>随時紹介します。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>いろいろな人がいますね。          同じ事についても受け取り方は、人によってさまざまです。          どうしてなのでしょう。          なぜ人は、その人なりのやり方で行動するようになるのでしょうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 性格は変わるか？</li> <li>2. 行動についての心理学の見方             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 経験を重視する</li> <li>(2) ものの見方を重視する</li> <li>(3) 過去の経験、特に幼児期の経験を重視する                  精神分析の考え方の紹介です。</li> </ol> </li> <li>3. 「血液型と性格」はあたるの？</li> <li>4. 今日の性格についての考え方              体格と性格 内向／外向 心臓疾患と性格 ガンと性格</li> <li>5. 「性格の問題」へのとりくみ</li> <li>6. 人間関係について考える</li> </ol> <p>質問歓迎です。Mailも使ってください。          hayashi@shiraume.ac.jp</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、指定図書レポート、期末試験で評価します。</p>	

【授業科目】 体の不思議	
【開講期】 1年後期	【担当者】 近藤正樹
<p>【授業目標】</p> <p>ヒトの体のしくみについて、構造と機能の両面から解説し、栄養・生殖・行動の法則性を要約する。全体の恒常性・協調性を演出する情報物質（ホルモンや溶解性物質）の濃度や神経（電極パルス）、個体間の交信情報のあり方（言語系交信 視覚系交信 化学物質交信など）にもふれて、「体」といわれる独立体が持つ総合性・統一性に一層関心をもってもらう。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用せず</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業中に紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1. 生命の最小単位が持っている不思議 細胞の構造と細胞内器官の構造——その役割 極限まで単純化された細胞——寄生に見られた退化のみちすじ、結晶体とまでいわれる生物「生物」の概念</p> <p>2. 体を構成している部品の構造と機能 栄養系器官の構造と機能——肥満と生長——老化 生殖系器官の構造と機能——性の分化と子孫繁栄 神経・筋の構造と機能——感覚と認知と行動</p> <p>3. 外界からのしげきとその受容 温度に対する体の反応——定温動物と変態生物 明るさに対する体の反応——前経験のわざわい、光周性と体内時計 受容器にも全体区と地方区がある だまされる受容器</p> <p>4. 異物侵入に対する防衛 異物をすてる 異物を分解する 異物を借用する 異物をとじこめる アレルギーと免疫 人体に有害な物質と濃度——人間はどこまで体をだませるか</p> <p>5. 生殖の不思議 細胞の若返り 卵の不思議・精子の不思議 性行動は本来備わっているものなのか 意志のいたずら</p> <p>6. 交信 言語 シンボルによる交信 表情 筋肉反応による交信 フェロモン 化学物質による交信</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>持込不可のペーパーテストを行なう。一章ごとにまとめておく（復習）が大切</p>	

【授業科目】 生物の世界と人間	
【開講期】 1年前期	【担当者】 近藤正樹
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>人間は生き物（生物）の一種にすぎません。パスカル（哲学者）が言ったように「考える」ことのできる生物です。生物としての共通点とヒト（生物の一種）としての特異点を再確認した上で私たち「人間」の生き方を見直していくことを主な目標としています。その中で科学的な考え方、態度にふれて頭の使い方の練習（思考訓練）も上達するようにします。</p>	
<p><b>【テキスト】</b> なし</p>	
<p><b>【参考書】</b> なし</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1. 生物と無生物 気体の世界、流体の世界、流体という考え方、固体と結晶、ポーリング説を展開して</p> <p>2. 生物の紀元 ①流体の中での変性、高分子化への道、solとgel、表面膜の特化 ②単純から複雑へ、未分化から分化へ、発達と退化</p> <p>3. 生物の種類と分類 分類すること、系統分類法、世界共通の名称（学名）世界で繁栄した生物とその原因</p> <p>4. 個体維持と種族維持</p> <p>5. 集団（個体群）としての人間集団</p> <p>6. 集団（群集）の中の人間の位置と役割</p> <p>7. 昆虫の社会と高等動物の社会</p> <p>8. 動物の社会と人間の社会</p> <p>9. 「考える」動物としての長所と限界</p> <p>10. 人間はこれから何を努力しなければならないか</p>	
<p><b>【評価方法】</b> レポートと定期試験</p>	

【授業科目】 人間と環境	
【開講期】 後 期	【担当者】 吉川 研二
<p>【授業目標】</p> <p>35億年前の海の中で最初の原始生物が誕生したといわれている。以後、地球環境の全体システムは、様々な生物と密接に関係しながらいく度かの大変革を経て現在の姿を作りあげてきた。私たち人間を含めた地球上のあらゆる生物は、周囲の大気や水や土壌といった環境と微妙な均衡を保ちながら生活しているのである。</p> <p>様々な環境汚染、自然破壊、種の消滅などは、このシステム全体の単純化につながり、ヒトの生存をも危うくする。私たちひとりひとりの生活のあり方が問われている。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントなど</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業中に適宜紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宇宙の中の地球 宇宙のこと 銀河系のこと 太陽系のこと そして地球</li> <li>2. 地球環境の変遷 原始地球の姿 生命の誕生 生物の進化と地球環境</li> <li>3. 地球環境系と生命 生命を育む天体地球 地球を作る物質 太陽エネルギー 大気の働き 水の働き 二酸化炭素やオゾンなど化学物質の働き</li> <li>4. 生態系の構造と機能 生態系とは 非生物的要素と生物の群集 物質の循環とエネルギーの流れ</li> <li>5. 地球環境悪化と生態系 地球温暖化 温室効果ガス・温暖化の影響 森林の現象 熱帯雨林の破壊と生物の多様性の崩壊 様々な人工化学物質の氾濫 環境ホルモン 水の汚染・大気の汚染・土壌の汚染 オゾン層の破壊 紫外線と生物</li> <li>6. 生活の中の環境問題 資源 消費 廃棄 自然生態系でのリサイクル 人工生態系でのリサイクル</li> <li>7. ふたつのエコ 環境倫理</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点＋期末筆記試験</p>	

【授業科目】 生と死を考える	
【開講期】 前期	【担当者】 嶋根 久子
<p>【授業目標】</p> <p>人は自分の死ばかりでなく、近しい人の死に直面したときにも、生きているという実感を一層強く持つといわれています。しかしながら、核家族化の進行や、寿命の飛躍的な伸び、加えて死を病院で迎えることが多くなった昨今、われわれは死を身近に体験する機会が非常に減少しています。したがって、この授業では、人のもつ「追体験」という能力をフルに活用して、より充実した生を目指して、さまざまな角度からしについて考えてみたいと思います。</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr/> <p>【参考書】『死ぬ瞬間』キュープラ・ロス著、読売新聞社、『生と死を考える』A・デーケン著、春秋社、『死の社会学』副田義也編、岩波書店、『現代、死にふれて生きる』リフトン、有信社</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1 死を年代別に見る。 ①子供の死、②青年期の死、③壮年期の死、④高齢者の死</p> <p>2 死の諸相 ①病死、②事故死、③災害に於ける死、④自死、⑤自然死</p> <p>3 家族と看護、あるいは死の看取り。 ①死の諸相による家族への影響、②子供の死、③親の死、④高齢者の死、⑤配偶者の死</p> <p>4 死者の年代別にみた、残される家族の問題。 ①配偶者の死、②子供の死、③親の死</p> <p>5 死の受容の諸形態。 ①死にゆく人、②残された家族</p> <p>以上のテーマについて、より一層の理解を深めることを目的として、視聴覚教材を援用しながら、講義を進める。</p>	
<p>【評価方法】小さなレポートを4回、中間期(5月)と試験時期に本を読んでレポートを提出。それらを合計して評価する。</p>	

【授業科目】 人間の生と性	
【開講期】 1・2年 後期	【担当者】 関口久志
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>ジェンダー（社会的文化的性）や旧来の規範にとらわれて呪縛から逃れられない日本の性の現状を考え、80年代の市場経済万能論の台頭により消費目的化される性の問題から現代日本社会を照射することで、ジェンダーや規範を乗り越え、男女と性的マイノリティー（同性愛者、性同一性障害等）も含め自己の性的アイデンティティーを肯定的に受け止め、誰もが対等平等に、安全と安心のための行動選択ができる自己決定力を身につける性教育を探る。</p>	
<p><b>【テキスト】</b></p> <p>村瀬幸浩著 「ニューセクソロジーノート」十学舎</p>	
<p><b>【参考書】</b></p> <p>関口久志他共著 「日本の男はどこに来て、どこへ行くのか」十学舎</p> <p>関口久志他共著 「ジェンダーフリー・性教育バッシングそこが知りたい50のQ&amp;A」大月書店</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 性の疑問・悩みを出し合う。</li> <li>2. 性の多様性、生物的性（セックス）とジェンダー、性的指向。</li> <li>3. 性別役割論によってつくられてきた男らしさ女らしさと性的関係。</li> <li>4. 現代若者の性行動を性感染症と人工妊娠中絶の増加等から考える。</li> <li>5. 安心と安全の関係づくりを避妊と性感染予防から考える。</li> <li>6. 男性優位の行為としてのレイプ、セクハラ、性的暴力を考える。</li> <li>7. 買春と売春行為を考える。</li> <li>8. 性的マイノリティーを通して、性の普遍性と多様性から現代社会を考える。</li> <li>9. コミュニケーションとしての性を考える。</li> <li>10. メディアとジェンダー形成、特に男性形成を考える。</li> <li>11. 戦争文化とジェンダー形成を考える。</li> <li>12. 講義のまとめ。</li> </ol>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>出席時数と毎回の意見・感想文 および 最終レポート</p>	



【授業科目】生活と健康	
【開講期】後期	【担当者】明渡陽子
<p>【授業目標】</p> <p>健康の概念理解と健康であることの意義（個人のレベル・社会の一員としてのレベルなどで）を考える。さらに、加齢と言う生理現象を背景として、一生健康である（健康維持・健康増進）ために必要な知識の習得と健康な生活設計の方法の習得をめざす。また、最近の健康問題についても、その背景・原因の理解とその対策を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>栄養、健康科学シリーズ 健康管理概論（南江堂）とプリントを使用</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下の内容についての講義を行う予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の概念 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 健康の定義</li> <li>② 個人・集団の健康指標</li> <li>③ 健康成立条件（vs 疾病とは＝疾病の成り立ちと疾病予防の段階・対策など）</li> </ol> </li> <li>2. 高齢社会とわが国の健康水準</li> <li>3. 最近の健康問題 <ol style="list-style-type: none"> <li>①生活習慣病（癌・脳血管障害・虚血性心疾患・糖尿病など）</li> <li>②アレルギー疾患</li> <li>③その他（エイズ・狂牛病・環境ホルモン・フロンとオゾン層の破壊・精神ストレス問題等）</li> </ol> </li> <li>4. 健康管理法（健康生活設計法の習得） <ol style="list-style-type: none"> <li>① 食事</li> <li>② 運動</li> <li>③ 休養とストレス</li> <li>④ 飲酒・喫煙の健康への影響について</li> </ol> </li> <li>5. 女性の医学（加齢と性機能・月経のしくみとホルモン・性病などの主な婦人科疾患の理解・人工妊娠中絶と避妊について）</li> <li>6. わが国の保健医療体制</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と筆記テスト</p>	

【授業科目】 教養体育（実技）	バレーボール
【開講期】 1年前期	【担当者】 村田 務
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>身体運動やスポーツの体験を通して、自らの身体を実感的に意識できるようにするとともに、健康に関する認識や体力を高めて「健やかに生きる基盤」を形成する。</p>	
<p><b>【テキスト】</b> 特に用いない</p>	
<p><b>【参考書】</b> 西川 順之助：バレーボール、成美堂、1995年。 日本バレーボール協会：バレーボール・ルールブック、2004年度版</p>	
<p><b>授 業 計 画</b></p>	
<p>科学技術の進歩や経済の成長、社会構造の変化に伴い、運動の不足や食行動の偏り、精神的ストレスの増加など、健康に悪影響を及ぼす様々な問題が生じている。このような状況の中で、注目されているのが生涯体育（運動及びスポーツ）である。</p> <p>適切な身体活動は、疾病の予防や健康増進に寄与するだけでなく、生き甲斐や自己の確立など質的な生活の向上を可能にする。教材として用いる「バレーボール」は、場所や設備、体力的側面からみて、比較的容易に継続して活動することが可能なスポーツである。</p> <p>教養体育（実技）の授業では、これらの観点から将来にわたってスポーツや身体運動が継続できるように、充実感の得られる授業、技術の向上がわかる授業、自らが活動し創り出す授業をめざす。</p> <p><u>バレーボール</u></p> <p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人的技能：パスとトス、サーブとレシーブ、スパイクとブロッキング</li> <li>・ 集団的技能：攻めと守りのフォーメーション、トスゲーム、3段攻撃、ルール作り</li> <li>・ 指導技術：技術指導法、体力トレーニング法、審判法</li> </ul> <p>授業の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体活動：共通課題の解決</li> <li>・ チーム活動：班別課題の練習と解決、指導法、練習法の習得</li> <li>・ ゲーム：練習成果の確認、新しい課題の発見、審判法の習得</li> </ul>	
<p><b>【評価方法】</b> 平常試験（平常点、実技等）。活動意欲と参加体験（授業出席）を重視する。</p>	

【授業科目】 教養体育(実技)	エアロビクス&フィットネス
【開講期】 前期	【担当者】 松村朋子
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座の目的は、運動不足の解消や運動機能の向上をはかり、健康で美しい身体をつくることである。また、楽しみながら運動すること体験してほしい。</li> <li>・エアロビクダンスでは、ダンスの基本的な運動を中心に身体を動かし、最終的には動きのプログラムの習得と発表を行う。また、ストレッチによって柔軟性を高め、身軽に動けることができるようになる。</li> </ul>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用しない。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>使用しない。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1、ウォーミングアップ</p> <p>身体を温め、ストレッチによる準備体操を行う。 からだ全体を使って、自由に運動できるように柔軟性を高める。 普段あまり使わない筋肉を意識的に動かす。</p> <p>2、基本コンビネーション</p> <p>スキップ、ツーステップ、ターンなど基本的な動きを使った短いコンビネーションを習得する。 簡単な動きを覚えて、繰り返しの動きの楽しさを体験し、リズム感を養う。</p> <p>3、ダンスプログラムの習得</p> <p>コンビネーションを組み合わせて構成された動き(2分程度)を覚える。</p> <p>4、グループでの動きの構成と実演</p> <p>習得した動きをグループで構成して発表する。 最後の授業にてビデオ撮影を行い、クラスで鑑賞する。</p> <p>*運動可能な服装・シューズで授業に出席すること。床を引きずるようなトレパンは不可。 髪の毛はゴムで結ぶ。アクセサリ類ははずす。</p>	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席-開講総時数の 3 分の 2 以上の出席を評価する。</li> <li>・遅刻-開始 30 分までを遅刻。それ以後を欠席とする。</li> <li>・早退-開始後 60 分を過ぎてから帰る場合を早退。それ以前を欠席とする。</li> <li>・遅刻、早退は 3 回で欠席 1 回とみなす。</li> <li>・見学という扱いはない。病気の場合は欠席。怪我でも来られるならば、他の部位を使って参加できると考える。慢性の病気の場合はこちらで検討する。</li> </ul>	

【授業科目】教養体育（実技）	テニス
【開講期】前期	【担当者】岡田光弘
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>テニスについて学習し、実践していくことで、テニスを身体化された「文化資本」とし、今後の社会生活に於いて「健やかに生きるための基盤」をえることを目標にする。</p> <p>自分たちが、練習の計画を立て、自分たちだけでスムーズにゲームが進められるよう、以下のような技術について学んでいく。</p>	
<p><b>【テキスト】</b></p> <p>特に指定しない</p>	
<p>-----</p> <p><b>【参考書】</b></p> <p>特に指定しない</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>自分たちが、練習の計画を立て、自分たちだけでスムーズにゲームが進められるよう、以下のような技術について順に学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ボール、ラケットになれる。</li> <li>2) フォアハンド・ボレー</li> <li>3) バックハンド・ボレー</li> <li>4) フォアハンド・ストローク</li> <li>5) バックハンド・ストローク</li> <li>6) サービス/レシーブ</li> </ol> <p>以後、これらの技術を以下のような手順で深めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7) ドリル形式の分習法による練習</li> <li>8) 試合形式の全習法による練習</li> <li>9) 球出し練習と打ち合いによる練習</li> <li>10) ルールの確認</li> </ol>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>出席を重視する。知識の獲得、技術の進歩、積極的、協調的な態度を評価する。</p>	

【授業科目】 教養体育（講義）	
【開講期】 後期	【担当者】 岡田光弘
<p>【授業目標】</p> <p>現代社会におけるスポーツの意義、健康・体力づくりのための基礎知識について学習していくことで「健やかに生きるための基盤」について理解を深めることを目標にする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「現代メディアスポーツ論」 世界思想社</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p> <p>「スポーツ学のみかた」 朝日出版社</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のトピックについて順に、映像資料を用いて提示し、ともに考えてもらう。</p> <p>①テクノロジーの進歩とスポーツ科学  ②健康問題としてのドーピング  ③生涯スポーツと障害者スポーツ  ④現代社会とスポーツの商業化  ⑤見るスポーツと参加するスポーツ  etc.</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点、定期試験</p>	

【授業科目】	外国語 I	(英語)
【開講期】	2004年度 前期	【担当者】 磯山 滯一
【授業目標】	<p>次の3点を目標にします。</p> <p>(1) 英語のニュースを聞いて聞く力をのぼす。</p> <p>(2) 比較的短くて平易な英文を読み読む力をのぼすとともに、英語の文法・構文の基本を習得する。</p> <p>(3) 学習した英文などを活用して自分のことを表現できるようにする。</p>	
【テキスト】	プリントを使用します。事前に配布するので予習を。	
【参考書】	<p>たのしい英文法 林野滋樹著 三友社出版</p>	
授 業 計 画		
<p>(1) 英語ニュース</p> <p>NHKの夜7時または10時のニュースの英語放送を用いて聞く力をのぼします。内容が最近起こったことなので分かりやすく、リスニングの練習に適したものです。</p> <p>(2) 読むことと文法・構文の学習</p> <p>アメリカの人生相談のコラム、皆さんの先輩が書いた英文、やさしい新聞記事などを用いて、読む力をのぼすと同時に、英文の構造理解や表現に役くだてるようにします。</p> <p>次のようなテーマをとりあげます。</p> <p>1. 自己紹介    2. 家族    3. 趣味    4. 学校生活    5. いじめ</p> <p>6. 幼稚園実習    7. 選択的夫婦別姓    8. 小子化</p> <p>構文・文法については、単文、重文、複文、従属節と従属節の中の従属節など文全体の構造を把握することを中心とします。</p> <p>(3) 英文自己表現</p> <p>テキストや先輩の書いた英文を参考に毎回3～5文程度の英文で自分のことを表現する練習をします。幼稚園実習の前には、テキストとして先輩たちの書いた英文を学習し、実習後に皆さんの体験を10～15文程度の英文で書く練習をします。</p>		
【評価方法】	テスト、小レポート、出席状況を総合して評価します。	

【授業科目】 外国語 I	(英語)
【開講期】 1 年前期	【担当者】 スワン・W・ローレンス
<p>【授業目標】</p> <p>このクラスでは、学生がすでに習った文法、言葉の知識を土台にして会話が進められるように指導していく</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>ありません</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>ありません</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>いろいろな分野で使われる言葉の練習もする。このクラスでは英語を使ってのコミュニケーションに重点をおき、文法にはそれほど力点を置かない。話したり、聞いたりする力を身に付けさせるために、対話の練習、スキットを作り、おぼえ、そのあと演じてもらう。</p> <p>以下のような項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. friendly greetings</li> <li>2. making choices</li> </ol> <p>注：<u>このクラスを取る学生は全部のクラスに出席すること。欠席・遅刻については厳しく取り扱う。</u></p>	
<p>【評価方法】</p> <p>成績の基準はクラスで（ドラマ作り）とれだけ積極的に参加したかに基づいて付ける。</p>	

【授業科目】 外国語 I	(英語)
【開講期】 前期	【担当者】 清野 茂子
<p>【授業目標】</p> <p>英語教材という視点から保育の現場を見つめ、具体的な場面を学習しながら「読む、聞く、話す」、そして「書く」ことが自然に出来るようになることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>保育の英語 (三修社) ￥1,650</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>* 各章を1回で終了するスピードで進めます。</p> <p>* 授業を受ける前に、自分なりに内容を理解しておくこと。</p> <p>* Hearing の練習も補足します。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常の授業態度、出席日数、期末テスト全てを総合します。</p>	



【授業科目】 外国語 I	(英語)
【開講期】 1 年前期	【担当者】 富澤典子
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護、福祉の分野のトピックを英語で読む。</li> <li>2. 介護、福祉、医療の分野での一般的話題の理解。</li> <li>3. 読解力だけでなく、聴解力の向上を図る。</li> <li>4. 医療、福祉関連の語彙の習得。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">Tender Loving Care 『介護医療の心得』 南雲堂</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一回の授業で一章進む予定です。以下のような話題が含まれています。 高齢者問題、介護保険、心のケア、音楽療法、自立支援サービス、尊厳死など。</li> <li>2. 語彙習得のため、まずは、辞書を引く習慣を身に着けます。</li> <li>3. 各章でのエッセイを読みそして聴くことで、読解と聴解の力をつけます。</li> <li>4. 介護、福祉の場での問題点を理解し、実際に自分がその問題に直面したとすればどうするか、 討論する場も設けたいと思っています。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況、授業態度、定期試験の 3 点で評価します。</p>	

【授業科目】 外国語Ⅰ	英語
【開講期】 前期	【担当者】 藤田久美子
<p>【授業目標】          近い将来 保育者として直接に園児及び保護者に接する学生達に          して、興味深く、実際に役立つ様な場面での英語表現を          学んでほしいと思ふ。</p>	
<p>【テキスト】          ①「保育の英語」(三修社) ②Hyper Listening (桐原書店)</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>このクラスで主に使っていく「保育の英語」は、ある保育園での          様な場面を扱った短い話を柱として、毎日の生活で使われる          単語や表現を勉強できるように心がけている。卒業後あくに          保育者として仕事に就く学生達には、適当な教材であろうと          思うので、熱心にまた楽しく取り組んでもらいたい。</p> <p>なるべく1回の授業で1つのユニットを終えたいので、          学生はそれぞれの物語を事前によく読み、単語等          分からない所は調べて授業に臨んでほしい。</p> <p>また、「リスニング」のテキストを使って聞き取りの力もつけてい          たい。さらに、出来るだけ、英語の優れた歌や童話を紹介し、          その意味を確認し、英語の表現と響きの美しさを味わってもら          う機会も持たせたいと思っている。</p>	
<p>【評価方法】 出席状況、平常の練習問題の結果、及び学期末          テストの結果を総合して評価する。</p>	

【授業科目】 外国語 I	中国語
【開講期】 1 年前期	【担当者】 陳 志華
<p><b>【授業目標】</b>  この授業の目標は、①中国語の発音、②中国語の基礎文法、を身につけることである。</p>	
<p><b>【テキスト】</b>  方如偉・王智新・鏡屋一著『新版 中国語 10 課』白水社</p>	
<p>-----</p> <p><b>【参考書】</b>  必要に応じて紹介する。</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>1、中国語の発音の基本を学習する。</p> <p>2、簡単な日常会話を基礎とした内容を反復しながら、中国語の基礎文法や対話練習を積み重ねていく。</p>	
<p><b>【評価方法】</b>  平常点（出席、小テスト）と期末テストで評価する。</p>	

【授業科目】外国語 I	フランス語
【開講期】前期	【担当者】森佳子
<p><b>【授業目標】</b>  フランス語にふれることで、フランスの文化を知り、将来フランス語を習得したいと思うきっかけになればと考えている。また、日本語とは違う表現方法を知ること、なぜそうなるのか、モノを考えることのできる人を育成したい。  I では、まず発音に慣れてもらうこと、名詞にすべて性別があることを理解するまでを目標とする。</p>	
<p><b>【テキスト】</b>  モン フランセ （数藤ゆきえ、酒井由紀代著 駿河台出版社）</p>	
<p><b>【参考書】</b></p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>①発音（アルファベの読み方、発音と発音記号を一致させる）  ②名詞について（男性名詞と女性名詞、単数と複数、不定冠詞、定冠詞、部分冠詞）  ③形容詞について（形容詞の性数は主語と一致する、形容詞の位置、指示形容詞、所有形容詞）  ④動詞の使い方（8 つの主語について、動詞は主語に応じて変化する、動詞 être の現在形、動詞 avoir の現在形）  ⑤質問のしかた（疑問文の作り方、否定文の作り方、前置詞と定冠詞の縮約）  ⑥規則動詞の使い方（er 動詞の現在形、ir 動詞の現在形、代名動詞の現在形）</p> <p>この他、数字（0-20）を適宜覚える  各項目、2、3 回程度の授業で終えることを目標とする</p>	
<p><b>【評価方法】</b>  定期試験、提出物、小テスト、出席</p>	

【授業科目】外国語Ⅰ	ドイツ語
【開講期】1年前期	【担当者】濱野 英巳
<b>【授業目標】</b> ドイツ語はドイツのみならず、永世中立国のスイスや音楽の都ウィーンを首都に持つオーストリアといった様々な国で話されている言葉である。ほとんどの履修者にとって未知の言葉であろうドイツ語だが、文法の説明は必要最小限にとどめ、何よりもまずドイツ語に触れ、そしてドイツ文化に触れることを目標としたい。これからグローバル化社会を迎えるにあたり、英語以外の外国語を併せて学ぶことは、客観的な視点を持つという意味において非常に有効であろう。	
<b>【テキスト】</b> 清野智昭著「ドイツ語の時間〈文法編〉」(朝日出版社)	
<b>【参考書】</b> 開講時に指示する。	
<b>授 業 計 画</b>	
毎回90分の授業で、読み・聞き取りの練習、文法の学習などを行い、さらにCDやコピーを利用した様々なトピックの紹介、受講者全員でのディスカッションなどによって、ドイツ語・ドイツ文化への理解を深める。詳しくは以下の通り。	
1. 読み・聞き取りの練習—最初は教科書を中心に一人一人のチェックを行うが、徐々に歌詞や詩などを教材にして、グループで練習を行えるようにする。	
2. 文法の学習—必要最小限の文法事項を頭に入れた後は、課題の進展度合いに応じて徐々に説明を加えて行く。与えられた文法ではなく、自ら文法を発見するという姿勢が重要。	
3. トピックの紹介—文学、音楽、料理、玩具…といった様々なトピックを紹介する。履修者の興味や問題意識によって内容の変更もあり得る。	
4. ディスカッション—各自がインターネットなどで発見したドイツに関するトピックを紹介し合い、ディスカッションをすることで興味の範疇を広げ、問題意識を深めて行く。	
<b>【評価方法】</b> 出席点、授業中の質疑応答など、小テストの成績を総合して評価する。また「良い質問」には別途プラスα点を考慮することもある。	

【授業科目】	外国語 II	(英語)
【開講期】	2004年度 後期	【担当者】 磯山 滯一
【授業目標】	<p>前期講座に引きつづき次の3点を目標にします。</p> <p>(1) 英語のニュースを聞いて聞く力をのばす。</p> <p>(2) 比較的短くて平易な英文を読んで読む力をのばすとともに、英語の文法・構文の基本を習得する。</p> <p>(3) 学習した英文などを活用して自分のことを表現できるようにする。</p>	
【テキスト】	プリントを使用します。事前に配布するので予習を。	
【参考書】	「やさしい英字新聞入門」 天満美智子, エリック・ベレトン 共著 岩波ジュニア新書	
授 業 計 画		
<p>(1) 英語ニュース</p> <p>NHKの夜7時または10時のニュースの英語放送を用いて聞く力をのばします。後半には、アメリカのABC, CNN, イギリスのBBCなどのニュースも用います。</p> <p>(2) 読むことと文法・構文の学習</p> <p>アメリカの人生相談のコラム, 皆さんの先輩が書いた英文, やさしい新聞記事などを用いて, 読む力をのばすと同時に, 英文の構造理解や表現に役くだてるようにします。後期は新聞記事を多くします。次のようなテーマをとりあげます。</p> <p>1. 日本の祝祭日    2. 台風・気象    3. 共働き    4. 公害 5. 死刑廃止問題    6. 保育園実習    7. 成人の日</p> <p>構文・文法については, 前期に学習した単文, 重文, 複文, 従属節, 従属節の中の従属節など文全体の構造を把握に加えて, 時事的な英文を読むのに必要な後置修飾語句, 分詞構文, 仮定法などを学習します。</p> <p>(3) 英文自己表現</p> <p>テキストや先輩の書いた英文を参考に毎回英文を書く練習をします。自分の考え, 経験などのほかに出来るだけ社会的なテーマで書くようにします。保育園実習についての感想を文集にします。</p>		
【評価方法】	テスト, 小レポート, 出席状況を総合して評価します。	

【授業科目】 外国語Ⅱ	(英語)
【開講期】 1年後期	【担当者】 スワン・W・ローレンス
<p>【授業目標】</p> <p>このクラスでは、学生がすでに習った文法、言葉の知識を土台にして会話が進められるように指導していく</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>ありません</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>ありません</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>いろいろな分野で使われる言葉の練習もする。このクラスでは英語を使ってのコミュニケーションに重点をおき、文法にはそれほど力点を置かない。話したり、聞いたりする力を身に付けさせるために、対話の練習、スキットを作り、おぼえ、そのあと演じてもらう。</p> <p>以下のような項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. misplacing and looking for things</li> <li>2. talking about accidents</li> </ol> <p>注：<u>このクラスを取る学生は全部のクラスに出席すること。欠席・遅刻については厳しく取り扱う。</u></p>	
<p>【評価方法】</p> <p>成績の基準はクラスで（ドラマ作り）とれだけ積極的に参加したかに基づいて付ける。</p>	

【授業科目】 外国語 II	(英語)
【開講期】 後期	【担当者】 清野 茂子
<p>【授業目標】</p> <p>英語教材という視点から保育の現場を見つめ、具体的な場面を学習しながら「読む、聞く、話す」、そして「書く」ことが自然に出来るようになることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>保育の英語 (三修社) ￥1,650</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>* 前期に引き続き、同じスタイルで進めます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常の授業態度、出席日数、期末テスト 全てを総合します。</p>	



【授業科目】 外国語Ⅱ	(英語)
【開講期】 1年後期	【担当者】 富澤典子
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康に関するエッセイを読み、大意を読み取る英語読解力をつける。</li> <li>2. テクストを通じ、心身の健康に関する話題に興味を持たせる。</li> <li>3. エッセイ読解、聴解の練習を通じ、前期に習得した語彙の定着を図る。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">予定：Healthy Living 『これからの健康』 南雲堂</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一回の授業で一つのエッセイを読む。</li> <li>2. 授業は、聴解、読解、問題の順序で進め、エッセイの内容把握後に、主題について討論する方式を進める。</li> <li>3. 定期試験で各エッセイの内容把握度をチェックする。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況、授業態度、定期試験をもとに、前期、後期の総合で評価する。</p>	

【授業科目】 外国語 Ⅱ	英語
【開講期】 後期	【担当者】 藤田久美子
<p>【授業目標】</p> <p>近い将来保育者として直接に園児及び保護者に向き合う学生達にとって、興味深く、実際に役立つ様な場面での英語表現を学んでほしいと思ふ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>①「保育の英語」(三修社) ②Hyper Listening (桐原書店)</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>このクラスで主に使っていく「保育の英語」は、ある保育園の様子の場面を扱った短い話を中心として、毎日の生活で使われる単語や表現を勉強できるように心がけている。卒業後必ず保育者として仕事に就く学生達には、適当な教材であろうと思ふので、熱心にまた楽しく取り組んでもらいたい。</p> <p>なるべく1回の授業で1つのユニットを終えたいので、学生は各ユニットの物語を事前によく読み、語句等分らない所は調べて授業に臨んでほしい。</p> <p>また、リスニングのテキストを使って聞き取りの力もつけたらいいと思ふ。さらに、出来るだけ、英語の優れた歌や童話を紹介し、その意味を把握し、英語の表現と響きの美しさを味わってもらい機会も持たせたいと思っている。</p>	
<p>【評価方法】 出席状況、平常の練習問題の結果、及び学期末テストの結果を総合して評価する。</p>	

【授業科目】 外国語Ⅱ	中国語
【開講期】 1年後期	【担当者】 陳 志華
<p>【授業目標】</p> <p>この授業の目標は、①中国語の基本文法の理解力、②中国語の会話能力をさらに高めることである。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>方如偉・王智新・鐙屋一著『新版 中国語10課』白水社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>必要に応じて紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1、中国語の会話能力と基本文法を習得する。</p> <p>2、中国文化及び急激に変化している中国民衆生活の実態を学びながら、中国語の教養を深める。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（出席、小テスト）と期末テストで評価する。</p>	

【授業科目】 外国語Ⅱ	フランス語
【開講期】 後期	【担当者】 森佳子
<p>【授業目標】</p> <p>前期同様、フランス語にふれることで、フランスの文化を知り、将来フランス語を習得したいと思うきっかけになればと考えている。また、日本語とは違う表現方法を知ること、なぜそうなるのか、モノを考えることのできる人を育成したい。</p> <p>Ⅱでは、Ⅰで学習したことをふまえ、言いたい事をフランス語で表現できるようになることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>モン フランセ （数藤ゆきえ、酒井由紀代著 駿河台出版社）</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>①不規則動詞について（aller 行く と venir 来る の現在形、近い未来と近い過去の作り方、他の不規則動詞）</p> <p>②複合過去形について（複合過去とは、avoir を使うタイプ、 être を使うタイプ、代名動詞を複合過去にするには）</p> <p>③未来形について（単純未来形とはなにか、前未来形とはなにか）</p> <p>④質問のしかた（疑問副詞—いつ・どこ・どのように・なぜ、疑問代名詞—だれが・なにを、疑問代名詞—どれ・だれ、疑問形容詞—どんな・なんの、非人称構文—天候・時間</p> <p>⑤比較について（比較級とは、最上級とは、特殊な形について）</p> <p>この他、数字（20-1000）を適宜覚える</p> <p>各項目、3回程度の授業で終えることを目標とする</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験、提出物、小テスト、出席</p>	

【授業科目】 外国語Ⅱ	ドイツ語
【開講期】 1年後期	【担当者】 濱野 英巳
<p>【授業目標】</p> <p>ドイツ語はドイツのみならず、永世中立国のスイスや音楽の都ウィーンを首都に持つオーストリアといった様々な国で話されている言葉である。ほとんどの履修者にとって未知の言葉であろうドイツ語だが、文法の説明は必要最小限にとどめ、何よりもまずドイツ語に触れ、そしてドイツ文化に触れることを目標としたい。これからグローバル化社会を迎えるにあたり、英語以外の外国語を併せて学ぶことは、客観的な視点を持つという意味において非常に有効であろう。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>清野智昭著「ドイツ語の時間〈文法編〉」(朝日出版社)</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>開講時に指示する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>毎回90分の授業で、読み・聞き取りの練習、文法の学習などを行い、さらにCDやコピーを利用しての様々なトピックの紹介、受講者全員でのディスカッションなどによって、ドイツ語・ドイツ文化への理解を深める。詳しくは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読み・聞き取りの練習——最初は教科書を中心に一人一人のチェックを行うが、徐々に歌詞や詩などを教材にして、グループで練習を行えるようにする。</li> <li>2. 文法の学習——必要最小限の文法事項を頭に入れた後は、課題の進展度合いに応じて徐々に説明を加えて行く。与えられた文法ではなく、自ら文法を発見するという姿勢が重要。</li> <li>3. トピックの紹介——文学、音楽、料理、玩具…といった様々なトピックを紹介する。履修者の興味や問題意識によって内容の変更もあり得る。</li> <li>4. ディスカッション——各自がインターネットなどで発見したドイツに関するトピックを紹介し合い、ディスカッションをすることで興味の範疇を広げ、問題意識を深めて行く。</li> </ol> <p>注：「外国語Ⅱ(ドイツ語)」は、「外国語Ⅰ(ドイツ語)」の単位取得者か、相応のドイツ語力を有する者のみ履修可能。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点、授業中の質疑応答など、小テストの成績を総合して評価する。また「良い質問」には別途プラスα点を考慮することもある。</p>	

【授業科目】 海外語学研修	
【開講期】 1年 2年 前期&夏期集中	【担当者】 中島 好伸
<p>【授業目標】</p> <p>3週間イギリスでホームステイしながら、現地の大学語学センターによる授業を受け、ナマの英語に触れながら、英語運用能力を高める。さらに、英語文化圏の生活に触れることによって英語という言葉の背後にある文化を吸収し、英語を総合的に理解する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>必要に応じて指示する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>この授業の柱は、8月5日成田出発—8月30日帰国の、イギリス滞在にある。  が、前期において、パスポートの取得から現地での生活に関する基礎講義、および簡単な英会話などを事前指導として5回行うことを含む。</p> <p>柱の部分の語学研修は、イギリスのリーズ市にあるリーズ。メトロポリタン大学語学センターが提供する研修(午前2コマの英語の授業)に3週間参加し、滞在はホームステイ。平日の午後はさまざまな課外授業が用意され、世界から集まってきている学生たちと、スポーツや映画鑑賞、町でのショッピングなどもできる。さらに、中世の趣を残したヨークという街や、文豪ブロンテ姉妹(「ジェーン・エア」「嵐が丘」などで有名)の暮らしたハワースなどへの遠足も実施する。</p> <p>大まかな日程は以下のようなスケジュールで、費用は47万円ちょっと、分割もできます。</p> <p>8月5日 成田出発(ブリティッシュ・エアウェイズを使用予定) ロンドン着  6日 ロンドン観光 7日 ロンドンから専用バスにてリーズへ  8日 ~ 26日 リーズにてホームステイ 語学研修  27日 リーズから専用バスにてロンドンへ 28日 ロンドン市内自由行動  29日 ロンドン・ヒースロー空港から帰国  30日 成田着</p> <p>担当の中島は全行程を同行します。この授業に参加することで外国語・応用英語の単位認定。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>現地の評価を参考に、全行程の平常点、帰国後のレポートで評価する。</p>	

【授業科目】 情報処理入門	
【開講期】 保育科 1 年前期	【担当者】 長谷川 洋介
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>現代の情報化社会ではコンピュータが大きな役割を果たしています。この講座では、まずキーボードの使い方に慣れて文書作成ができるようにし、またいろいろなソフトウェアの使い方を通して、コンピュータについて理解を深め、情報化社会の中で積極的に活用するための技術と素養を養います。この授業では実際にコンピュータを使いながら学習を進めますので出席を重視します。</p>	
<p><b>【テキスト】</b></p> <p>随時プリントを配布します。</p>	
<p><b>【参考書】</b></p> <p>授業の中で紹介します。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報化社会とコンピュータシステムについて</li> <li>2. Windows システムと操作方法</li> <li>3. 日本語ワープロソフト (Microsoft Word) の基本操作 (3 級程度の文書作成)</li> <li>4. 表や罫線を使う文章作成 (2 級程度の文書作成)</li> <li>5. 図形や段組を使う文書作成 (1 級程度の文書作成)</li> <li>6. 表計算ソフト (Microsoft Excel) の基本操作</li> <li>7. データベースの作成と操作</li> <li>8. ペイントによる図形描画法と小物作成</li> <li>9. 電子メールの送受信</li> <li>10. インターネットと情報検索、ソフトのダウンロードとインストール</li> <li>11. パワーポイントによるプレゼンテーションの作成</li> <li>12. HTML の基礎と簡単なホームページの作成</li> <li>13. 情報倫理、情報セキュリティについて</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>授業中でのテストおよび課題提出、出席状況などから評価します。</p>	

【授業科目】	情報処理入門	
【開講期】	1年 前期	【担当者】 宇田 隆悦
【授業目標】	1. 情報化社会の概略を理解させる。 2. コンピュータに関する基礎知識を習得させる。 3. 情報の表現方法を理解させる。 4. 情報システム構築の考え方を理解させる。 5. パソコンを活用するための基礎知識と簡単な活用方法を習得させる。	
【テキスト】	橋本洋志 他（共著） 『図解 コンピュータ概論 ソフトウェア・通信ネットワーク』 オーム社	
【参考書】		
授 業 計 画		
	1. 情報化社会の発展 (1) コンピュータの出現による情報化の変様 (2) コンピュータを活用した情報システム（事例） (3) インターネット社会 2. コンピュータの基礎 (1) ハードウェアの概要（種類、機能、動作原理） (2) ソフトウェアの概要 (3) ネットワークの概要 (4) プログラミングの基礎（言語の種類、特徴） 3. 情報の種類と表現 (1) 情報の種類 (2) 情報の表現方法 4. 情報システムの構築方法（情報システムができるまで） (1) システムのライフサイクル (2) 様々な重要技術と用語 5. パソコンの活用基礎 (1) 文書の作成、表計算 (2) プレゼンテーション (3) 電子メール	
【評価方法】	授業の出席と試験をもとに、評価する。	



【授業科目】 選択外国語 英会話（基礎）	
【開講期】 1年 前・後期	【担当者】 サラ・ブロック
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>今まで学んできた英語を使ってみたことはありますか。外国の友達はいますか。英語を学んでも「英語はできない」「英語を使えない」と思っている人がいます。けれどそれは本当のことではなく、書く英語と話す英語は違うのだということを教えてくれなかった教科書英語がおかしかっただけなのです。</p> <p>正しい文法でコミュニケーションをとりながらも、自分の気持ちを正確に伝え、相手の気持ちを正確に受け止める力を身に付け、「英語ができる」「英語を使える」ようになることがこの授業の目標です。</p>	
<p><b>【テキスト】</b> プリントを配布</p> <p>(例) ① My neighborhood  ② How do you come to school?  ③ Shopping in an American Shopping mall  ④ Complaints department  ⑤ My Dream Vacation</p>	
<p><b>【参考書】</b> 和英辞典・英和辞典（電子辞書・携帯電話を辞書として使用も可）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>授業は会話中心です。</p> <p>最初は決まった会話文の中に自分のことを取り入れるなどのシンプルなものです。</p> <p>どんどんサポートを減らしていき、自分で話します。</p> <p>前期・後期の英語のレベルは、それほど変わりません。</p>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>提出物、インタビューテスト、スキットの発表、その他</p>	

【授業科目】 選択外国語 ビジネス英語	
【開講期】 前期	【担当者】 瀧口 優
<b>【授業目標】</b> 1. ビジネスに必要な英語とは何かを理解する 2. 実際にビジネスの世界で使われている英語を学ぶ 3. 実際にビジネス英語を使ってみる	
<b>【テキスト】</b> 必要に応じて紹介する	
<b>【参考書】</b> 必要に応じて紹介する	
授 業 計 画	
1. ビジネスの世界について基本的な理解をする 2. ビジネスの世界で使われている英語とは何かを理解する 3. 新聞や雑誌の中から、ビジネスに関わる英文を取り上げて読む。 4. ビジネスに関わる英語の語彙を増やす。	
<b>【評価方法】</b> ふだんの学習状況などの平常点（出欠、予習、質問、意見発表など）とレポートで行うことを原則とするが、必要に応じてテストを行う。	

【授業科目】 選択外国語 時事英語	
【開講期】 1年 2年 後期	【担当者】 中島 好伸
<p>【授業目標】</p> <p>授業期間内では難しいかもしれないが、いずれ Time や News Week といった英語雑誌が読めるようになるように、その基礎を培う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを使用する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>向山淳子「ビッグ・ファット・キャットの世界一簡単な英語の本」幻冬社 2001年</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>最初の2時間で英文を読むのに必要な基本文法（難しいと思わないでね）を説明します。その際に「ビッグ・ファット・キャットの世界一簡単な英語の本」の方法を準用するので、受講する学生は事前に読んでおいてもらうと分かりやすいと思います。</p> <p>最初は簡単な文から読んでいこう。英文を読むにはコツがあります。そのコツさえマスターしてしまえば、あとは語彙（単語量）です。語彙を増やすには、毎日こつこつと読みながら辞書を引いていきます。大変そうに思えますが、なれてくれば、必ずや楽しくなり、そして、読めるようになるのです。</p> <p>ある程度、文に慣れてきたら、いよいよ Time か News Week に挑戦してみましよう。ニュースを読めるようにするには、そのニュースを日本語で知ってしまうのが一番です。したがって、この授業では、世界のニュースを確認しながら英文に挑戦していきます。</p> <p>この授業を通して、世界通になり、英語通になってください。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>毎回単語のチェックを行います。その積み上げと平常点、出席点で評価します。</p>	

【授業科目】 選択外国語 異文化コミュニケーション	
【開講期】 後期	【担当者】 瀧口 優
<b>【授業目標】</b> 1. 異文化とは何かを学ぶ 2. 異文化相互のコミュニケーションのあり方を実践的に学ぶ	
<b>【テキスト】</b> 必要に応じて指示する	
<b>【参考書】</b> 必要に応じて指示する	
授 業 計 画	
1. 映像を通じて写し出される他国の文化を認識する（4カ国程度）。 2. 日本の文化と比較してその特徴を分析する。 3. とりわけ言語についての理解を深める。 4. 以上を踏まえて異文化間のコミュニケーションをとるために何が重要であるかを学ぶ。 * 外国語と言われるものには様々なものがあり、この授業では少しでも新しい言葉に触れる機会をつくりたいと考えている。	
<b>【評価方法】</b> ふだんの学習状況などの平常点（出欠、予習、質問、意見発表など）とレポートで行うことを原則とするが、必要に応じてテストを行う。	

【授業科目】 言語とコミュニケーション	
【開講期】 前期	【担当者】 佐々加代子
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>日常生活はさまざまな人間関係のなかでのコミュニケーションの場面がある。その方法もさまざまにある。言語はその代表格である。コミュニケーションが円滑にすすんでいくということについての基礎理論から始め、コミュニケーション関係における阻害要因と促進要因を抽出することで、生活において言語を媒介としたコミュニケーション関係のすすめかたについての方策が見出せるようにする。</p>	
<p><b>【テキスト】</b></p> <p>佐々加代子『コミュニケーション能力弱者のQOL援助』犀書房</p>	
<p><b>【参考書】</b></p> <p>筆者の著書でいずれも犀書房。『言語習得と人間関係』『子どもからの贈りもの』『発達臨床相談』</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語の特性</li> <li>2. コミュニケーションにおける言語</li> <li>3. コミュニケーションの基本的過程 ことばのキャッチボール、ことばとキャッチボール 媒介となる距離－信号行動系</li> <li>4. コミュニケーションの対象児・者の特性のとらえかた</li> <li>5. 対象児・者によるコミュニケーション関係 乳児、幼児、障害児、障害者、失語症、介護を要する人、痴呆性老人、重病患者、異文化の人</li> <li>6. コミュニケーションにおける共通項としてあげられる内容</li> <li>7. 両者の関係とQOL</li> <li>8. コミュニケーション関係、人間関係において機能していく言語の内容を育むこと ここでの1～8の数字は講義の内容を区分したもので、回数を示してはいない。 情報機器類も用いながら、できるだけ具体的場面を想定できるように工夫をこらしていく。 グループでの討論も加えていく。</li> </ol>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>最終的には、平常点、授業内でのミニレポート、レポートで評価する。</p>	

【授業科目】手話入門	
【開講期】1年 後期	【担当者】細田恵子
<p>【授業目標】  初級程度の手話技能を修得し、聴覚障害者の生活等を知ることによって、自分の内面を見つめる一助とする。それとともに、障害者と共生できる街作りにどう関わっていくかを模索する。</p>	
【テキスト】随時プリントを配布する	
----- 【参考書】講義中に紹介する	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. まず、聴覚障害を持つ講師との意志疎通を図る方法について知る。</li> <li>2. 挨拶・自己紹介等の日常よく使用する手話を身につける。</li> <li>3. 聴覚障害問題について学ぶ。</li> <li>4. 聴覚障害とはどんな障害なのかを実体験する。(疑似体験)</li> <li>5. 聴覚障害者と健聴者が共生していくためには、どうしたらいいのか、かつ、授業で学んだことをこれからどういかしていくか、考え、実践して欲しい。</li> </ol> <p>* 毎回レポートを提出していただきます。</p>	
<p>【評価方法】  レポートと授業態度により評価する。</p>	

【授業科目】文学芸術・フィクションと人間	
【開講期】1年 2年 前期	【担当者】中島 好伸
<p>【授業目標】</p> <p>文学作品はどのように出来上がっているのだろうか、作られた世界（フィクション）である文学作品は現実世界を生きる私たち読者にどんな影響を与えるのか、そもそも文学作品とは何か、以上のことを考えて、文学作品を読む有意義性を探る。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを使用する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>必要に応じて指示する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>文学作品をただ活字を追うようにして読むだけでは、その作品が読者に与えてくれるさまざまな喜びやメッセージを引き出すことはできない。その結果、読む作業を疎んじている人はいないだろうか。実は、文学作品は、確かにつくられた世界（フィクション）だが、現実の世界に生きる私たち読者にさまざまな影響を与えている。作られた世界であることを知りながらも、読み終えて感動を覚えた経験を持つ人は多いだろう。それでは、文学作品はどのように作られていて、現実世界に生きる私たち読者にとってそれは何なのか。この点をさまざまな角度から考えてみよう。一回きりしかない人生を何倍にも楽しむ方法、それが文学であり、実は私たちの人生だって、物語になっていることに気づくはずだ。次のような内容で講義を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「わたし」と他者</li> <li>2) 視点と語り手</li> <li>3) 語り手の言語と無意識</li> <li>4) 表現か内容か</li> <li>5) 小説世界内とプロット</li> <li>6) 小説の蓋然性</li> <li>7) 作者の死</li> <li>8) 読者・印象批評</li> <li>9) 読みのあれこれ</li> <li>10) 人生とフィクション</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	

[授業科目名] 造形美術とイマジネーション	
[開講期] 後 期	[担当者] 八木 紘一郎
<p>[授業目標]</p> <p>この授業では、造形美術の中でも、特に日頃見慣れている生活の中の身近な造形美術をとりあげ、それらの造形美術に込められた意味をイマジネーションをめぐらせて解読していく。身近なところの造形美術を通して、人間にとって、実は目に見えるモノゴト(造形美術)は見えないモノゴトをイマジネーションする方法として存在する関係性と意味を掘り下げる。</p>	
[テキスト・参考書]	
授 業 計 画	
<p>1) 太古の歴史をさかのぼると、人の彫塑は、実は女性像だけが造られていた。なぜ、男性像は作成されていないのか、なぜ、女性像がはじめに造られたのか？何の目的で誰が造ったのかなどを実際の女性像の数々を見ながら考える。</p> <p>2) ミニチュアのキャラクター人形の世界を取り上げて考える。</p> <p>① 暮らしの中に置かれてきた「招き猫」をとりあげ、その造形美術を通して考える。右手を挙げている意味、左手を挙げている意味などを考える。</p> <p>② リカちゃん人形など「かわいい人形」を例にあげて人気の秘密、意味などについて考える。</p> <p>③ 「箱庭療法」で使われるミニチュアの造形美術世界の意味を考える。</p> <p>3) 異界の造形美術とイマジネーション</p> <p>① 多様に描かれ作られた妖精・妖怪・鬼・魔物など異界の生き物の造形美術をとりあげ、人はなぜそのような造形美術を創作したのかをイマジネーションする。</p> <p>② 異界の生き物の居住する場としての神殿や寺院等の造形美術を考える。</p> <p>③ 今は、スポーツとして扱われている、国技の相撲「横綱」のしめ縄と神社のしめ縄の関連、土俵入りの姿やしこを踏むなどの様相のひとつひとつに見られる異界とのコミュニケーションを考える。</p> <p>④ 独楽、凧あげなど伝承遊びと言われる昔遊びに見られる異界との関わり</p> <p>4) サンタ学～クリスマス関連の造形美術を考える～なぜ、サンタの服は赤いのか？サンタ誕生の地、起源、ツリー、丸太の形のケーキ、リースの形状などの意味を考える。</p> <p>5) 白と黒のイマジネーション。白地に描く東洋、黒地に描く西洋。どうして？など</p> <p>6) 図記号とイマジネーション</p> <p>身近な暮らしの中にある様々な図記号を解読しながら伝達デザインの諸相を考える。</p>	
<p>[評価方法]</p> <p style="text-align: center;">平常点</p>	



【授業科目】話し言葉の伝承	
【開講期】1・2年前期	【担当者】東 喜望
<p>【授業目標】ここにいう「伝承」とは、「伝承文化」をさす。この授業では、その中の「伝承文芸」を対象とする。即ち話し言葉によって、語り伝えられた話(神話・伝説・昔話など)を対象とする。 日本本土と南西諸島・近隣アジアの説話を事例とし、大陸や環太平洋諸地域との関連も積極的に考察する。</p>	
【テキスト】資料プリントを配布する。	
【参考書】東喜望著『沖縄・奄美の説話と伝承』(おうふう刊)	
授 業 計 画	
<p><u>講義概要</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>序</u> (1)わが国をニッポンというのはなぜか。 (2)国号と環太平洋の太陽神話</li> <li>2. <u>「神話」・「伝説」・「昔話」とは何か。</u></li> <li>3. <u>説話伝承の起源</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)自然と人間の意識</li> <li>(2)信仰と「語り」—個人・村落レベルから国家レベルへ。</li> <li>(3)神話の発展—伝説・昔話へ。</li> </ol> </li> <li>4. <u>伝承文芸の現代的意義</u></li> </ol>	
【評価方法】定期試験時のペーパーテスト(ノート・プリント等参照可)	

【授業科目】	絵本・絵巻と物語表現	
【開講期】	前期	【担当者】 久保木 寿子
【授業目標】	<p>絵本や絵巻には、絵と物語を同時に鑑賞していくという特徴があります。  「見る」ことから生じるイメージと、ことば（語り）が創り出すイメージの〈交響〉が  目指される訳です。  この授業では、さまざまな絵や絵巻を通じて、「見ること」と「ことば」によるイメージ  の形成について考え、どのような時に、感動や共感を呼び起こす〈交響〉が成り立つのか考  えたいと思います。</p>	
【テキスト】	プリント配布	
【参考書】	授業時に指示	
授 業 計 画		
I	<p>次のような物を素材に、絵とことばのさまざまな結合の形・表現の枠組みについて考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 絵巻 源氏物語絵巻・信貴山縁起絵巻・（竹取物語）などを例に</li> <li>2. 絵解き 「刈萱道心と石童丸」などを例に</li> <li>3. お伽草子 『鉢かづき』『物くさ太郎』（奈良絵本竹取物語）などを例に</li> <li>4. 絵本 『スーホの白い馬』『100まんびきのねこ』『あおくんときいろちゃん』『あり』（竹取物語）などを例に</li> <li>5. 紙芝居</li> <li>6. アニメーション 高畑・宮崎作品を例に</li> </ol>	
II	<p>上記Iを通して、次のような問題に注目したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 絵の視座・物語の視座</li> <li>2. 絵の空間表現・物語の空間表現</li> <li>3. 絵の時間表現・物語の時間表現</li> <li>4. 見、聞く人の位置と語り手の位置</li> </ol>	
III	<p>絵とことばの響き合いについて考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 絵によるストーリー性・イメージ喚起の条件について</li> <li>2. ことばによるストーリー性・イメージ喚起の条件について</li> <li>2. 絵・ことばの響き合いについて</li> </ol>	
<p>注意：絵本の読み聞かせや語り聞かせのノウハウを、伝授する授業ではありません。</p>		
【評価方法】	出席と、毎回のメモを重視。それと定期試験時のレポートによる。	

【授業科目】 源氏物語の世界	
【開講期】 後期	【担当者】 久保木 寿子
<p>【授業目標】</p> <p>日本文化の真髄を表すものとして、源氏物語はいまや世界の人々に読まれている。1000年の昔の作品ながら、現代に通じる問題が豊かに形象されているからであろう。一体、何がこの作品の魅力なのだろうか。絵巻や漫画・ビデオなどを使いながら作品構造を読み解き、制約の多い社会で、&lt;どう生きるか&gt;に苦闘する男女の姿を中心に見ていく。</p> <p>文法の細部にとらわれず、『源氏物語』が、“すごい”ことを知ってほしい。物語のおもしろさを知ることが、古典への第一歩である。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを配布</p>	
<p>【参考書】 大和和紀『あさきゆめみし』 現代語訳源氏物語：瀬戸内寂聴訳など 源氏物語絵巻・アニメ・映画その他のビデオ 授業時に指示</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 紫式部とその時代について 何故、紫式部は源氏物語を書いたのだろうか？作者の生涯と人物像を、その歌集と日記によって見ておく。また物語が書かれた時代の特徴にも簡単に触れたい。</li> <li>2. 全54帖の全体構造を知る。 授業で読み通す訳にはいかないが、そのスケールと主題について、概容を理解したい。</li> <li>3. 様々な男女の結びつきについて考える。 光源氏は、葵の上と政略結婚・若紫を略奪の上結婚・藤壺（父帝の寵妃）を強姦と、現代社会で言えば、正真正銘の犯罪者である。一夫多妻制のもとで、彼に対する女たちは何を考え、どう生きようとしていたか。</li> <li>4. 忍従と自立をめぐる問題について考える。 身分差・結婚制度の制約の中で、多くの女たちが忍従し妥協していく。一方、自分らしく生きたいと願う女たちは、苦闘の末破れていく。 ① 明石の君・② 紫の上・③ 女三の宮 を中心に、それぞれの人物像を探っていく。</li> <li>5. 権力構造をめぐる問題について考える。 恋愛沙汰に隠されているが、この作品は、光源氏が「天皇のような そうでもないような」地位に上り詰めるまでの、予言の謎解きといった要素を持つ。 上り詰めた後の、無惨な光源氏の衰退までを書いてしまったのだが。 人間にとって、いったい何が重要なことなのか、考えたい。</li> <li>6. 物語のリアリティについて考える。 言うまでもなく『源氏物語』は平安時代に作られたフィクションであるが、光源氏を実在の人と思っている人が結構いる。 何故だろうか。作品に、きわめてリアリティがあることも一因であろう 虚構された時代設定、モデルとされる人物、作品の舞台の虚実などについて考える。</li> <li>7. 源氏物語の笑いについて考える。</li> <li>8. 物語表現の美しさについて考える。</li> <li>9. 源氏物語の古代性と現代性について考える。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と、毎回のメモを重視。それと定期試験時のレポートによる。</p>	

【授業科目】近現代の日本文学	
【開講期】前期	【担当者】高原二郎
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文学作品など読むヒマにもっと役に立つことないの？</li> <li>・作家なんてホントはなにしてるんだろ。</li> <li>・文学史なんてのやらされてアタシたちメイワクなだけ！</li> <li>・でも基礎知識くらいは仕方ないカモね。</li> </ul>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に指定しない。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>展開の中で紹介します。</p> <p>予習読書は強制しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>(内容)</p> <p>上記のように、「文学入門」的なねらいを含んだ文学理解、作家論、課題論、文学史等を扱います。従って、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 作家と社会－社会に対応する作家の姿勢、文学的展開。</li> <li>2 作家と時代性－作家や作品を社会の流れと照らして位置付けしてゆく試み。</li> </ol> <p style="padding-left: 40px;">以上2点を踏まえて、以下の展開にする予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3 テーマ、課題による読み解き。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 開化と西洋（鷗外、漱石、荷風、光太郎）</li> <li>(2) 個人、エゴ、ヒューマニズム（漱石、白樺、龍之介）</li> <li>(3) 制度と人間（啄木、武郎）</li> <li>(4) 自然と人間（独歩、武郎、賢治）</li> <li>(5) 愛と人間苦（武郎、太宰治）</li> <li>(6) 伝統と近代（康成）</li> <li>(7) 戦争と人間（峠三吉他）</li> <li>(8) 疎外と人間（石牟礼道子）</li> </ol> <p style="padding-left: 40px;">（なお、時間の都合で省略もあり得ます）</p> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート評価の予定</p>	

【授業科目】庶民の生活文化	
【開講期】後期	【担当者】高橋徹
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>私たちの親の世代や、祖父・祖母の世代の人々は、どのような暮らしをして、どのようなものに感動し、どのような感じ方や考え方をしてきたのでしょうか。この授業では、第二次世界大戦後の、日本人の生活の歴史を理解することと、それをふまえて、みなさんが自分自身の現在の生活について考えるきっかけを得ることを目的としています。</p>	
<p><b>【テキスト】</b></p> <p>テキストは使いません。資料を配布する予定です。</p>	
<p>-----</p> <p><b>【参考書】</b></p> <p>加藤秀俊『暮らしの世相史』（中公新書、2002年）</p>	
<p><b>授 業 計 画</b></p>	
<p>この授業では、生活文化といっても「衣食住」に限るのではなく、もう少し広く考えていきたいと思っています。例えば、映画や音楽を楽しむことも、私たちの生活の一部でしょう。この、広い意味での生活文化の歴史を理解するために、歴史をたどりながら、テーマごとに古い映画や関連するドラマの一部分、ドキュメンタリーなどをビデオで見て、それについて議論したり、考えたことを小レポートにまとめたりしながら、授業を進めていく予定です。上記の「参考書」は、直接授業では使いませんが、夏休みの間にでも読んでおかれると、この授業の理解が深まるでしょう。</p> <p>テーマには、次のようなものを予定しています（資料の関係で変更になることもあります）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 時代と世代…生活史をつくる</li> <li>(2) 『映像の世紀』で見る 20 世紀の日本</li> <li>(3) 第二次世界大戦の時代</li> <li>(4) 戦後復興と闇市</li> <li>(5) 戦後民主主義と女性</li> <li>(6) 太陽族と「新しい」若者文化</li> <li>(7) 家電製品の普及</li> <li>(8) 高度経済成長時代のサラリーマン</li> <li>(9) 東京オリンピックがもたらしたもの</li> <li>(10) ビートルズ現象</li> <li>(11) 旅行の時代</li> <li>(12) 歌謡曲で聞く昭和</li> </ol>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>授業内の小レポートと、期末のレポートを合わせて評価する予定です</p>	

【授業科目】 現代の文化と風俗	
【開講期】 前期	【担当者】 先川 直子
<p>【授業目標】  わが国の文化や風俗には、若者たちがその中心的な役割を担ったものが少なくない。特に、昭和30年代の高度成長期以降は、生活が豊かになるとともに、消費とマスメディアに結びついた若者文化が誕生し、若者たちが風俗やファッションを創り出していくようになった。  本講義では、その中でも特に若い女性たちが主導権を持って関わったものを中心に、時代を追いながら見ていき、現在直面している問題点についても考える。</p>	
<p>【テキスト】  使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。</p>	
<p>-----  【参考書】  佐々井啓・篠原聡子・飯田文子編著『生活文化論』（朝倉書店）  小池三枝・柴田美恵『日本生活文化史—近現代の移り変わり—』（光生館）他</p>	
授 業 計 画	
<p>時代順に次のようなテーマを設定し、各テーマについて順次講義をおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハイカラさん—洋風の導入と和風との折衷—</li> <li>2. モダンガール</li> <li>3. あこがれのアメリカ文化—自由で豊かな生活の象徴—</li> <li>4. 昭和30年代の生活文化革新  団地の誕生と核家族の増加  家庭裁縫から既製服へ  3種の神器と3C—家電製品の普及—  インスタント食品の登場</li> <li>5. 女性の高学歴化と女子学生亡国論</li> <li>6. 「若者」がつくる新しい文化  ミニスカート—街角から生まれた若者のファッション—  ジーンズ—労働着から反抗・反体制のシンボルへ—  新人類文化とDCファッション  ディスコ文化とボディコン・ギャル  コギャル文化と携帯電話の普及</li> <li>7. 大量生産・大量消費への反省—「もの」とどう向き合うか—</li> <li>8. 高度情報化社会のもたらしたものと問題点</li> </ol>	
<p>【評価方法】  学期末の試験・授業時の課題レポート類・出席状況・授業態度などによる総合評価</p>	

【授業科目】 現代英米の文学	
【開講期】 1年 2年 前期	【担当者】 中島 好伸
<p>【授業目標】</p> <p>19世紀から20世紀にかけてのイギリス、アメリカの代表的な小説を紹介し、作品の歴史的背景や文化的情報を取り込みながら、作品の解釈を試みる。文学作品の読み方を学びながら、英米文学の特徴を理解することを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを使用する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>必要なときに指示する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>イギリスの小説を6作品、アメリカの小説を6作品、1講義に1作品ずつ取り上げていく。それぞれの講義は、まずは時代背景、そしてその時代の文学的特徴、作家紹介、作品紹介、さらに、作品の解釈へと進めていく。文学作品は読まなければ意味がないので、できるだけ多くの作品を読んでほしい。少なくとも、最後にレポートを書くために、イギリスの作品を一作品、アメリカの作品を一作品、合計2作品は読むこと。次の順番で講義していく。</p> <p>イギリス第1回 J.K.ローリング『ハリー・ポッター』シリーズ  イギリス第2回 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』  イギリス第3回 トーマス・ハーディ『テス』  イギリス第4回 オスカー・ワイルド『ドリアン・グレイの肖像』  イギリス第5回 D.H. ロレンス『チャタレイ夫人の恋人』  イギリス第6回 サマセット・モーム『お菓子とビール』  アメリカ第1回 ナサニエル・ホーソン『緋文字』  アメリカ第2回 マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』  アメリカ第3回 セオドア・ドライサー『シスター・キャリー』  アメリカ第4回 F.スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』  アメリカ第5回 ウィリアム・フォークナー『八月の光』  アメリカ第6回 アリス・ウォーカー『カラー・パープル』</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	

【授業科目】 世界の児童文学	
【開講期】 後期	【担当者】 瀧口 優
<b>【授業目標】</b> 1. 世界の児童文学を紹介しながらその思想を学ぶ。 2. 子ども観を豊かに育てる。	
<b>【テキスト】</b> 授業の中で指示する	
<b>【参考書】</b> 「英米児童文学の系譜」 こびあん書房	
授 業 計 画	
1. 世界の児童文学を国別にとりあげ、歴史や発展をとらえる。 2. 世界の児童文学を国別、作品別に紹介し、その一部をいっしょに読んでいく。 3. 関連する作品を読んだり、映像によって理解を深める。 4. なぜ児童文学が多く読まれるのかを考えていく。 1) 「アラビアンナイト：アラジン」 (アラビア) 2) 「秘密の花園」 (イギリス) 3) 「オズの魔法使い」 (アメリカ) 4) 「美女と野獣」 (フランス) 5) 「モモ」 (ドイツ)	
<b>【評価方法】</b> ふだんの学習状況などの平常点（出欠、予習、質問、意見発表など）とレポートで行うことを原則とするが、必要に応じてテストを行う。	



【授業科目】 比較文化論・近代文明と日本人	
【開講期】 後期	【担当者】 高原二郎
<p>【授業目標】</p> <p>私たちがものごとを考えたり判断したりするときの拠りどころ、物差し、尺度。日常生活をとり囲み、私たちの見方や考え方や生き方を、いつの間にか左右する大きな枠組み。つまりは皆さん一人ひとりが、それへ向けて衝き当り、悩み、そして切り拓いてゆくよりない「価値観」といったもの。その「価値観の在りよう」について、各自が自己衝突を開始することを以て授業の目標とします。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>用いません。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>展開の中で示します。読書は義務としません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の視点は、文学に関わる立場から、とします。</li> <li>・ 日本の近代化、それに伴う価値観の衝突や混乱や、さらには科学技術に支えられる今の社会をどのように考えるかなど、下記の項目を目安に展開します。一緒に考えてゆきましょう。なお「ヒューマニズム」については、特にしっかりと考えましょう。</li> </ul> <p>(内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の近代化と西洋 ー価値観についての基本理解ー       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 文明の先進と後発</li> <li>(2) 新旧混乱期の実情</li> <li>(3) キリスト教、儒教、武士道</li> <li>(4) 文学者の西欧体験</li> </ol> </li> <li>2. 近代的な考え方へのアプローチ       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 個人、人格、エゴ</li> <li>(2) 愛、ヒューマニズム、慈悲、仁</li> </ol> </li> <li>3. 自然と人間と近代 ー価値観についての展開ー       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 西洋の自然</li> <li>(2) 東洋の自然</li> <li>(3) 日本の自然</li> <li>(4) 自然と人間へのヒント</li> </ol> </li> <li>4. 自然科学と人間       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 自然科学をどのように考えるか</li> <li>(2) 自然科学と制度</li> <li>(3) 「科学者らしくあること」と「人間らしくあること」</li> <li>(4) 戦争</li> </ol> </li> <li>5. 現代社会と人間疎外 ー水俣病をめぐってー</li> </ol> <p>ノートは、問題点を中心に要点をメモできるよう、板書を活用します。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>各自が最低一つ、何らかの自己衝突をつかまえてレポート。授業出席を大切にするとともに、思考のひらめきをも大いに期待します。</p>	

【授業科目】 <u>国境を越える民俗学</u>	
【開講期】1・2年前期	【担当者】東 喜望
<p>【授業目標】古来、社会の基底を支えてきたのは、名もなき民衆である。彼らの多くは、その生活に必要な技術や文化を口づてに肉体を通して伝えてきた。この授業ではそんな民衆が大切に守り伝えてきた生活の基層の文化や民衆の精神のありよう、生活の実態などを対象にして考察を進める。特に、中国や東南アジアや日本の「国境を越えて」生きた人々の生活を重視する。</p>	
<p>【テキスト】資料プリントを配布する。 映像資料(スライド・ビデオ・グラフィック)を使用。 【参考書】適宜指示する。</p>	
授 業 計 画	
<p><u>講義概要</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「伝承」・「民俗」とは何か。</li> <li>2. 西歐民俗学・日本民俗学の発生と展開</li> <li>3. 国境なき人々の原初の暮らし(非定住の生活)       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 山人——日本の山人(マダギ・サンカなど)・アジアの狩猟民(中国・台湾・東南アジア)・ユーラシア大陸の遊牧民</li> <li>(2) 海人——日本の海人と家船・アジアの海人(中国の蛋民・東南アジアの漂海民など)</li> </ol> </li> <li>4. 原初の定住生活——日本・アジアにおける焼畑農耕から稲作農耕へ。</li> <li>5. ムラの形成とその基本構造</li> <li>6. 村落祭祀と通過儀礼</li> <li>7. 民俗社会をつなぐ「結い」</li> </ol>	
<p>【評価方法】定期試験時のペーパーテスト(ノート・プリント等参照可)</p>	

【授業科目】 現代社会と人権	
【開講期】 前 期	【担当者】 武 藤 健 一
<p>【授業目標】</p> <p>2年後・1年後に、主に女性である皆さんが実際に社会に出ていって、自分が女性であることから遭遇するかもしれない事柄・問題について検討し、自分の今後のこと・将来のことを考えるきっかけを得られるようにすることを目的とします。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">レ ジ ュ メ 西 布</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】 山田 昌弘 「パラサイト・シングル時代」(ちくま新書) 伊田 広行 「シングル化する日本」(洋泉社 新書)</p>	
授 業 計 画	
<p>現代の日本社会は今急速に変化していっています。 そこで、女性がどのような状況におかれているかを理解するために、女性労働または恋愛・結婚・家族について、様々な統計的資料やその分野に関わる法律の内容を検討し、現代社会における女性の人権の有様を明らかにしたいと思います。</p> <p>上記のどちらを取り上げるかは、他の授業の内容などを見て決定します。</p> <p>具体的には女性労働では、 ① M字型雇用 ② セクシュアル=ハラスメント ③ 派遣労働 ④ 育児・介助休暇 ⑤ パート労働</p> <p>恋愛・結婚では、 ⑥ 恋愛観・結婚観 ⑦ 結婚 ⑧ 家事・育児 ⑨ 夫・恋人の暴力(DV) ⑩ 子どもの虐待 ⑪ 離婚</p> <p>という項目の中からいくつかを取り上げていきたいと考えています。</p> <p>注1) 受講者数によりますが、講義・ディスカッション等のどの形式になるかを受講者と相談して決めたいと思います。</p> <p>2) 一方的なつまらない授業にはしたくないので、学生の皆さんの積極的な授業参加を願っています。 また、下記にあるように、平常点重視なので、学生にとって負担の大きい授業です。安易に単位取得を目的に受講しても、単位取得は不可能です。</p> <p>3) 飲食など、授業や他の人の迷惑にならない事は、自由にしてもらって構いませんが、おしゃべり・遅刻(10・15分過ぎ)などは絶対に許されません。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・平常点を重視し、試験点を加える形で成績をつけます。</p> <p>出席点+平常点：学期末試験(形式未定)=2：1</p>	

【授業科目】 憲法と私たち（日本国憲法）	
【開講期】 1年・2年 前期・後期	【担当者】 清水 雅彦
<b>【授業目標】</b> 1. 常日頃から社会問題に関心を持つようにさせる。 2. 法的な基本的発想ができるようにさせる。 3. 憲法の規定を正しく解釈し、理解させる。 4. 人権感覚や法的倫理観を身につけさせる。 5. 身の回りの問題について、自分で解決する勇気を持たせる。	
<b>【テキスト】</b> 『デイリー六法』三省堂 <hr/> <b>【参考書】</b> 播磨信義ほか編著『新・どうなっている!? 日本国憲法』法律文化社	
<b>授 業 計 画</b>	
1. 法・憲法とは何か (1) 新聞を読む～身の回りにどれだけ憲法問題があるか (2) 法の歴史～痴漢への対処法から人権の歴史を考える  2. 人権規定 (1) 人権の基本原則と制約原則～なぜ電車内で携帯電話はいけないの？ (2) 人身の自由～交通違反から警察との対処法を考える (3) 幸福追求権～プライバシー権や肖像権は憲法に書いていないけど (4) 法の下での平等～「バカチョンカメラ」と言ってはいけない話 (5) 信教の自由～輸血拒否事件、地下鉄サリン事件、靖国問題…… (6) 表現の自由～危ないシャンプーvs知る権利、わいせつ表現vs表現の自由 (7) 思想・良心・学問の自由～学生も学校では主人公！ (8) 女性の権利～中絶すると女性は犯罪者!? (9) 生存権～将来、低所得者は病院に行けなくなる!? (10) 教育を受ける権利～個人を尊重する教育理念と現実 (11) 労働基本権～将来、会社人間にならないために  3. 統治規定 (1) 主権～天皇制と国民主権との関係 (2) 平和主義～憲法の定める平和主義の理念と現実 (3) 国会～選挙に行く前に知っておきたいこと (4) 内閣～議院内閣制と大統領制の違い (5) 裁判所～ドイツとの比較から日本の裁判を考える (6) 財政・地方自治～憲法でどのように規定されているか (7) 憲法の保障・憲法の改正～憲法を守れない人は公務員になれない!？	
<b>【評価方法】</b>  授業の出席と期末試験	

【授業科目】 日本とアジアの近現代史	
【開講期】 後期	【担当者】 佐藤いづみ
<p>【授業目標】</p> <p>日本の近代史は、その歩みを始めたときから、アジアとの大きな関わりを持っていました。この授業では、アジアに向けた日本人のまなざしに注目しながら、日本とアジアの近現代史を学びます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用しません。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>講義中に紹介します。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>次の内容で授業を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 福沢諭吉の「脱亜論」・・・「学問のすすめ」から福沢の思想の根幹を読み取りつつ、「脱亜論」に展開された中国観、朝鮮観ともに、台湾論に注目</li> <li>* 潘佩珠の『ヴェトナム亡国史』・・・日露戦争がヴェトナムに広げた波紋とその行方</li> <li>* 関東大震災時の朝鮮人虐殺・・・朝鮮植民地化と朝鮮人に向けられた市井の人々の暴力について、80周年の出版から学ぶ</li> <li>* 台湾の霧社事件・・・台湾でのドラマ化に見る、日本による台湾植民地化</li> <li>* 満州国建設と中国残留孤児・・・大陸へ渡った青年、花嫁、家族。そして土地を奪われ「匪賊」と呼ばれた中国人</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末に、レポートを提出してもらいます。</p>	

【授業科目】 社会福祉の考え方	
【開講期】 1年後期	【担当者】 山路憲夫
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉とはなにか。ここでは広義の社会福祉を考えたい。広義の社会福祉とは、公共政策一般、社会政策、狭義の社会福祉(私的社会事業、公的社会事業)が含まれる。最近の社会福祉は多様化、複合化する一方だ。利用者の立場からとらえ直すという意味でも、広義の社会問題対策として幅広くとらえ、それぞれ制度を理解すると共に、各領域の関連を明らかにしたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「はじめての社会保障」(棕野美智子・田中耕太郎著、有斐閣アルマ)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>I 広義の社会福祉とはなにか 社会福祉、社会保障、社会政策の特徴と関連性</p> <p>II 社会福祉の成立の背景</p> <p>III 社会福祉の各制度の現状と問題点 公的年金制度、医療保険、公的介護保険、生活保護、社会福祉制度</p> <p>IV 21世紀の課題 少子高齢化と負担と給付の現代的問題</p> <p>V まとめ</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と試験(持ち込み可)</p>	

【授業科目】男と女・ジェンダーを考える	
【開講期】1年 前期	【担当者】富永静枝
<p><b>【授業目標】</b>  ジェンダー概念を理解し、これまでの社会制度や性別役割意識の問題点をジェンダー視点からとらえなおし、男女共同参画社会に向けての新しい社会システムのあり方や男女の関係性をさぐり、「男らしさ」「女らしさ」の呪縛から開放される態度を養成する。</p>	
<p><b>【テキスト】</b>  テキストは使用しない。必要に応じて授業時に資料プリントを配布する。</p>	
<p><b>【参考書】</b>  授業時に随時紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>男女雇用機会均等法の改正や介護・育児休業法の実施、男女共同参画社会基本法の制定など平等に向けての法的整備は進んだが、実生活の上では多くの問題を残している。不況下での女子学生の就職は厳しく、結婚後も家事・育児と職業の両立に悩むなど、女性が能力を発揮して、一人の人間として自立して主体的に生きることは困難な状況にあり、男性もまた厳しい労働環境の中で豊かな家族関係を築くことは難しい状況にある。そこでこの授業では人生のパートナーである男性と女性が、ともに人間らしく豊かに生きるためにはどうしたら良いか、これからの望ましい男女のあり方や、社会システムのあり方について学ぶ。授業方法は講義だけでなく、ビデオや新聞記事情報なども活用し、意見発表や討論なども加えて行います。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、 ジェンダーとはー性別役割分業とその問題点ー</li> <li>2、 女性のライフサイクルの変化</li> <li>3、 ジェンダー統計に見る現状と課題</li> <li>4、 労働とジェンダー</li> <li>5、 福祉とジェンダー</li> <li>6、 女性と人権ードメスティックバイオレンスー</li> <li>7、 男女平等をめざす世界の運動と日本の動き</li> </ol>	
<p><b>【評価方法】</b>  筆記試験かレポートにするか現時点では未定。他に平常時の提出物、出席状況を加えた総合評価。</p>	

【授業科目】 現代世界とマイノリティー	
【開講期】 1年 2年 後期	【担当者】 中島 好伸
<p>【授業目標】</p> <p>世界のマイノリティー（少数民族集団）がどのような歴史の元、現在のような分布になってきたのか、その歴史的背景を理解し、マイノリティーが絡む民族紛争を概観する。さらに、マイノリティーが複雑に絡み合うアメリカ合衆国の状況を見て、マイノリティー問題を考える。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを使用する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>必要なときに指示する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>現在、世界のいたるところで紛争が行われている。その原因には、多くの場合、19世紀のヨーロッパの大国が勝手に国境線を引いたために分断された民族が関係している。パレスチナ問題、コソボ紛争、アフガニスタン問題、という言葉聞いたことがあるだろう。この背景には、少数に分断された民族（マイノリティー）が深く関わる。このような世界の状況を、まずは概観する。さらに、多民族国家といわれるアメリカは、世界の警察と自称しながら、自国の中にマイノリティー問題を多く抱えている。ネイティブ・アメリカンや（インディアン）やアフロ・アメリカン（黒人）は特に有名である。このようなアメリカ国内のマイノリティー問題を、それぞれの集団に即して見てみよう。授業は次のような順に講義していく。</p> <p>マイノリティーとは</p> <p>帝国主義と植民地の遺産</p> <p>民族紛争</p> <p>人種の垣根からサラダボール理論へ：アメリカのマイノリティー</p> <p>アメリカ黒人の歴史</p> <p>ネイティブ・アメリカン</p> <p>ユダヤ人</p> <p>アジア系アメリカ人</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	



【授業科目】女性労働の問題	
【開講期】1年 後期	【担当者】富永静枝
<p><b>【授業目標】</b>          これからの社会は男女が互いに支え合いながら、ともに職業生活と家庭生活を両立させ、ともに自立して生きることが求められる。受講生たちが伝統的な性別役割分業意識から解放され、職業生活と家庭生活の両立をめざす努力をすることを期待したい。</p>	
<p><b>【テキスト】</b>          テキストは使用しない。必要に応じて授業時に資料(プリント)を配布する。</p>	
<p><b>【参考書】</b>          授業時に随時紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>男女雇用機会均等法の改正や育児・介護休業法の施行などにより、近年女性の労働環境は大きく変化した。女性が自立して生きるためには経済的自立は不可欠である。しかしまだまだ出産・育児や介護のために退職を余儀なくされる女性は多く、仕事と家庭の両立は困難な状況にある。本講では、働く女性たちが抱える問題点を明らかにし、問題解決への方向性を探る。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、近代日本における女性労働の歩み</li> <li>2、女性労働の現状と課題</li> <li>3、女性労働と法</li> <li>4、女性労働の国際比較</li> <li>5、家事・育児・介護と女性労働</li> </ol>	
<p><b>【評価方法】</b>          学期末のレポート、平常時の提出物、出席状況の総合評価</p>	

【授業科目】 地域生活と家族	
【開講期】 後期	【担当者】 民秋 言
<p>【授業目標】</p> <p>私々人間は、たいてい、家族という集団に所属し、その一員として生活する。つまり、そのなりに生まれ出、育ち、生活し、老年を送る。この家族は地域のなりにある。地域のあり方と大きく関わっている。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>講義の中で必要に応じて指示する</p>	
<p>【参考書】</p> <p>同 上</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとって家族とは何か</li> <li>2. 家族のほたらき(機能)</li> <li>3. 家族のなりの人間関係 (1) 夫婦関係</li> <li>4. 同 上 (2) 親親子関係</li> <li>5. 同 上 (3) 近しい関係</li> <li>6. 日本の家族の特徴 (1) 「イエ」の制度</li> <li>7. 同 上 (2) 核家族と直系家族</li> <li>8. 地域社会の変化・都市化</li> <li>9. 地域のなりの生活・コミュニティ</li> <li>10. 地域生活と家族のあり方</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>ペーパーテストと出席点による</p>	

專門教育科目（1年）



<b>【授業科目名】</b> 社会福祉	
<b>【開講期】</b> 1年 前期	<b>【担当者】</b> 佐野 英司
<b>【授業目標】</b> 社会福祉とは何か、社会福祉の対象は誰か、社会福祉とはどうあったらよいかをこどもたちや、障害者、高齢者をはじめとした住民の生活実態との関係で学びます。とりわけ、こどもたちや親、障害児・者の真の願いに心を寄せ、保育者に求められる援助とはどうあったらよいか考える力を養います。 保育を学ぶものにとって必要な基本的なものの見方・考え方の基礎を学び、後期の「児童福祉」、「地域の福祉」、2年次の社会福祉援助技術へと結びつけることを目標にします。	
<b>【参考図書】</b> 「子どもへのまなざし」 (福音館書店・・・佐々木正美著) 「続・子どもへのまなざし」 (福音館書店・・・佐々木正美著) 「現代の社会福祉入門」 (保育出版社・・・浅井・佐野編) 「基礎から学ぶ保育制度」 (保育研究所・・・草土文化発売) 授業の中で適宜紹介しますので最初から用意をしないで結構です。 また、参考にする論文のコピーを授業で配布します。	
<b>【授業の進め方】</b> 上記授業目標にそって、「社会福祉講義ノート(2004年版)」をつくり、それに基づいて授業を進めていきます。 授業の終わりにミニレポートを書いてもらい、自らその日に学んだ事柄の確認ができるよう努めます。ミニレポートで出席確認をします。(7月はじめにまとめて返却します) 授業は、定時に始めます。講義は80分程度でおさめる努力をします。授業の合間になるべくビデオや小グループによるディスカッションを取り入れたいと考えています。 クラスによっては1限目ですが、遅刻しないよう頑張ってもらいたいと思います。学生みなさんと共に力を合わせ、迫力ある、心に残る授業をつくっていきたいと願っています。	
<b>【評価方法】</b> 毎授業の度に提出するミニレポートと出席状況(平常点)30パーセント、定期試験(レポートです)70パーセントの総合点で評価します。 したがって、出席、遅刻は非常に重視します。	

【授業科目名】 地域の福祉	
【開講期】 1年 後期	【担当者】 佐野 英司
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>前期の「社会福祉」で学んだことを基礎に、私たちが住んでいる地域社会レベルで住民（子どもや障害者、高齢者などあなた自身を含めすべての人々）の暮らしの場面から発生する生活上の悩みや困難さ、解決を迫られる問題点にはどのようなことがあるかを学びます。そのうえで立って、地域住民がお互いに住みやすい地域社会をつくっていくにはどうしたらよいか、それに貢献できる保育・福祉労働者になるにはどうしたらよいかを考え学びます。地域に対し実践力をもった保育者となる基礎を学びます。</p>	
<p><b>【参考図書】</b></p> <p>この授業のために作成した「地域の福祉」講義ノートを使用します。 参考図書などは授業中に適宜紹介します。</p>	
<p><b>【授業の進め方】</b></p> <p>初めての保育所実習（11月9日より）までの7回の授業は、「育児・子育て調査報告書」から、地域の乳幼児の生活と育児・子育ての実態やどのような保育ニーズがあるかを学びます。また、その過程で“叩く育児”の是非についてのディスカッションも行い、考えあいます。保育所実習後は、障害児・者福祉、高齢者福祉について学びます。障害児についての学習では滋賀県大津市と東京近辺の統合保育実践についても比較検討しながらその在り方を学びます。また、障害者の地域生活については障害者自身を講師に招き当事者の立場から障害者福祉はどうあったらよいかを学びます。高齢者福祉については、その基礎と介護保険制度についての初歩を学びます。教材としてビデオをなるべく活用し、授業を実践的に進めたいと思います。</p>	
<p><b>【評価の方法】</b></p> <p>毎回の授業態度を重視します。毎日、授業の最後に書くミニミニレポートで出席を確認し、出席率を重視します。授業は定時に始めます。 成績は上記授業態度とレポートをの総合点で評価します。</p>	

【授業科目】	児童福祉	
【開講期】	1年 後期	【担当者】 中山正雄
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉の歴史的展開過程をとおして児童福祉の意義について理解させる。</li> <li>2. 児童福祉の現状と児童福祉問題の背景及び児童福祉の法律・制度・施策について理解させる。</li> <li>3. 児童福祉現場における福祉サービスの現状と課題を理解させる。</li> <li>4. 児童福祉の専門職としての保育士の役割、家族も含めた支援への役割について理解させる。</li> <li>5. 児童福祉の展望と課題を理解させ児童福祉に取り組む姿勢を養う。</li> </ol>	
【テキスト】	日下知久編著『児童福祉総論』保育出版社	
【参考書】	浅井春夫著『子ども虐待と性教育』大修館書店 山縣文治監修『児童相談所で出会った子どもたち』ミネルヴァ書房	
授 業 計 画		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉の歴史的展開と児童福祉の意義           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) わが国における児童福祉の歴史 ～概念と理念の形成過程～</li> <li>(2) 児童福祉法の理念</li> <li>(3) 子どもの権利の形成過程と子ども観の変遷</li> <li>(4) 子どもの権利条約の内容と意義</li> </ol> </li> <li>2. 児童福祉の現状と児童福祉問題の背景及び制度・施策           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 家族の変化・多様化と子どもの生活</li> <li>(2) 少子高齢化社会における子どもの生活</li> <li>(3) 保育問題・児童養護問題の発生とその背景</li> <li>(4) 障害問題とノーマライゼーション</li> <li>(5) 子ども虐待問題の背景と防止</li> <li>(6) 児童福祉の制度・機関・施設・費用</li> <li>(7) 諸外国の児童福祉</li> </ol> </li> <li>3. 児童福祉施設現場におけるサービスの現状と課題           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 福祉事務所・児童相談所の役割、現状と課題</li> <li>(2) 保育の現状と課題</li> <li>(3) 養護の現状と課題</li> <li>(4) 母子福祉及び一人親家庭の現状と課題</li> <li>(5) 少年非行と福祉・教育</li> </ol> </li> <li>4. 保育士の役割と子育て支援           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 児童福祉の専門職資格と職務・労働条件</li> <li>(2) 少子社会における子育て相談援助あり方と保育士の役割</li> <li>(3) 家族・地域と施設の役割</li> <li>(4) 児童福祉関連機関とのネットワークと保育士の役割</li> <li>(5) 児童福祉現場で働くこと、児童福祉施設職員論（資質・倫理）</li> </ol> </li> <li>5. 児童福祉の展望と課題           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会福祉のあり方と課題</li> <li>(2) 児童福祉の方向と課題</li> </ol> </li> </ol>		
【評価方法】	授業の出席状況と定期試験	

【授業科目】 保育原理 I	
【開講期】 1 年前期	【担当者】 金田 利子
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人類のライフサイクルにおける保育の意義を考え保育の歩みを振り返る</li> <li>2. 発達過程における乳幼児期の位置と意義について理解する</li> <li>3. 発達と保育の関係を理解する。</li> <li>4. 子どもの権利に立って、子ども観・発達観・保育観を深める</li> <li>5. 以上から、保育とは何か、その原理を捉える</li> </ol>	
<p>【テキスト】 柴崎正行編著『保育原理—新しい保育の基礎—』(同文書院) 前後期とも用いる          心理科学研究会編『育ちあう乳幼児心理学』(有斐閣)</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】          金田利子編著『育てられている時代に育てることを学ぶ』(新読書社)</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. まず、子どもの権利・児童観・その変遷・発達観・保育観・人間観など、保育の大前提となる歴史・哲学について学びつつ考察する (3回)             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 類的・歴史的な理解</li> <li>2) 地理的・文化的な理解</li> <li>3) 世代的な理解</li> <li>4) 個別的な理解</li> </ol> </li> <li>2. 続いて、具体的な子どもの姿をもとに、発達理解と保育の関係について学ぶ (4回)</li> <li>3. 発達を保障する意図的な取り組みである保育の構造について取り上げ保育の理念・方法・形態と関わらせて探究する。(2回)              その際、幼児にとっての主導的活動としての遊びについて学ぶ</li> <li>4. 保育と環境について考える (2回)             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもの育つ広義の環境と環境醸成主体としての子ども</li> <li>2) 保育の中での環境づくり</li> </ol> </li> <li>5. 保育実践における保育者の役割について深める (2回)</li> <li>6. 今日の保育制度の大枠について学ぶ (2回)             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 幼稚園と保育所を中心に</li> <li>2) 子育て支援の諸施策等</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】          出席、授業態度、毎回のミニレポート、試験などによって総合的に評価する</p>	



【授業科目】保育原理Ⅱ	
【開講期】 1年後期	【担当者】金田 利子
<p>【授業目標】</p> <p>保育原理Ⅰで学んだ原理と保育関連諸分野の科目との関連を把握し、具体的課題と原理の関連を総合的に捉える力量を育てる</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>保育原理Ⅰのテキスト、および 金田利子・齋藤政子編著『家族援助を問い直す』（同文書院）</p> <hr/> <p>【参考書】金田利子・諏訪きぬ・土方弘子編著『保育の質の探究—保育者—子ども関係を基軸として』（ミネルヴァ書房）、金田利子・柴田幸一・諏訪きぬ編著『母子関係と集団保育』（明治図書）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育を計画する—カリキュラムづくりから実践までに必要な視点を学ぶ（1回）</li> <li>2. 保育を評価する—そのとき欠かせない「保育の質」について考える（2回）</li> <li>3. 家庭保育と集団保育の関係について考察する（4回） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 母子関係と集団保育についての論争過程やその理論的根拠について学ぶ</li> <li>2) 家庭における育児文化と保育所における保育文化の相互理解の基本について学ぶ</li> <li>3) 家庭から園への接続のあり方について考える</li> <li>4) 親・家族と社会的保育の連携について考える</li> <li>5) 家族援助と特別保育事業の現状を把握する</li> </ol> </li> <li>4. 発達のとらえ方と障害児の保育、その理論と実際について学び考える（2回）</li> <li>5. 地域づくりにおける社会的保育機関（幼稚園・保育園）の役割を学び考える（2回） <p style="text-align: center;">—保健センター等地域における諸機関との連携をふまえて—</p> </li> <li>6. 保育の歴史に学び、これからの保育を考える（3回）</li> <li>7. 保幼・小の接続と連携について、これまでの視点・実践から学び、そのあり方を考える（1回）</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席、授業態度、毎回のミニレポート、試験などによって総合的に評価する</p>	

【授業科目】 保育者論	
【開講期】 1 年 前期	【担当者】 民秋 言・喜多村純子
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、教職についての意義を理解する。</li> <li>2、保育者の社会的役割を理解し、かつ職務内容を知る。</li> <li>3、保育者としての必要な資質について理解し、かつ習得する。</li> <li>4、望ましい保育者像を明らかにする。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>ハンドブック 教育・保育・福祉 1999年度版 北大路書房刊</p>	
<p>【参考書】</p> <p>同上</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、保育科学生として「保育」を学ぶことの意味を確かめる。</li> <li>2、保育者を目指す者としての保育科学生の基本的姿勢を卒業生の声として紹介する。</li> <li>3、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅰ)</li> <li>4、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅱ)</li> <li>5、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅲ)</li> <li>6、保育者の職務内容を理解する。(Ⅰ)</li> <li>7、保育者の職務内容を理解する。(Ⅱ)</li> <li>8、保育者の職務内容を理解する。(Ⅲ)</li> <li>9、保育者の体験論から学ぶ。</li> <li>10、保育者として問われる力量を学ぶ。</li> <li>11、保育者に求められる今日的専門性を学ぶ。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>ペーパーテスト(ノート等持ち込み不可)</p>	

【授業科目】 教育原理	
【開講期】 1年 前期	【担当者】 黒田 瑛
<p>【授業目標】</p> <p>「教育」についての理解を深め、教育の歴史と今日の教育の基底にある思想を学ばせることにより、学生が将来の保育者、親、市民としてこれからの教育の在り方について考える力を養うことを目指す。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキスト：『教育原理』（北大路書房 小田 豊、森 眞理 編著）</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>資料を用意し、随時参考書を紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>講義の中心となる事項は下記の通り。</p> <p>1、わが国の教育の現状と課題 今日の教育・保育改革の経過とその方向を知る。</p> <p>2、人間と教育 人間とは何かを問い、発達、文化、人権などの視点から教育を論じる。</p> <p>3、教育の歴史と子ども観の変遷 1) 主としてルネサンス以降の欧米における近代教育の流れとその発展を学ぶ。 2) 明治以降の我が国の教育の流れと発展を見るなかで教育と社会のかかわりに注目する。</p> <p>4、学校教育のしくみ — 制度と内容 — 教育基本法や学校教育法により、主として我が国の学校教育についての理解を深める。</p> <p>5、諸外国の教育 今日の諸外国の学校と教育についてその現状と特色をみる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>期末試験およびレポート</p>	

【授業科目】 教育の思想と歴史	
【開講期】 1年 後期	【担当者】 黒田 瑛
<p>【授業目標】</p> <p>教育、保育の歴史を学び、子ども観の変遷と、幼稚園や保育所など幼児教育・保育施設の発展の歴史を知る。時代や社会の変化と幼児教育との関わりを学ぶなかで、今日の保育の問題および今後の課題を考える。子どもの権利の保障と「子どもの権利条約」についての理解を深める。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>とくに定めない</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>資料を用意し、随時参考書を紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1、幼児教育思想の発展 コメニウス、ルソー、ペスタロッチ</p> <p>2、オーエンの時代と思想 幼児学校（企業内保育施設）の開設</p> <p>3、フレーベルの子ども観と保育思想 幼稚園の創設と遊具（恩物）の開発</p> <p>4、“新しい教育”の思想と実践 デューイの旧教育批判と新教育の主張 モンテッソーリの保育と教具</p> <p>5、日本の保育思想の流れ 倉橋惣三の生活保育 今日の保育の課題</p> <p>6、子どもの権利の保障と「子どもの権利条約」</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>期末試験およびレポート</p>	

【授業科目】 発達心理学	
【開講期】 1年 前期	【担当者】 小松 歩
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者として子どもと関わる際に必要な「発達」に関する基礎的知識を理解する。</li> <li>2. 人は、受精・誕生から死に至る生活の全過程で、周囲の環境や人との関係を通してその可能性を実現していく。この人間の「発達（生涯発達）」について理解する。</li> <li>3. 生涯発達の視点から、その人の現在の姿・行動がどうあるべきか、またどのような援助が必要かが考えられるよう、各発達期の特徴について理解する。</li> <li>4. 発達の起こるメカニズム、とりわけ子どもと大人（保育者）の相互作用の重要性を理解する。</li> <li>5. 「保育所保育指針」の発達項目を理解する。</li> </ol>	
<p>【テキスト】 【参考書】</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p style="text-align: center;">授業のなかで適宜紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>本講義では、乳幼児から児童期を中心に発達の基本的特徴（「認知発達」を軸にする）と、それをもたらす要因について概説する。また、各時期の発達を援助する方法を心理学的観点から探る。</p> <p>プリントやビデオ教材などを活用し、子どもたちの具体的な姿を参考にしながら、一人ひとりの子どもが発達していく姿を正しく理解できるような講義にしたい。</p> <p>およそ、以下のような項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「発達心理学」の考え方       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「発達」とは何か、発達心理学を学ぶことの意味を理解する。</li> <li>(2) 「発達していく」子どもの姿を、一人ひとりの子どもに即して的確にとらえることの必要性を理解する。</li> <li>(3) 生涯発達の視点から、発達におけるそれぞれの「発達段階」を理解する。</li> </ol> </li> <li>2. 発達のメカニズム       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達は、主体（子ども）が環境に能動的に関わって起こるといふ、発達の基本的メカニズムを理解する。</li> <li>(2) 発達初期からの豊かな経験・体験の必要性を理解する。</li> <li>(3) 発達可能性（可塑性）、敏感期の意味、発達課題について理解する。</li> </ol> </li> <li>3. 各発達期の特徴       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 胎児期 胎児の能力</li> <li>(2) 新生児期 有能性（原始反射、感覚能力、人への志向性）を理解する。</li> <li>(3) 乳児期 愛着関係の発達とことばを獲得するための基礎（情動によるコミュニケーション、三項関係）を中心に理解する。</li> <li>(4) 幼児期 ことばの発達、認知の発達を中心に理解する。</li> <li>(5) 児童期 認知の発達、対人関係の発達を中心に理解する。</li> <li>(6) 青年期 認知発達、自己認識・性役割の発達を中心に理解する。</li> <li>(7) 成人期以降 諸能力の変化と特徴</li> </ol> </li> <li>4. 乳幼児期における発達援助のあり方（保育所保育指針の発達項目を中心に）</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">出席状況と定期試験による</p>	

【授業科目】 遊びの発達心理学	
【開講期】 1年 後期	【担当者】 小松 歩
<p><b>【授業目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児期の子どもにとって主体的活動の中心である「遊び」の重要性を理解する。</li> <li>2. 乳幼児期にみられる遊びと、その発達的变化を理解する。</li> <li>3. 保育現場における具体的な遊び場面から、「遊びを通しての総合的な保育」の意味と重要性を理解する。</li> <li>4. 遊びを分析的にとらえる方法について理解し、具体的な遊びの姿から子どもの「育ち」を的確に把握する力を養う。</li> <li>5. 発達評価の意味と基本的方法を理解し、遊びや生活全体を通して子どもの「育ち」を的確に把握する力を養う。</li> </ol>	
<p><b>【テキスト】 【参考書】</b></p> <p>授業のなかで適宜紹介する</p>	
<p><b>授 業 計 画</b></p>	
<p>保育の現場では、さまざまな子どもたちが存在する。  本講義では、発達心理学で学んだ知識をもとに、具体的な保育の場面において発達しつつある子どもの姿を実践的に捉えること（発達の評価）の意義と、具体的方法について概説する。  およそ、以下のような項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「遊び」の考え方 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもにとって「遊び」とは何か</li> <li>(2) 遊びの役割</li> </ol> </li> <li>2. 「遊び」の分類と主たる遊びの発達的变化 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 乳児期の遊び（事物のもて遊び、人との交流遊び）</li> <li>(2) ごっこ遊び</li> <li>(3) ルール遊び</li> <li>(4) 絵本・劇遊び、かく・描く遊び</li> <li>(5) 労働的遊び</li> </ol> </li> <li>3. 遊びをとおして学ぶこと <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 科学的知識・社会的知識</li> <li>(2) コミュニケーションスキル</li> <li>(3) 自分について</li> </ol> </li> <li>4. 保育現場における遊びとその援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 乳児期の遊び</li> <li>(2) 幼児期前期 ごっこ遊びを中心に</li> <li>(3) 幼児期後期 ルール遊び、劇遊びを中心に</li> </ol> </li> <li>5. 遊びを分析にとらえる方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ごっこ遊びの展開</li> <li>(2) 仲間入りの方法を中心に</li> </ol> </li> <li>6. 発達評価の方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達の評価とは</li> <li>(2) 発達検査の具体的方法</li> </ol> </li> </ol>	
<p><b>【評価方法】</b>  出席状況と定期試験による</p>	

【授業科目】 教育心理学	
【開講期】 1年 後期	【担当者】 小松 歩
<p><b>【授業目標】</b>          子どもの成長・発達は、子ども自身もつさまざまな力と、保育者など周囲の環境からのはたらきかけとの相互作用のなかで実現する。本授業では、発達心理学で学んだ基礎的知識をもとに、教育心理学であつかう分野について、保育実践における具体的な援助・指導法のあり方と結びつけながら学ぶ。</p>	
<p><b>【テキスト】 【参考書】</b></p> <p>-----</p> <p>授業のなかで適宜紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1. 「教育心理学」で何を学ぶか          (1) 「教育心理学」とは何か、発達心理学を学ぶことの意味を理解する。          (2) 子どもが「育ち」、子どもと「かかわり」、子どもに「教える」ことの基本を理解する。</p> <p>2. 教育と「発達」について          (1) 子育てや保育のあり方と子どもの育ちは、どうかかわっているのかを理解する。</p> <p>3. 「学習」          (1) 学習とは何か。          (2) しつけや訓練による学び、「知りたい」と思う気持ち、「わかった」という喜びから生まれる学びなど、幼児期の子どもにふさわしい「学び」の方法について理解する。</p> <p>4. 「性格」          (1) 性格とは何か、また、どのように形作られていくのかを理解する。</p> <p>5. 「適応」          (1) 子どもの心の健康と、それを妨げるものについて学ぶ。          (2) 子どものもつ「悩み」をどのように解決するかを学ぶ。</p> <p>6. 「評価」          (1) 子どもの育ちや個性を知る方法について学ぶ。</p> <p>7. 「教授法」          (1) 子どものやる気を引き出す教え方とはどういうものか、を理解する。          (2) ひとりひとりに合わせた教え方について考える。</p> <p>8. 「集団」          (1) 仲間のなかで発達する力について考える。</p>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>出席状況と定期試験による</p>	

【授業科目】 小児保健Ⅰ	
【開講期】 前期	【担当者】 谷 俊治
<p>【授業目標】 この授業では、小児の心身の健康のために、保育者として知っておくべき知識や考え方について解説します。特に小児では、心身両面からの健康が重要であり、保育の場だけではなく、家庭や地域との連携の必要性についても認識してもらうことになります。</p>	
<p>【テキスト】 高野 陽ほか編著 「小児保健」 北大路書房</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】 馬場 一雄 「子育ての医学」 東京医学社 馬場 一雄 「続・子育ての医学」 東京医学社</p>	
授 業 計 画	
<p>VTR、OHP、テープレコーダーなどの視聴覚機器をできるだけ活用するつもりですし、いくつかの作業を実際にやっていただきます。質問は大歓迎ですが、時間内には全員の質問には答えられませんので、毎回書提出する「出席カード」の裏に質問、意見、感想などを書いていただきます。（これが毎回のレポートとなります。）次の時間に、質問の答えから始める予定です。一方交通の授業にならないよう学生諸君の協力を期待しています。</p> <p>授業のテーマは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児保健の意義について</li> <li>2. 胎児期から新生児期にかけての成長・発達について</li> <li>3. 乳幼児期の成長・発達について</li> <li>4. 母子相互作用と父子相互作用について</li> <li>5. 聞えとことばの発達について</li> <li>6. 運動機能の発達について</li> <li>7. 乳児の食べる機能の発達について</li> <li>8. 歯の健康と子どものからだ</li> <li>9. 小児期の脳の構造と機能とその発達について</li> <li>10. 子どもの心理的、社会的成長・発達を支える条件について</li> <li>11. 保育に活用できる交流分析について</li> <li>12. 母子保健対策と保育について</li> </ol>	
<p>【評価方法】 毎回のレポートと期末の課題レポートで評価します。</p>	



【授業科目】小児保健Ⅱ	
【開講期】 後期	【担当者】 谷 俊治
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、小児期に見られる病気や発達障害の特徴についての理解を深めてもらい、その支援や対応について学んでもらいます。また、今日問題となっている小児の心身の問題についても再認識してもらい、保育活動の中だけではなく、社会資源の活用についても十分な認識を持ってもらうことにします。</p>	
<p>【テキスト】 高野 陽ほか編著 「小児保健」 北大路書房</p>	
<p>【参考書】 馬場 一雄 「子育ての医学」 東京医学社 馬場 一雄 「続・子育ての医学」 東京医学社</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>前期と同様にVTR、OHP、テープレコーダーなどの視聴覚機器をできるだけ活用するつもりです。質問は大歓迎ですが、時間内には全員の質問には答えられませんので、毎回書提出する「出席カード」の裏に質問、意見、感想などを書いていただきます。(これが毎回のレポートとなります。) 次の時間に、質問の答えから始める予定です。一方交通の授業にならないよう学生諸君の協力を期待しています。</p> <p>授業のテーマは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病気のと看に見られる小児の症状について</li> <li>2. 感染症について</li> <li>3. 予防接種について</li> <li>4. 免疫とアレルギーについて</li> <li>5. アレルギー性疾患について</li> <li>6. 小児の心身症について</li> <li>7. 心身症以外の小児の病気について</li> <li>8. 小児虐待をめぐる諸問題について</li> <li>9. 小児の事故と安全対策について</li> <li>10. 心身障害児の保育と保健について</li> <li>11. 施設における保健対策について</li> </ol>	
<p>【評価方法】 毎回のレポートと期末の課題レポートで評価します。</p>	

【授業科目】小児栄養Ⅰ	
【開講期】1年 後期	【担当者】林 薫
<p>【授業目標】</p> <p>「小児栄養」では、子どもたちへの食事支援の方法や栄養学的な基礎知識を学び、保育士としての役割を理解し、実践力を養う事を目的としています。子どもは保育されるという受身の立場であり、保育士・養育者の認識に大きく影響されます。その為、保育士を志す学生は自分自身の食生活の重要性を理解し、望ましい生活・食生活環境の中で、子ども達の食べる力をはぐくんでいけるように実践力をつけて頂きたいと考えております。</p>	
<p>【テキスト】上田 玲子編著 「子どもの食生活と保育」 （樹村房）</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】講義の中で紹介します。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>・授業計画と進め方</p> <p>講義と実習形式で行います</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 子どもを取り巻く環境</li> <li>3. 小児の身体発育と栄養状態の評価</li> <li>4～10. 栄養学の基礎知識</li> <li>11. 非妊娠期・妊娠期・授乳期の栄養と食生活</li> <li>12. 妊娠期の食事（調理実習）</li> </ol>	
<p>【評価方法】出席状況・提出物・定期試験で評価します。</p> <p>実習は夏休みに集中講義として、1班5～6人に分けて、調理・供食を行います。エプロンと三角巾を持参してください。実習の時のみマニキュアは禁止します。</p>	

【授業科目】 教育課程総論	
【開講期】 1 年 後 期	【担当者】 師 岡 章
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程の概念について理解させる。</li> <li>2. 我が国の保育カリキュラムの変遷を理解させる。</li> <li>3. 保育カリキュラムの編成原理を理解させる。</li> <li>4. 保育カリキュラムの種類と内容を理解させる。</li> <li>5. 保育カリキュラムの展開過程と評価について理解させる。</li> <li>6. 保育カリキュラムの実際を理解させる。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">金村美千子編 『教育課程・保育計画総論』 同文書院</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p style="text-align: center;">授業時に適宜、紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程の概念 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育課程の定義</li> <li>(2) カリキュラムの語源</li> </ol> </li> <li>2. 保育カリキュラムの変遷 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 明治初期の保育カリキュラム</li> <li>(2) 明治後期の保育カリキュラム</li> <li>(3) 大正自由教育期の保育カリキュラム</li> <li>(4) 戦中期の保育カリキュラム</li> <li>(5) 戦後新教育期の保育カリキュラム</li> <li>(6) 高度経済成長期の保育カリキュラム</li> </ol> </li> <li>3. 保育カリキュラムの編成原理 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 幼稚園教育要領・保育所保育指針</li> <li>(2) 経験カリキュラムと教科カリキュラム</li> <li>(3) 子どもの生活・発達と保育内容の構造</li> <li>(4) 保育構造論</li> </ol> </li> <li>4. 保育カリキュラムの種類と内容 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育カリキュラムの種類</li> <li>(2) 長期的計画の内容と特徴</li> <li>(3) 短期的計画の内容と特徴</li> <li>(4) 保育カリキュラムの全体構造</li> </ol> </li> <li>5. 保育カリキュラムの展開過程と評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 計画と実践</li> <li>(2) 記録・評価の方法</li> </ol> </li> <li>6. 保育カリキュラムの実際 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 幼稚園のカリキュラムの実際</li> <li>(2) 保育所のカリキュラムの実際</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">出席状況とテスト</p>	

【授業科目】 保育内容総論	
【開講期】 1年前期	【担当者】 佐々加代子、小松 歩
<p>【授業目標】</p> <p>幼稚園、保育所における子どもの生活の姿から、それぞれの現場における保育内容を考える。保育者としての援助の内容とその方法について、推論活動をすすめながら検討し、保育の基本的視点を学ばせる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>幼稚園教育要領、保育所保育指針は活用する。  佐々加代子担当：佐々加代子『発達臨床相談』犀書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業中に紹介する。</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の基本と保育内容  保育所保育指針と幼稚園教育要領の理解</li> <li>2. 子どもの生活と遊び  子どもの生活の実態；幼稚園と保育所から探ること</li> <li>3. 保育内容の理解  保育者に求められる総合的な視点  保育内容の5領域と総合</li> <li>4. 子どもの行動の特徴  発達的変化を遊びから探ること</li> <li>5. 保育者の援助  保育援助の内容と方法  保育所保育における保育の援助と方法  幼稚園保育における援助の内容と方法</li> <li>6. 保育の基本的視点の整理  教員からの講義は印刷教材、VTR教材を用いる。演習の一つとして幼稚園の現場の子どもたちの観察も行なう。VTR教材から観察、推論活動を行なう。グループ活動もその時々に取り入れる。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点を重視する。レポートによる評価。</p>	

【授業科目】 保育内容 健康	
【開講期】 1年 後期	【担当者】 村田 務
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>子どもの健康を守り育てるために必要な事柄について理解するとともに、それらを保育の実践に活用するための知識と態度、技能を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの健康と健康保育の役割、保育者の健康管理</li> <li>2 子どもの保健管理の考え方とその方法</li> <li>3 子どもへの保健指導の考え方とその方法</li> </ol>	
<p><b>【テキスト】</b></p> <p>村田 務：子どものための健康保育，2004年度版。</p>	
<p><b>【参考書】</b></p> <p>内山 源編著：小児ための小児保健ハンドブック，ぎょうせい，1998年。 阿部明子・落合優編著：心身の健康に関する領域 健康，東京書籍，2000年。</p>	
<p><b>授 業 計 画</b></p>	
<p>幼稚園や保育所等で指導展開される「健康」領域のうち、主に保健安全分野を取り扱う。授業では、「どのようにすれば、効果的に子どもの健康を守り育てることができるか」をメインテーマとして、その基礎的な知識と実践的な技能について学ぶ。</p> <p>主な学習内容は、①保育健康論（子どもの健康と健康保育の役割）、②保健管理論（主体管理、環境管理、生活行動管理）、③保健指導論（指導内容論、教材論、指導技術論）、④保育者の健康管理、である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 子どもの健康問題</li> <li>2, 保育者の健康問題</li> <li>3, 保育施設における保健活動</li> <li>4, 保健管理の内容と方法</li> <li>5, 保健管理の実習（主として環境管理）</li> <li>6, 保育施設における保健指導</li> <li>7, 保健指導における指導内容、教材及び指導技術</li> <li>8, 保健指導のための教材つくりと実践（模擬指導を含む）</li> </ol>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>2回のペーパーテスト、及びレポート(教材つくり)。学習意欲を重視する。</p>	

【授業科目】 保育内容 言葉	
【開講期】 1年後期	【担当者】 佐々加代子
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>人間と言語との関係をおさえたとき、保育において「ことば」の領域だけを論じていくと狭い。言語の諸側面について、学生自身の言語能力にも目を向けながら、保育における、保育者と子ども（たち）との間柄の質的転換を考える。思考は行動に現れる、としてとらえていくことにする。子ども、保育者、自分、保育活動、の組み合わせで考える。それぞれの間に、媒介役として機能する教材についても検討する。</p>	
<p><b>【テキスト】</b></p> <p>佐々加代子『言語習得と人間関係』犀書房  佐々加代子『言葉資料集2004年』私製テキスト  佐々加代子監修『手あそび130』私製資料</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><b>【参考書】</b></p> <p>佐々加代子『子どもからの贈りもの』犀書房  佐々加代子『発想・想像・表現』犀書房</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>講義を主体としながら、ミニ演習（宿題を含む）、演習（レポート課題2含む）を組み合わせながら構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間と言語：言語の定義、機能</li> <li>2. 言葉とキャッチボール</li> <li>3. コミュニケーションの基本的過程</li> <li>4. 日本語の特徴、敬語</li> <li>5. 言語発達の標準像（0～6歳）</li> <li>6. 文字学習能力の発達</li> <li>7. 言語発達に関する人間関係の要因</li> <li>8. 言語指導の実際：言語の生活化、教材（絵本、紙芝居、ことば遊び、パネルシアター、素話、ペープサート、人形、視聴覚資料、手遊びなど）</li> <li>9. 障害児の言語指導：発達の遅れ、自閉症、情緒障害、聾、難聴、口蓋裂、脳性マヒ、どもり、吃音、失語症</li> <li>10. よくひびく、よくとおる、きれいな音の表現法</li> <li>11. 演習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 乳幼児の行動観察記録（レポート）</li> <li>2) 日案（レポート）</li> <li>3) 日案からの主活動の展開：保育者としての保育場面の類似体験、2回</li> <li>4) 発達助成論</li> </ol> </li> <li>12. 保育者養成における“言語”教育</li> <li>13. 研究法</li> </ol>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>出席点、平常点（ミニ演習）、レポート2、テストによって行なう</p>	

【授業科目】 乳児保育Ⅰ	
【開講期】 1年 後期	【担当者】 鈴木 佐喜子
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育の意義、乳児期の発達と保育、乳児保育の内容と方法など、乳児保育の基本を学び、乳児保育についての理解を深める。</li> <li>2. 乳児保育の具体的事例、課題を取り上げ、演習形式を交えながら、乳児保育の実践的な力量を養う。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に適宜指示する</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p> <p>授業時に適宜紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育とは <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)乳児保育の意義</li> <li>(2)人間発達における乳児期の意味</li> <li>(3)乳児保育の考え方の基本</li> </ol> </li> <li>2. 乳児期の子どもの発達と保育 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)0歳（前期・後期）の発達の特徴と保育</li> <li>(2)1歳（前期・後期）の発達の特徴と保育</li> <li>(3)2歳の発達の特徴と保育</li> <li>(4)乳児保育の実際 — 具体的事例の検討 —</li> </ol> </li> <li>3. 乳児保育の内容と方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)乳児期の生活の内容と保育</li> <li>(2)乳児期のあそびと保育</li> <li>(3)乳児保育の方法・形態と環境構成</li> <li>(4)乳児保育における記録と指導計画・保育計画の基本</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・授業への参加状況・テスト</p>	

【授業科目】音楽Ⅰ	(基礎理論)
【開講時期】Ⅰ年 前期	【担当者】 加宮葵 平野ミヨ子
【授業目標】 楽典を学ぶ事により、音楽を基礎的に理解し、保育者に要求される音楽的な表現や活動が、スムーズにすすめられるように、という事を目標にしている。	
【テキスト】 下総完一 「楽典」	
授 業 内 容	
音	音の種類と性
譜表Ⅰ (記譜上の約束ごとの理解)	五線・加線・音部記号・音符・付点音符・複付点音符・休符 付点休符・縦線
音名	拍子の数え方・休符の使い方・変化記号・速度記号・強弱記号 シンコペーション・連符・タイ
音程	全音階的音程・半音階的音程・協和音程と不協和音程
音階	長音階：調号(♯.b) 4個迄 短音階：調号(♯.b) 4個迄(自然短音階・和声短音階・旋律短音階) 音階各音の名称
調	調と調号 調の相互関係
移調	学生がよく知っている曲等を、実際に移調し、いろいろなパターンを細かく指導する。
和音(伴奏付けの基礎としての和音の理解)	三和音・主要三和音・属七の和音・ 主要三和音の転回・属七の和音の転回
譜表Ⅱ(記譜上の約束ごとの理解)	省略法・反復記号・Da Capo(D.C) Dal Segno(D.S) スラー・テヌート・スタッカート・フェルマータ・ポルタメント 装飾音符と装飾記号・トゥリル 発想記号等
【評価方法】	期末試験の成績・出席点



【授業科目】 音楽Ⅰ	(声楽)
【開講時期】 I年 後期	【担当者】 加宮葵 平野ミヨ子
<p>【授業目標】</p> <p>小グループで基礎的な、やさしい発声練習を行う事により、学生の均等な声の上達をねらい、ソルフェージュ等、教則本の予習を義務づける事により、読譜力を身につける事を目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>：ソルフェージュ Ib</p> <p>：コンコーネ50番（中声用）</p>	
授 業 計 画	
<p>① 声の出し方を理解するための、基礎発声の説明と実践</p> <p>② C-dur F-dur G-dur a-moll 等の練習曲を、スムーズに譜読みできるようにする。</p> <p>③ 伴奏付練習曲での練習により、メロディーの流れを理解する。</p> <p>④ 無伴奏でも音程を正しく歌えるようにする。</p> <p>* 1講時につき ソルフェージュ 約15曲 をマスターする。</p> <p>2講時につき コンコーネ50番 1曲</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点、平常点、テスト点</p>	

【授業科目】音楽 I	ピアノ I
【開講期】1年前・後期	【担当者】(下記参照)
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>子どもに表現力豊かな音楽環境を提供し、且つ子どもの情操発達等に資することのできる保育者として必要な音楽知識と基礎技能の習得を図る。</p> <p>1 読譜力の習得 2 視奏・鍵盤楽器の演奏に関する基礎力の習得</p>	
<p><b>【テキスト】</b></p> <p>1、鷺見五郎 著 「ピアノメソッド」：共同音楽出版社（全員が用意する） 2、バイエルピアノ教本：全音楽譜他、出版社は問わない（全員用意する）</p>	
<p>-----</p> <p><b>【参考書】</b></p> <p>1、ソナチネ、ソナタ、ブルグミュラー、モーツァルト、等 の楽譜集</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1、譜表・音符・拍子記号・各種記号並びに標語・音階・調性・和音の基礎的理解と実践による習得</p> <p>2、基礎読譜力の習得</p> <p>3、基礎読譜力と音楽能力の向上</p> <p>4、大譜表の読譜力及び鍵盤楽器の基礎技能の習得</p>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>期末試験の成績（課題曲の可否により評価する）</p>	
<p><b>【担当者】</b></p> <p>泉晶子・稲村敬子・大澤美紀・掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・諏訪玲子・関根美和子・民秋彩・中瀬千央・西山裕子・舛本清美・岡益代・平さわ・福嶋省吾・三尾恵子・西澤和枝・野村真理子・山本由紀子・長永理恵・機田美帆・関裕子・富士素子・前田真弓・港理々子 (文責：秋山)</p>	

【授業科目名】 図画工作	
【開講期】 1年 前期・後期	【担当者】 花原 幹夫・八木 紘一郎・枝常 弘
<p>【授業目標】</p> <p>◆前期…保育者として必要な造形表現の基礎技能の習得を目標とします。紙や空き箱、絵の具などの身近な素材を使った造形表現の実技演習を行います。(枝常・花原)</p> <p>◆後期…保育の造形と表現について理解します。(八木)</p>	
<p>【テキスト】 特に使用しません</p>	
<p>【参考書】 特に使用しません</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していきます。前期と後期、それぞれの第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をします。</p> <p>◆前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者としての造形表現の基礎技能とは何か</li> <li>2. 基本的な素材とその使い方について</li> <li>3. 基本的な道具とその使い方について</li> <li>4. 基本的な材料（描画材など）とその使い方について</li> <li>5. 平面を描く、つくる基本について</li> <li>6. 立体を描く、つくる基本について</li> <li>7. 造形と遊びと科学の関係について</li> </ol> <p>◆後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの造形・表現についての理解 乳幼児期のモノを扱った表現の発達と保育</li> <li>2. 遊びの表現と造形と援助 物語る遊びと機能・科学する遊びを中心に</li> <li>3. 認識と想像の表現と援助</li> <li>4. 表現を育む環境と援助</li> </ol> <p>*それぞれのテーマに沿った造形アイデアと技術の演習も行ないます</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容すべてを一冊のファイルやノートにまとめたものを評価します。</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅠ	
【開講期】 1年 後期	【担当者】 本学専任教員
【授業テーマ】 各グループ共通テーマ：人間尊重の理解と実践	
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>今日、地域環境、異文化理解、地域紛争、男女の共同参画といった人類共通の課題や、都市化、少子・高齢化と福祉、こころの崩壊、家庭のあり方、自然破壊など我が国の社会全体に関わる課題が生じている。こうした状況の中で、これからを生きる子どもたちにとって、また子どもたちにかかわる保育者の資質として、「人間尊重」の考え方が重要である。ゼミナールⅠでは、「人間尊重の理解とその実践」に関する基礎的事項について追究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまな視点から、教育・保育・福祉が直面している今日的課題を取り上げて、これらに関連する人間尊重の考え方について理解する。</li> <li>2. 人間尊重にかかわる保育内容について理解させるとともに、その内容をどのようにして子どもたちに伝えていくかという実践に関する基礎的事項について理解する。</li> </ol>	
<p><b>【授業形態】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数のグループに分かれて、担当する教員の専門性を生かしつつ、さまざまな観点から授業テーマに取り組む。</li> <li>2. 授業は、少人数による演習形式でおこなう。</li> <li>3. 文献講読やVTR視聴、実地見学などをもとに、話し合いをおこなう。</li> <li>4. 各グループからの発表の場を設け、学習成果の共通化を図る。</li> </ol>	
<b>授 業 計 画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献講読やVTR視聴などを通して、教育・保育・福祉が直面している今日的課題の概要について理解する。</li> <li>2. 実地見学や観察、調査などの体験学習により理解を深める。</li> <li>3. 教育・保育・福祉が直面する課題が人間尊重の考え方と、どのように関わっているかについて検討する。</li> <li>4. 人間尊重に関わる保育内容について調べる。</li> <li>5. 人間尊重に関わる保育内容の指導法について考える。</li> </ol>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>学習意欲、レポート、小テスト、作品、実技など</p>	

【授業科目】 幼稚園実習	
【開講期】 1年 前期	【担当者】 小松 歩・林 薫
<p>【授業目標】</p> <p>2年次に実施する「幼稚園実習」とともに、幼稚園教諭二種免許状を取得するための必修科目である。幼稚園実習をとおして、幼稚園教育の実際を学び、保育科学生としての学習の必要性を知る。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「実習ガイドブック」・「幼稚園実習日誌」必携</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>実習園の施設要覧・入園のしおり・園だよりなどを適宜使用する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1年次の実習は、6日間の「見学・観察実習」という段階の実習である。 この実習で、幼稚園での教育の実際を学び、保育者になるためには専門の学びが必要であることを知ってほしい。</p> <p>【1年次】 見学・観察実習のテーマ 「幼稚園の日課について学ぶ」</p> <p>ポイント ① 子どもの活動について学ぶ ② 保育者の活動について学ぶ ③ 保育の環境について学ぶ</p> <p>上記のテーマとポイントについては、学内での事前実習オリエンテーションで詳しく説明する。 オリエンテーションは、およそ次のような項目にそって実施する。</p> <p>① 幼稚園実習とは（全般的説明） ② 幼稚園の現場から ③ 見学・観察のポイント ④ 実習日誌の書き方 ⑤ 実習に行く前に（心構えや諸注意事項）</p>	
<p>【評価方法】 ① 学内オリエンテーションへの出席／受講状況 ② 実習日誌 ③ 実習中の出欠席 ④ 学内反省会</p> <p style="text-align: right;">などを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 実習指導	(保育所実習Ⅰ)
【開講期】 1 年 前期・後期	【担当者】鈴木 佐喜子・秋山 治子ほか
<p>【授業目標】</p> <p>保育士資格取得には学内の関連教科のほか、保育所実習および保育所以外の各種児童福祉施設での実習を必修とする。実習に入る前に、保育所の機能と役割、実習の目的、実習のテーマ、実習日誌の書き方などを学ぶ。実習後、実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成などを行い、実習日誌などの評価・指導を受ける。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>今年度の実習指導は以下の予定で実施するが、一部内容が変わる場合もある。</p> <p>《実習前》</p> <p>I. 事務手続きオリエンテーション（全実習）  実習園の一覧表、実習個票（履歴書）、身体検査書（健康診断）細菌検査、実習日誌の提出・返却に関わる一連の手続きの説明。</p> <p>II. 実習園の配属  学生が相互に話し合い（教員が割り当てる場合もある）、各自の実習園を決定する</p> <p>III. 1. 「保育所実習Ⅰ」の意義と目的（講義）  実習の目的、実習の意義、実習のテーマ。「保育所実習Ⅰ」関連教科と授業内容</p> <p>2. 実習日誌の書き方  1) 日誌を書く目的、意味、2) 日誌を書く上での諸注意、3) 記録のポイント</p> <p>3. 実習への心構えと具体的注意事項  1) 実習への抱負や課題、2) 実習に臨む姿勢（服装・健康管理など）</p> <p>IV. 保育における子どもの生活と保育の流れ（講義）  1) 今日、求められる保育所の役割  2) 保育所における保育の特徴と日課  3) 保育所の職務内容</p> <p>V. 実習生を受け入れて－保育現場から－（講義）  1) 保育所における子どもの姿、2) 保育所の役割、3) 実習生にのぞむこと</p> <p>VI. 実習日誌の提出・点検・指導</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点</p>	

【授業科目】 保育所実習Ⅰ	
【開講期】 1 年 後期	【担当者】 鈴木 佐喜子・秋山 治子
【授業目標】	
<p>【テキスト】 『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携 参考資料として各園から出されている施設概要・園だよりなどのパンフレット</p>	
授 業 計 画	
<p>学内での実習関連教科目および「実習指導」の受講後、今年度は 11月9日（火）～11月19日（金）の10日間で行われる。 1週間の幼稚園実習の体験後、初めての保育所実習である。上記の目標と 内容で10日間の実習を行う。実習は主に見学・観察、参加の形で行うが、 園によっては見学・観察だけの実習もある。また園ごとに子どもの年齢構成、 保育時間が異なるので、実習形態や実習中の配属クラスなどは園の方針、実 情などに応じて決められる。 おな実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会がある。</p>	
<p>【評価方法】 学内オリエンテーション（実習指導）への出席／受講・実習日誌の記録 実習中の出欠席・学内反省会などを総合して評価</p>	





教養教育科目（2年）



【授業科目】 海外語学研修	
【開講期】 1年 2年 前期&夏期集中	【担当者】 中島 好伸
<p>【授業目標】</p> <p>3週間イギリスでホームステイしながら、現地の大学語学センターによる授業を受け、ナマの英語に触れながら、英語運用能力を高める。さらに、英語文化圏の生活に触れることによって英語という言語の背後にある文化を吸収し、英語を総合的に理解する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>必要に応じて指示する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>この授業の柱は、8月5日成田出発—8月30日帰国の、イギリス滞在にある。 が、前期において、パスポートの取得から現地での生活に関する基礎講義、および簡単な英会話などを事前指導として5回行うことを含む。</p> <p>柱の部分の語学研修は、イギリスのリーズ市にあるリーズ。メトロポリタン大学語学センターが提供する研修(午前2コマの英語の授業)に3週間参加し、滞在はホームステイ。平日の午後にはさまざまな課外授業が用意され、世界から集まってきている学生たちと、スポーツや映画鑑賞、町でのショッピングなどもできる。さらに、中世の趣を残したヨークという街や、文豪ブロンテ姉妹(「ジェーン・エア」「嵐が丘」などで有名)の暮らしたハワースなどへの遠足も実施する。</p> <p>大まかな日程は以下のようなスケジュールで、費用は47万円ちょっと、分割もできます。 8月5日 成田出発(ブリティッシュ・エアウェイズを使用予定) ロンドン着 6日 ロンドン観光 7日 ロンドンから専用バスにてリーズへ 8日 ~ 26日 リーズにてホームステイ 語学研修 27日 リーズから専用バスにてロンドンへ 28日 ロンドン市内自由行動 29日 ロンドン・ヒースロー空港から帰国 30日 成田着</p> <p>担当の中島は全行程を同行します。この授業に参加することで外国語・応用英語の単位認定。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>現地の評価を参考に、全行程の平常点、帰国後のレポートで評価する。</p>	

【授業科目】 選択外国語 英会話（応用）	
【開講期】 2年 前・後期	【担当者】 サラ・ブロック
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>大学で英語を学ぶと英語が楽しくなります。</p> <p>もっと会話をし、自分のこと、周りのこと、日本のことを外国のかたに伝えること、そして英語を話す外国のかたと楽しく交流できるようになること（例えば就職先に外国のかたが訪ねて来た時、パニックにならず平然とした態度で「can I help you?」と言えるようになること）が目標です。</p> <p>力を伸ばすためにはチャレンジが必要なので難しくなりますが、わざと難しくはしません。</p>	
<p><b>【テキスト】</b> プリントを配布</p> <p>（講義を休んだ場合は学生同士でコピー等してください。）</p>	
<p><b>【参考書】</b> 和英辞典・英和辞典（電子辞書使用も可）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>様々な応用英語をします。</p> <p>英会話（基礎）と同じプリントで、深く発展する場合があります。</p> <p>散歩（学外授業）をし、外の空気を吸いながら、周りの自然を英語で表現、説明します。</p> <p>ニュースを読み、自分の意見を述べます。</p> <p>歌を聴いたり歌ったりして、その意味を探ります。</p>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>インタビューテスト、提出物、夏休みの課題、スキットを行う可能性もあり</p>	

【授業科目】 選択外国語 フランス語会話	
【開講期】 前期 後期	【担当者】 村山知恵
<p>【授業目標】 フランス語を1年間学んだ学生も、フランス語が初めての学生にも、フランス語を学ぶ楽しみを味わってもらいたいです。フランス語は、今まで勉強してきた英語と同じアルファベットを使い、文法も非常に似ていながら、発音が全然違い、その文化や歴史、人々の考え方も大分違います。そんなことをフランス語を学びながら感じる事ができれば、居ながらにして外国の人と触れる喜びが広がると思います。</p>	
<p>【テキスト】 “ Bienvenue en France I” (ビデオ教材) ビデオは大学にあります。 Hatier/Didier</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】 仏和辞典</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>*はじめは発音練習 (プリントによって説明します)          *次に教科書に入ります。          *授業の最初には必ずビデオ (10分ほど) を見ます。その内容を理解するように努めます。          *各課についている文法練習 (テープもついています) をします。          *各課についているフランス文化の紹介を読みます。          *最後に各課のビデオのストーリーを訳してみましよう。          *全部で13課ありますが、前期に6課、後期に残りを修了できるように努力します。          すべてフランス語で書かれているので、はじめは大変だと思うかもしれませんが、いつの間にか辞書を引くのが楽しくなるとよいと思います。</p>	
<p>【評価方法】 前期後期ともレポートによって成績を評価します。</p>	

【授業科目】 選択外国語 ドイツ語会話	
【開講期】 2 年前期・2 年後期	【担当者】 濱野 英巳
<p>【授業目標】</p> <p>ドイツ語はドイツのみならず、永世中立国のスイスや音楽の都ウィーンを首都に持つオーストリアといった様々な国で話されている言葉である。ほとんどの履修者にとって未知の言葉であろうドイツ語だが、文法の説明は必要最小限にとどめ、何よりもまずドイツ語に触れ、そしてドイツ文化に触れることを目標としたい。これからグローバル化社会を迎えるにあたり、英語以外の外国語を併せて学ぶことは、客観的な視点を持つという意味において非常に有効であろう。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>清野智昭著「ドイツ語の時間〈文法編〉」（朝日出版社）</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>開講時に指示する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>毎回90分の授業で、読み・聞き取りの練習、文法の学習などを行い、さらにCDやコピーを利用しての様々なトピックの紹介、受講者全員でのディスカッションなどによって、ドイツ語・ドイツ文化への理解を深める。詳しくは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読み・聞き取りの練習—最初は教科書を中心に一人一人のチェックを行うが、徐々に歌詞や詩などを教材にして、グループで練習を行えるようにする。</li> <li>2. 文法の学習—必要最小限の文法事項を頭に入れた後は、課題の進展度合いに応じて徐々に説明を加えて行く。与えられた文法ではなく、自ら文法を発見するという姿勢が重要。</li> <li>3. トピックの紹介—文学、音楽、料理、玩具…といった様々なトピックを紹介する。履修者の興味や問題意識によって内容の変更もあり得る。</li> <li>4. ディスカッション—各自がインターネットなどで発見したドイツに関するトピックを紹介し合い、ディスカッションをすることで興味の範疇を広げ、問題意識を深めて行く。</li> </ol> <p>注：通常は「外国語ⅠⅡ ドイツ語」の続編として、自己表現に重点を置いたより発展的な学習を行うが、今年度に限り、上記の内容でドイツ語の基礎から始める。履修者の希望によっては、後期から会話表現の学習を交えることも可能。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点、授業中の質疑応答など、小テストの成績を総合して評価する。また「良い質問」には別途プラスα点を考慮することもある。</p>	

【授業科目】 選 択 外 国 語 ( 英 文 講 読 )	
【開講期】 通 年 -	【担当者】 藤 田 久 美 子
<p>【授業目標】          様々な雑誌、新聞記事等から選んだ多彩なトピックで構成されているテキストを讀んでいく事で、さらに読解の力を付けていくことを目標としている。</p>	
<p>【テキスト】 ( Read and Think About 20 )          「 Reading Communicator 」 ( Current Topics )          ( 三 修 社 )</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>このクラスは 4 年制大学への編入希望の学生を対象とするクラスである。</p> <p>クラスでは、上記テキストを主に使いながら、英文を讀んでいく訓練を重視するが、その内にだんだんに読解の作業に慣れ、また多少早く、容易に理解していくことが出来るようにしたいと思っている。</p> <p>文章を讀むという事は、その間から頭と想像力を使っているという事である。その文章が英語で書かれたものであれば、それにさらに「英語の構文」という条件が加わるので、さらに難しく感じるものは致し方ないところである。そこで十分な予習を行なう必要が出てくる。出席者はよく調べ考えながら十分予習をし、分からないところは自分でチェックして授業に臨んでほしい。</p> <p>授業は言及してもいいし、あるいは内容についてのこまごまの質問に答えてもいいしから進めていきたい。</p> <p>その他 讀むに付随すると思われる 2-2 記事などをコピーして取り、讀んでもいい機会も持たせたいと思う。</p>	
<p>【評価方法】 出席状況、平常の練習問題の結果、また学期末のテストの結果を総合的に評価する。</p>	





專門教育科目（2年）



【授業科目名】 社会福祉援助技術	
【開講期】 2年 前期 後期	【担当者】 佐野 英司
<p>【授業目標】</p> <p>保育や幼児教育、児童福祉の各分野で求められている課題に対し、どう対応していくかの援助技術についての方法を理論的、実践的に学び、想像力ゆたかな社会福祉労働従事者への道を追求することを目標とする。また、その際、人権尊重、守秘義務など社会福祉実践上の基本姿勢について身につけられるよう留意する。</p>	
<p>【テキスト】 【参考図書】</p> <p>「講義ノート」を作成して進める予定。参考図書については適宜紹介する。</p>	
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもたちや親たち、地域住民の生活・福祉課題</li> <li>2. 保育と社会福祉援助技術 保育における社会福祉援助技術の意味、方法、</li> <li>3. 直接援助技術と間接援助技術</li> <li>4. 社会福祉調査の理論と方法</li> <li>5. 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と実際</li> <li>6. 個別援助技術（ケースワーク）の原則</li> <li>7. 個別援助技術（ケースワーク）の過程と過程で用いられる手段</li> <li>8. 集団援助技術（グループワーク）の理論と実際</li> <li>9. ソーシャルアクション（社会行動）、ソーシャルリサーチ（社会福祉調査）他</li> </ol>	
<p>【評価の方法】</p> <p>出席率を重視します。授業は定時に始めます。 成績は平常授業態度とレポートの総合点で評価します。</p>	

【授業科目】現代保育の課題	
【開講期】2年後期	【担当者】金田 利子
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>すべての乳幼児の発達保障をめざす立場から、子どもの現状を深くつかむ視点・力量を育成する。また、その現状から見て、今日の保育制度や保育実践の実態が子どもの発達要求にかなうものであるかどうかについて考察するという問題把握の能力を養うとともに、現代保育の課題を構造的に把握する</p>	
<p><b>【テキスト】</b></p> <p>日本保育学会共同研究委員会「保育基本問題検討委員会最終報告」『保育学研究』40巻1号</p>	
<p><b>【参考書】</b> 授業の過程において適宜紹介する</p>	
<p><b>授 業 計 画</b></p>	
<p>授業にワークや討論を取り入れ、学生参加の方法と、これまでの幾つかの理論を客観的に学ぶ方法の両方を取り入れ、相互に照らし合わせて考えていく方法をとる。最後の授業の段階において、それぞれが自分自身の考える「現代保育の課題」の展望を持てるように進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新聞・雑誌・書物・自己の体験等から今日の子ども及び保育に関わる問題を、KJ法を用いて学生とともに探っていく（3回）</li> <li>2. 戦後の日本における保育諸団体の大会等の基調報告をできるだけ、幼稚園教育要領や保育所保育指針、児童福祉法の改定期に合わせて長期間にわたって読み各団体の課題にしている内容を整理し、その方向づけの一致している点と異なる点を整理する       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 2002年、2003年の資料にあたる（4回）           <ol style="list-style-type: none"> <li>①日本保育学会共同研究委員会「保育基本問題検討委員会最終報告」『保育学研究』40巻1号を全員で読み検討する。講師も参加してきたので、関連して若干の講義を行う。</li> <li>②文部科学省・厚生労働省関係他、私立幼稚園保育園関係、民間保育諸団体の大会基調報告をそれぞれ分担し報告する</li> </ol> </li> <li>2) 90年代・80年代の諸資料にあたる（2回）</li> <li>3) それ以前の素資料と研究書にあたる（2回）</li> </ol> </li> <li>3. 今日の保育制度と実践の現状にあたる。（2回）</li> <li>4. 1での実態調査と、2, 3での学習を照らし合わせて、今日の課題と21世紀の展望について討論し、まとめる。（2回）</li> </ol>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>出席・授業への積極性・ワーク・討論への参加・レポート等により総合的に評価する</p>	

【授業科目】	養護原理	
【開講期】	2年 前期	【担当者】 中山正雄
【授業目標】	1. 養護問題の発生の原因と背景を理解させる。 2. 社会的養護の果たす役割、児童福祉施設等の役割について理解させる。 3. 児童福祉施設における社会的養護の実際を理解させる。 4. 社会的養護によって生活する子どもの生活と権利を理解させる。 5. 児童福祉施設で働く保育士としての役割や子どもへの援助について理解させる。	
【テキスト】	開講時に提示する	
【参考書】	養護施設は今編集委員会（編）『いつか愛を知る日のために』ひとなる書房 『子どもが語る施設の暮らし』明石書房	
授 業 計 画		
1. 養護問題の発生の原因と背景 (1) 養護問題とは何か (2) 児童養護の歴史 (3) 社会・家庭の変化と子どもの問題 2. 社会的養護と児童福祉施設の役割 (1) 児童養護の体系と領域 (2) 児童相談所の機能と役割 (3) 施設養護とホスピタリズム (4) 里親制度の現状と里親養護の役割 (5) 児童福祉施設と児童福祉施設最低基準 3. 社会的養護の実際 (1) 児童養護施設 (2) 乳児院 (3) 母子生活支援施設 (4) 児童自立支援施設 (5) 知的障害児施設 (6) 肢体不自由児施設 (7) 情緒障害児短期治療施設 (8) 心に傷を受けた子どもへの対応 4. 施設で生活する子どもの生活と権利 (1) 最低基準と生活水準 (2) 集団生活と個の尊重 (3) 意見表明権等子どもの権利の実現 (4) 職員と子どもの関係 (5) 児童養護の原理・原則 (6) 苦情処理・第三者評価と生活の改善 5. 施設職員の専門性とチームワーク (1) 施設職員に求められるもの (2) 施設職員の専門性と倫理 (3) 施設職員のチームワークと資質 (4) 施設労働の内容と条件 (5) 児童養護の課題		
【評価方法】	授業の出席と定期試験	

【授業科目】小児保健実習	
【開講期】2年 前期	【担当者】山田 万智子・原 照子・久保田 登久乃
<p>【授業目標】</p> <p>乳幼児の発育発達を理解し、その養育上の心得と観察ポイント、並びに日常起り易い病気、異常事故の特徴を知る。早期に発見する方法や応急処置等を、実技実習をとおしてすぐ実践できる技術を習得させる。</p> <p>予防第一と考えその安全面を十分に考察することを学習させる。 (障害児の取り扱い方も、加味して実習を行う。)</p>	
【テキスト】	小児保健実習 白野幸子 著 医歯薬出版K.K.
【参考書】	赤十字救急法教本 日本赤十字社編 乳幼児保育指針 坂田 堯 著 日本赤十字社医療センター附属乳児院編 担当教師の実習テキストなど
授 業 計 画 (実習講義と実習内容)	
<p>1、健康状態の観察</p> <p>(A) 一般状態の観察 (きげん・顔つき・顔色・動作・食欲・睡眠)</p> <p>(B) 身体各部の観察</p> <p>2、基礎的養護方法 (身体の清潔(沐浴)、抱き方、おむつの当て方など)</p> <p>3、身体の発達・測定の仕方・評価の仕方</p> <p>(A) 身長、体重、胸囲、頭囲の測定の実習</p> <p>(B) 乳歯・永久歯との関わりと、う歯予防についてなど</p> <p>4、病気や異常の見分け方・病児の世話</p> <p>(A) 重傷であるかどうか保育者としての見分け方</p> <p>(B) 体温、呼吸、脈拍測定の実習</p> <p>(C) 薬の与え方 (散薬・水薬・座薬など)、薬の保管</p> <p>(D) 罨法 (湯たんぽ、氷枕、氷のうの入れ方)</p> <p>(E) 症状処理等の記録</p> <p>(F) 感染予防 (予防接種、発見と隔離、消毒法)</p> <p>5、乳幼児に起り易い症状とその対応</p> <p>発熱・発疹・嘔吐・腹痛・下痢・便秘・咳・けいれん・脱水</p> <p>6、乳幼児に起り易い事故とその対応</p> <p>(A) 窒息・誤飲・異物混入・熱中症・創傷・熱傷・咬傷・突指・頭部外傷などの応急処置</p> <p>(B) 事故防止のための安全管理、安全教育、安全指導</p> <p>(C) 心肺蘇生法</p> <p>(D) 止血法、包帯法、体位・運搬法</p> <p>7、健康な子どもを育てる。(赤ちゃん体操、外気浴など)</p> <p>8、国及び地方自治体の支援システム及び、その活用</p> <p>9、保育者、保護者の健康管理の必要性</p>	
<p>【評価方法】 実技実習(実物大の人形での積極的な取り組み)</p> <p>テスト・レポート・出席状況で総合的に評価する。</p>	

【授業科目】小児栄養Ⅱ	
【開講期】2年 前期	【担当者】林 薫
<p>【授業目標】</p> <p>「小児栄養」では、子どもたちへの食事支援の方法や栄養学的な基礎知識を学び、保育士としての役割を理解し、実践力を養う事を目的としています。子どもは保育されるという受身の立場であり、保育士・養育者の認識に大きく影響されます。その為、保育士を志す学生は自分自身の食生活の重要性を理解し、望ましい生活・食生活環境の中で、子ども達の食べる力をはぐくんでいけるように実践力をつけて頂きたいと考えております。</p>	
<p>【テキスト】上田 玲子編著 「子どもの食生活と保育」 (樹村房)</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】講義の中で紹介します。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>・授業計画と進め方</p> <p>授業は講義と実習形式で行います</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児期の栄養</li> <li>2. 乳児期の食事 (調理実習)</li> <li>3. 幼児期の栄養と食生活</li> <li>4. 幼児期の食事 (調理実習)</li> <li>5. 学童期・思春期の栄養と食生活</li> <li>6. 小児をめぐる諸問題 (小児疾患を中心に)</li> <li>7. 児童福祉施設の給食</li> <li>8. まとめ (これから保育士に求められるもの)</li> </ol>	
<p>【評価方法】出席状況・提出物・定期試験で評価します。</p> <p>実習は夏休みに集中講義として、1班5~6人に分けて、調理・供食を行います。エプロンと三角巾を持参してください。実習の時のみマニキュアは禁止します。</p>	

【授業科目】 精神保健	
【開講期】 2年 後期	【担当者】 土川 洋子
<p>【授業目標】</p> <p>精神保健は、心の健康保持・増進を目指す学問と実践です。ここでは、子どもをとりまく社会全体の精神保健について広く学びます。とくに小児精神保健を中心に学びますが、その保護者の精神保健についても理解していきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>精神保健 新・保育士養成講座編纂委員会 編, 全国社会福祉協議会.</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>なし</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>大規模授業の弊害を最小限にするために、毎回出席カードを配布し、裏面に感想・質問を記載して提出していただきます。次回の授業中にそれらの感想や質問に応じていきます。より興味をもって受講できるように、視聴覚教材をできるだけ活用します。</p> <p>&lt;授業内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健の概念</li> <li>2. 精神保健の基礎知識</li> <li>3. 子どもの問題行動</li> <li>4. 子どもの精神障害</li> <li>5. 子どもの問題行動の理解・観察・対応</li> <li>6. 療育システム</li> <li>7. 養育環境の中の精神保健</li> <li>8. 養育環境における保護者の精神保健</li> <li>9. 対人援助職に求められる自己理解</li> <li>10. トピックス (SIDS: 乳幼児突然死症候群、虐待など最近の時事から)</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、授業内のミニレポート、テスト</p>	



【授業科目名】 保育内容 人間関係	(社会行動)
【開講期】 2年前期	【担当者】 民秋 言
<p>【授業目標】</p> <p>社会的存在としての人間は、社会生活を前提とする。社会のなかで、つまりいろいろな人たちとさまざまななかかわり（人間関係）をもち乍ら生活する（すなわち子どもは育つ）ことを学ぶ。同時に子どもが社会的成長を遂げるために、園生活の中で保育者がどのようににはたらきかけていくか（保育の展開）についても学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>大場牧夫・大場幸夫・民秋 言著『子どもと人間関係－人とのなかかわりの育ち』萌文書林      ハンドブック教育・保育・福祉編集委員会編『ハンドブック教育・保育・福祉』北大路書房</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「保育内容・人間関係（社会行動）」という科目が、幼免・保母資格取得課程に設けられている意味を説明する。他の保育内容系科目との関連－共通点と異なる点も併せて説明する。</li> <li>2. 保育所保育指針と幼稚園教育要領でとり扱われている「保育の内容」「ねらい及び内容」の概略をおさらいする。他科目でもくり返し行われているであろうが重要なところであるから、ていねいに話す。</li> <li>3. 保育指針、教育要領いずれも保育内容は5領域に分けられ、そのうちの一つが当該科目の「人間関係」にかかわるものであることを話す。併せてとくに保育指針では「養護」と「教育」という側面が在ることも説明する。</li> <li>4. 人間は社会的存在である。つまり社会の中で人とのなかかわりの中で生まれ、育ち、生活する存在である。そのなかかわりこそ「人間関係」とよばれうものであり、このなかかわりなくしては人間ありえないことを説明する。</li> <li>5. 社会生活とは共同生活ともいえる。人間が生活することのメカニズムを「人との共同」に焦点を併せるが、その前に生活を行動の連続としておさえ、人間の行動の特徴を何点か明らかにする。</li> <li>6. 子どもが社会の中で育つことはただ単に肉体的・生理的に成熟を遂げることだけではない。社会的な育ち（社会的成長）を必要とする。その育ちの過程を社会化として捉える。社会的育ちの手がかりを得る。</li> <li>7. 人間が社会生活＝共同生活をするためには、自分の欲求を充足すると共に他の人の欲求充足をも許さなければならない。そこに一定の生活（行動）のしかたが生ずる。これを文化と呼び、この文化を習得していくことが子どもの社会的成長となる。この過程が社会化である。</li> <li>8. 子どもにとって文化はさまざまなはたらきをするが、ここでは社会（園生活）規範としての文化に注目する。また、その文化に規程され乍ら展開するいろいろな人間関係の相について説明する。</li> <li>9. 園生活では「人とのなかかわりの育ち」を大切にする。いままで学んだところを礎にして、具体的な子どもの園生活像をえがく。「依存」から「自立・自律」はまずその第一歩である。</li> <li>10. 園生活における「人とのなかかわりの育ち」は集団生活において、もっとも端的にあらわれる。その集団生活を子どもたちにどのように送らせるか、子どもにとっての集団のあり方を考える。</li> <li>11. 「人とのなかかわり」＝人間関係の育ちにかかわる実践的な問題点をいくつかあげることで本講のまとめとする。保育者が日常の保育の場でしっかりと「人とのなかかわり」を育てる力を子どもに習得させ視点を述べる。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">期末にペーパーテストを実施</p>	

【授業科目】 保育内容 環境	
【開講期】 2年 前期	【担当者】 近藤正樹・小作明則・橋本みのり
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>子どもたちは、自然環境の中で、自然物・自然現象に出会って、知的体験を拡大し、自然法則を感得していく。この教科では、これらの体験を適度に提供できる保育者を養成するために必要な“知識と体験の事前学習”と“教育方法”を含み、保育現場で底力が発揮できる保育者に仕立てたいと思っている。講義ばかりでなく、実習体験を組み合わせ、不得意を得意に導きたい。休日のうち1日を野外実習にあて、総合的な体験学習を行う。</p>	
<p><b>【テキスト】</b></p> <p>テキストは使用しない（プリントを配布する）</p> <hr/> <p><b>【参考書】</b></p> <p>参考書は演習や講義ごとに紹介する 基本的なものは大学図書館にある（一部は指定図書扱いなので要注意）</p>	
<p><b>授 業 計 画</b></p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この教科の理解のために この教科の法律的な位置づけ——憲法・教育基本法・学校教育法・児童福祉法・教育職員免許法・保育士資格者法など 教育とは何か——実際に役立つ定義と保育者の指導方法 環境とは何か——一般的な考え方・幼児教育界での「環境」と「認識」・「環境教育」 自然とは何か——自然・人為・人工・自然物・自然現象・自然法則・「自然度」が意味するもの</li> <li>2. 幼児のための環境設定 栽培——畑づくり・土づくり・農具の使い方・施肥と防虫・栽培計画・栽培実習 飼育——「ムシ」とは何か・「ムシ」に強くなろう・飼育の要点・正解は観察してから</li> <li>3. 保育者に必要な先行体験（演習を含む） 植物にあかるい保育者になるために——身近な雑草の観察 花・茎・葉・根の特徴 ——検索のしかた・図鑑の使い方・顕微鏡の使い方 ・植物の観察とスケッチ 「ムシ」を知っている保育者になるために——「ムシ」のいろいろ・昆虫の基本構造・ 発育と変態・昆虫の生活 ——「ムシ」の構造観察とスケッチ</li> <li>4. 保育者の質の向上（教育のサイドから） 「これなあに」に強くなるために——認識と質問の関係・概念形成のための質問と対応のしかた 「なぜ」「どうして」に強くなるために——知識の拡大の質問と対応のしかた・「正しい話」と「うその話」・解答不能の扱い方 本から学ぶ——教科書・総説・原論文の特徴と活用術・雑学の推め・本の読み方・読書技術</li> <li>5. 保育者の質の向上（自然認識のサイドから） 植物の構造と機能——有機栄養の生産者として・変温生物の一員として 動物の多様性——脊椎動物と無脊椎動物 集団生活のもち方 天象と気象——天気と気象・天気図の見方・天体の物理現象 生物季節——春はどこから来るのか・二十四節気・初見日と終見日・年中行事</li> <li>6. 自然保護と自然保護の考え方 生命尊重の意味——「かわいい」「かわいそう」の問題 自然尊重の意味——生物の多様性が注目される意味・生態系のバランス・環境教育とは何だろう</li> </ol>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>演習の成果・宿題の結果・期末試験の成績を総合して行う</p>	

【授業科目名】	保育内容 表現	
【開講期】	2年前期	【担当者】 加宮葵
【授業目標】		
<p>幼児の発達をよく理解し、その発達の段階にそった音楽の表現活動を、スムーズに指導する事のできる保育者を育てる。</p>		
【テキスト】		
<p>【子どもが音楽を好きになるとき】 加宮 葵 著 音楽之友社</p>		
授 業 計 画		
授業のねらい	授 業 内 容	
幼児の心と音楽の関係を良く認識する。	1) 教育理論編 ① 幼児教育における音楽について ② 幼児の心の発達と音楽的感覚の開発について	
表現としての音楽の認識 発達に応じた望ましい音楽のあり方を認識する	③ 表現としての音楽 ・うたう事のはじまり・音を出す事のはじまり ・幼児の集団とうた ・幼児の集団と楽器	
音楽教育の第一歩は、きくという活動から始まる事を認識する	2) 指導と実践編 ① 幼児の音楽鑑賞 [音楽を聞く能力の発達段階の特徴] ② 幼児のうたの指導 ・年少児・年長児	
学生が実際に、いろいろな楽器の特徴や奏法を知る事により、使用する目的・場所等への適応、曲のリズム、メロディー、伴奏等への考慮が出来るようにする	③ 幼児の楽器の指導 ・簡易楽器の特徴と奏法 ・基本リズムパターンの習得 ・年少児・年長児の合奏指導 ④ 幼児の創作指導と実践	
指導計画・指導案を知る	⑤ 指導計画・指導案 ・年間指導計画・月間指導計画・日案 週案(具体的なうたや楽器の指導計画) ⑥ 教材曲の実践例等	
★全出席を原則とする。		
【評価方法】		
<p>期末試験の成績・特に出席点を重視する。</p>		

【授業科目】 保育内容 表現	
【開講期】 2年 前期	【担当者】 若松 美恵子
<p>【授業目標】</p> <p>子どもは見たこと、感じたことをいろいろな時や場において、言葉や身体で表現する。その幼児の身体表現に関する基本的知識を習得し、子どもの自発的な表現を育み、感受性、表現意欲、創造性を豊かに育てるための援助・指導の基本的な方法を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>石井美晴・菊地秀範 編「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼稚園教育要領における「表現」の内容と保育内容での位置づけ 領域「表現」における「身体で表現する」の位置づけ</li> <li>2 身体で表現することの意味、および幼児の身体表現の特性       <ol style="list-style-type: none"> <li>①表現の意味</li> <li>②身体表現の意味</li> <li>③幼児の身体表現の特性</li> </ol> </li> <li>3 幼児の運動・言語・情緒・社会性の発達、および日常に見られる身体表現の発達       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 運動、言語、情緒、社会性の発達と身体表現</li> <li>② 0～5歳児の身体表現の発達と特徴</li> </ol> </li> <li>4 幼児の身体表現力の変化とその特徴       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 3歳児の身体表現</li> <li>② 4歳児の身体表現</li> <li>③ 5歳児の身体表現</li> </ol> </li> <li>5 子どもの身体表現を豊かに引きだし育むための保育者の援助・指導       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 援助の基本的姿勢 ② 表現の題材 ③ 動機づけ ④ 豊かにとらえる</li> <li>⑤ 豊かに表す ⑥ 援助と言葉がけ</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席および筆記試験</p>	

【授業科目名】 保育内容 表現	
【開講期】 2年 前期	【担当者】 花原 幹夫・ 八木 紘一郎・海老原 京子
<p>【授業目標】</p> <p>子どもが、造形的な表現文化行動様式を獲得できるような援助の内容と方法を理解します。そのための具体的な〈表現文化行動理解〉〈教材理解〉〈援助指導方法〉の三つの基本を主に習得することを目標とします。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『新しい表現遊び ―総合的表現活動の指導法―』…八木・枝常・花原・海老原（フレーベル館）</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>子どもの表現文化行動は、身体を媒体にする音楽やダンスなどの表現文化行動と、モノを媒介にする造形的な表現文化行動の両方をミックスさせながら総合的に展開されます。このことを視野に入れた上で、授業では後者の造形的な表現文化行動を中心に、その援助指導方法の基本を学びます。</p> <p>以下のテーマについて授業を展開していきます。</p> <p>第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの表現文化行動とは</li> <li>2. 子どもの表現文化行動の基本となる援助指導方法の理解</li> <li>3. 素材、材料から展開する援助指導方法の理解</li> <li>4. ひとつの造形活動から発展させる援助指導方法の理解</li> <li>5. テーマ別の造形活動とその援助指導方法の理解</li> <li>6. 総合表現の援助指導方法の理解</li> <li>7. 造形的な表現文化行動の指導計画の立て方とその理解</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平常授業での課題を評価します</li> <li>・ 授業内容すべてを一冊のファイルにまとめたものを評価します</li> </ul>	

【授業科目名】 幼児の運動遊び	
【開講期】 2年 後期	【担当者】 村田 務
<p><b>【授業目標】</b>          幼児の運動遊びや運動文化を体験することにより、様々な運動遊びを創り出したり工夫できる能力を養うとともに、保育実践に生かせる指導力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼児の運動文化を体験し、活発な動きや多様な運動遊びを習得する。</li> <li>2 運動遊びの創造や工夫を通して、指導に必要な発想力と創造力を身につける。</li> <li>3 幼児の身体的、精神的及び社会的発達をふまえた運動遊びの内容について理解する。</li> <li>4 幼児を対象とした運動遊びの援助や指導の方法を理解し指導力を身につける。</li> </ol>	
<p><b>【参考書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・杉原 隆編著：新版 幼児の体育、建帛社、2000.</li> <li>・玉井美知子監修：子どもから学ぶ保育活動「健康」、学事出版、2001.</li> <li>・瀬戸口清文：子どもが熱中する運動遊び、明治図書、1997.</li> </ul>	
<p><b>授 業 計 画</b></p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼児の運動文化の内容と体験（運動遊び・運動文化を体験する）             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 遊具を使わない遊び                 <ol style="list-style-type: none"> <li>①ムーブメント遊び（移動、走・跳、平均、押引、運搬、追逃）</li> <li>②鬼ごっこ（かわり鬼、子増やし鬼、ひょうたん鬼、場所取り鬼、陣取り鬼）</li> </ol> </li> <li>2) 小さい遊具を使った遊び                 <ol style="list-style-type: none"> <li>①ボール ②フープ ③フライングディスク ④縄 ⑤新聞紙 ⑥風呂敷</li> </ol> </li> <li>3) 大きい遊具を使った遊び                 <ol style="list-style-type: none"> <li>①マット ②平均台 ③跳び箱</li> </ol> </li> <li>4) 固定遊具を使った遊び                 <ol style="list-style-type: none"> <li>①ブランコ ②滑り台 ③ジャングルジム ④雲梯 ⑤鉄棒</li> </ol> </li> <li>5) 伝承遊び                 <ol style="list-style-type: none"> <li>①手指（釘差し、めんこ、お手玉、おはじき、ビー玉）</li> <li>②足（ゴム、缶けり、石けり）</li> <li>③頭（人数集め、大将しっぽ取り、模倣遊び）</li> <li>④全身（鬼遊び）</li> <li>⑤手作り遊具を使った遊び（けん玉、こま、たこ、竹馬）</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2 運動遊びの工夫と創造（自分たちで創り上げる）             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 遊具や設備を用いないで体だけでできる楽しい遊び</li> <li>2) 遊具や設備を用いた楽しい遊び</li> </ol> </li> <li>3 幼児の運動遊びの発達と指導（運動遊びの理解と具体的な援助・指導法を学ぶ）             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 運動遊びの発達段階</li> <li>2) 運動遊びの援助と指導</li> <li>3) 指導案作成と模擬指導の実践</li> <li>4) 指導実践の評価</li> </ol> </li> </ol>	
<p><b>【評価方法】</b>          出席点と平常点（学習意欲、学習態度）</p>	

【授業科目】 子どもの活動と自然	
【開講期】 2年 後期	【担当者】 吉川 研二
【授業目標】 自然教育と環境教育を基本に、幼児教育の場としての自然を考える。身近な自然の中での直接体験により、野外活動の基本的理解と基礎的技術を学び、自然の諸事象を認識し理解する。子ども達の自然体験の場、屋外活動の場としてどう利用するか、子どもと共に自然の中で楽しむ遊びを学び、保育における自然環境の大切さについて理解する。	
【テキスト】 『小さな自然観察』平凡社	
----- 【参考書】 ビオトープに関する本、草花遊び・野遊びなど子どもの野外活動に関する本 野草・昆虫・水生小動物などの図鑑ほか	
授 業 計 画	
I (講義)  II (講義) III・IV・V (野外実習)  VI (演習) VII (演習) VIII (講義)  IX (講義と演習)  X  XI (講義)  XII～XV (演習)	この科目の主目的とねらい 自然の見方、とらえ方 自然に触れることの意義 環境教育の視点 人間と自然との関係 野外の自然観察の方法 身近な自然体験 人の生活と共存する自然 動植物の採集と観察 動植物の基礎知識 『草花遊び図鑑』の作成① 野外活動の方法 野外活動の技術 地図を読む 危険に対処する知識と能力 子どもの基礎的自然体験 動植物とのつきあい方 自然の中での遊び 動植物を利用した遊び、創作活動 『草花遊び図鑑』の作成② 環境の保全と創造 日常生活の中での自然の理解 子どもの遊び環境としての自然の保全 子どもの遊び環境としての自然を創るービオトープ 子どものための野遊び空間の設計
【評価方法】 野外実習＋演習の総合レポート＋平常点	

【授業科目】 お話しの世界	
【開講期】 2年後期	【担当者】 佐々加代子
<p>【授業目標】</p> <p>絵本や紙芝居、児童文学などにみる日本や世界のお話しについて理解させ、その世界の広がりやさまざまな表現方法とともに学ばせる。読み聞かせ、語り聞かせの技法の習得、保育場面での導入とその評価、子どもたちの口頭詩となることばの世界の拾い出し、鑑賞を通して言語の生活化に位置づくお話しの世界を学ばせる。さらにお話しの創作で表現方法の習得も学ばせる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>菅井健『話しことばの練習帖』晩成書房  佐々加代子『子どもからの贈りもの』犀書房  佐々加代子『発想・想像・表現』犀書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>佐々加代子『コミュニケーション能力弱者のQOL援助』犀書房  佐々加代子作成の絵本のリスト、過去の学生の創作のお話し作品集</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>演習を中心に捉えながら個人とグループでの行動とする。グループ間で相互に学びあう場面として授業時間を利用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人として取り組むものは5つある <ol style="list-style-type: none"> <li>1. よく響く、よくとおる声の養成；音声表現の技術、技法の習得</li> <li>2. 教材となるお話しの世界の良否を吟味する確かな選択眼の養成 お話しとして収録されて市販されている絵本、紙芝居、パネルシアター、エプロンシアター、人形劇、童話、児童文学作品などから、広義にとらえる「保育において生きる作品」かどうかの選定</li> <li>3. 2. の表現法としてのさまざまな展開を考えて模擬演習</li> <li>4. お話しの創作（表現方法を含める）</li> <li>5. 保育場面での導入法の検討。子どもたちへの語りかけから評価までに求められる保育者の技法についての習得</li> </ol> </li> <li>・グループとして取り組むものは4つある <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 選定した絵本などの作品集の編集とそのまとめ</li> <li>2. 創作活動から得た表現方法と作品についてのまとめ</li> <li>3. 作品発表会で発表するグループの創作作品の検討とその発表及びまとめ</li> </ol> </li> <li>・相互に学びあうものとしては3つある <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 持参されてきた作品の検討とその鑑賞</li> <li>2. 作品とその音声表現の技法についての評価</li> <li>3. 作品発表会での評価</li> </ol> </li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席状況</li> <li>2. 平常点</li> <li>3. 提出課題の評価</li> <li>4. 作品発表会での発表とその評価による</li> </ol>	



【授業科目】子どもの音楽の世界	
【開講期】2年 後期	【担当者】秋山治子
<p>【授業目標】 乳幼児の音楽発達の段階的特徴を理解し、子どもの音楽発達に応じた興味を育て・展開させることのできる音楽基礎技術の習得と援助・指導方法を講義と実践をとおして理解し習得することを目的とする。尚、子どもの歌曲は毎回歌う予定である。</p> <p>乳児期、子どもは声を発声し⇒自分自身でコントロールできないが故に様々な高さの声を発し⇒次第に自分の声をコントロールできるようになると節（フシ）を歌いだし歌う楽しさの体験を積んでいく。他方生活周辺の音を聞き分け⇒色々な物から出る音の存在を認識し⇒楽器という美しく整備された「音の道具」から出る音を知り⇒その音を出すことを経験し⇒友達と声や音を響き合わせる共同作業を楽しみ⇒音楽の形を創り上げた時の満足感、達成感を子どもなりに味わい、自信をつけていく。この様な多くの音楽的体験が子どもの精神的成長発達を助け、情緒の安定を築いていく。 授業では保育者として更なる音楽の応用力を身につけ、幼児の音楽経験の順次性を重視しながら、子どもに無理の無い、より良い実践方法を学んでゆく。</p>	
<p>【テキストと楽譜】（全員が用意する） ①「子どもの歌」秋山治子著 共同音楽出版社 [参考書] 「表現」①②高野雅子著 保育出版社</p>	
授 業 計 画	
<p>① オリエンテーション（テキスト、楽譜、シラバス持参のこと） 幼児曲等をうたう</p> <p>② 乳児期の音楽上の発達について</p> <p>③ 日本語と日本音階の上に成立している“日本のわらべ歌”と西洋音階の上に成立している幼児曲の本質的な違いを学ぶ。 また、日本音階の基礎理論と西洋音階の基礎理論を知り、日本の子どもの乳児期とわらべ歌の自然なつながりについての理解を深める</p> <p>④ 幼児期の音楽発達について</p> <p>⑤ 3歳児クラスに於ける音楽の様々な活動（あそびも含む）について考える</p> <p>⑥ 々</p> <p>⑦ 4歳児クラスに於ける音楽の様々な活動について考える</p> <p>⑧ 々</p> <p>⑨ 5歳児クラスに於ける音楽の様々な活動について考える</p> <p>⑩ 々</p> <p>⑪ 幼児にとっての楽器で色々な楽しい活動をする事と、合奏練習することの本質的相違について考える</p> <p>⑫ 歴代の代表的な音楽教育家の思想とメソッドについて理解を深め、保育の中で「子どもが音楽に親しみ、楽しむために」と「子どもの音楽能力を向上させるために」という考え方の本質や方向性について考えを深める</p> <p>⑬ 々</p> <p>⑭ 乳幼児の音楽活動と保育者の影響について、総合的にとらえて、まとめてみる</p> <p>⑮ 々</p>	
<p>[評価]</p> <p>①出席状況      ②レポート</p>	

【授業科目名】 子どもの造形と遊び	
【開講期】 2年 後期	【担当者】 花原 幹夫・森田浩章
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもは、様々な目的をもって「描く」「つくる」という造形表現方法を組み合わせながら「デザイン」をしていきます。そのプロセスを実践的に理解していきます。</li> <li>2. 子どもの造形と遊びにおける物的環境や教材を実践的に理解していきます。</li> <li>3. 子どもの造形と遊びにおける具体的な援助方法（計画・方法・記録・評価）を実践的に習得していきます。</li> </ol> <p>以上の内容を演習を中心にして、‘楽しく’授業をすすめていきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していきます。</p> <p>*第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもが〈もの〉や造形を通して主体的に遊びを創りだしていくプロセスについて       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 乳児の〈もの〉（布など）を扱う遊びや、おもちゃ（手づくりと既製）と遊びとの関係と発達過程</li> <li>(2) 幼児の造形と遊びの関係とその発達過程</li> </ol> </li> <li>2. 造形と遊びにおける物的環境や教材について       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 配慮すべき物的環境や教材</li> <li>(2) 手づくりおもちゃと既製のおもちゃ</li> <li>(3) 紙、箱、容器、粘土などの身近な素材材料を利用した造形アイデアとその活用方法</li> </ol> </li> <li>3. 造形と遊びにおける具体的な援助方法（計画・方法・記録・評価）について       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの主体的な造形と遊びの具体的な展開と援助方法</li> <li>(2) 多彩なおもしろさを育む造形と遊びの具体的な展開（企画運営）方法と援助方法</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平常授業での課題を評価します</li> <li>・ 授業内容すべてを一冊のファイルにまとめたものを評価します</li> </ul>	

【授業科目】 遊びと身体表現	
【開講期】 2年 後期	【担当者】 若松 美恵子
【授業目標】	
<p>子ども達が遊びのなかで見せる様々な身体表現を適切に援助・指導できるようになるための知識、技能の習得を目標として実践的に学ぶ。また、子どもの身体表現を援助・指導するのに必要な豊かな想像力、創造力、表現力を養う</p>	
【テキスト】	
石井美晴・菊池秀範 編 「保育の中の運動あそび」 萌文書林	
-----	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>1 身体表現の意味と子どもの育ち</p> <p>2 遊びにおけるリズムカルな動き</p> <p>(1) 自分の知っている歌や曲にあわせて歌を口ずさんだりしながらリズムカルに動き、体で表現することを楽しむ</p> <p>(2) リズムカルな曲や伴奏によって、いろいろな方法で自由に歩いたり、走ったり、跳んだりまた、体をいろいろな方法で動かし、リズムカルに動くことを楽しむ</p> <p>(3) わらべ歌や歌を伴った遊戯のように、歌を歌いながらリズムカルな動作を繰り返すことを楽しむ</p> <p>(4) フォークダンスのように、リズムカルな曲にあわせて決まった動きやステップを繰り返し、みんなが一緒に伝承的な踊りを楽しむ</p> <p>3 遊びにおける想像と身体表現</p> <p>(1) イメージとふりの動作・ふり遊び</p> <p>(2) ごっこ遊びと身体表現</p> <p>(3) 劇遊び・表現遊びと身体表現</p> <p>4 身体表現の援助・指導</p> <p>(1) 身体表現の援助・指導の基本的姿勢</p> <p>(2) 遊びに見られる身体表現の援助・指導</p> <p>(3) 劇表現の援助・指導</p> <p>(4) 身体表現活動の援助・指導</p> <p>5 身体表現と劇・ダンス</p> <p>(1) 豊かなイメージの広がり</p> <p>(2) 豊かな創作活動の展開</p> <p>(3) 豊かな表現力の向上</p>	
【評価方法】	
出席と学習意欲、態度	

【授業科目】	乳児のあそび	
【開講期】	2年後期	【担当者】 頭金多絵
【授業目標】	<p>☆ 何よりも、心から安心できる心地よい関係の中でこそ、豊かなあそびが生まれ発展していくことの理解を深める。</p> <p>☆ 乳児の発達とあそび、大人の役割と援助のあり方、環境や玩具を具体的事例を通して学び、理解を深める。</p> <p>自分（学生）自身が、仲間の中で、仲間と共に安心の世界をつくり出しながらあそび、「心からの楽しさ」を共感する。</p>	
【テキスト】	特に使用しない	
【参考書】	授業の中で紹介する	
授 業 計 画		
♪生きる力をあそびの中で♪		
<p>◎ 大人との共感的かかわりを土台に安心の世界であそび、人間らしい心を育てよう。</p> <p>◎ 五感を刺激して、情報をからだいっぱい感じ取りながらあそび、かしこい子を育てよう。</p> <p>☆ 上記を柱として、主に実践事例の中から、総合的に学んでいく。</p> <p>乳児のあそびの種類と発達</p> <p>乳児のあそびの環境づくり（人的環境を含む）</p> <p>外あそび</p> <p>水・砂・土であそぶ</p> <p>自然事物との豊かな出会いを</p> <p>からだをつくるあそび</p> <p>手・指を使ったあそび</p> <p>運動あそび</p> <p>みたて・つもり・ごっこ</p> <p>まねっこあそび</p> <p>人物のつもりになってあそぶ・憧れてあそぶ</p> <p>絵本の世界を楽しむ</p> <p>☆ あそびの実際</p> <p>実践ですぐに役立つ「手あそび」「つながりあそび・うた」「身近なものを使ったミニ劇場」</p>		
【評価方法】	出席状況・授業内のミニレポート・平常点	

【授業科目】 保育計画法	
【開講期】 2 年 前 期	【担当者】 師 岡 章
<b>【授業目標】</b> 1. 保育カリキュラムの全体構造を理解させる。 2. 指導計画の作成手順を具体的に理解させる。 3. 子どもの実態を把握する方法について、様々な記録方法を用いて習得させる。 4. 目標・ねらいの種類と内容について、事例をもとに理解させる。 5. 指導計画の立案方法を、事例をもとに習得させる。 6. 保育実践の評価方法を、事例をもとに習得させる。	
<b>【テキスト】</b> 金村美千子編 『教育課程・保育計画総論』 同文書院	
<b>【参考書】</b> 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 厚生労働省 『保育所保育指針』	
<b>授 業 計 画</b>	
1. 保育カリキュラムの全体構造 (1) 保育所保育指針・幼稚園教育要領と園の保育計画の関係 (2) 教育課程・保育計画と指導計画の関係 (3) 指導計画の種類とその内容・意義  2. 指導計画の作成手順 (1) 指導計画の作成過程 (2) 計画・実践と評価の関係  3. 子どもの実態把握と保育記録 (1) 子ども理解の本質 (2) 保育の記録法と実際  4. 目標・ねらいの種類と内容 (1) 保育所保育指針・幼稚園教育要領のねらいと内容 (2) ねらいの種類と実際  5. 指導計画の立案方法 (1) 中・長期指導計画（年間指導計画、期案、月案）の実際と立案 (2) 短期的指導計画（週案、日案）の実際と立案 (3) 年齢別指導計画の実際と立案 (4) 活動別指導計画の実際と立案  6. 保育実践の評価方法 (1) 評価の方法と実際 (2) 保育カンファレンス	
<b>【評価方法】</b> 出席状況、レポート、作成した指導案などをもとに総合して評価する。	

【授業科目】 幼児教育の方法	
【開講期】 2 年 後 期	【担当者】 師 岡 章
<b>【授業目標】</b> 1. 幼児教育の基本を理解させる。 2. 我が国の保育実践の現状と課題を理解させる。 3. 保育の形態と指導方法の関係について理解させる。 4. クラス運営の方法について理解させる。 5. 保育環境の構成について理解させる。 6. 保育内容の指導法について理解させる。 7. 視聴覚教材の活用法について理解させる。	
<b>【テキスト】</b> 上野恭裕編『新保育方法論』保育出版社、2000年  <b>【参考書】</b> 八木 紘一郎編『ごっこ遊びの探究—生活保育の創造をめざして』新読書社、1992年 無藤 隆監修『知的発達を支える保育』フレーベル館、1999年	
授 業 計 画	
1. 幼児教育の基本 (1) 幼児期の発達特性と幼稚園教育要領・保育所保育指針 (2) 幼児期の発達と園生活の内容とその構造 2. 保育実践の現状と課題 (1) 一斉保育と自由保育 (2) 外国の保育方法の受容 (3) 保育ニーズと園経営 3. 保育形態と指導法 (1) 自由形態と設定保育 (2) 個別指導とグループ指導 (3) 異年齢保育 4. クラス運営の方法 (1) クラス概念と集団保育の展開 (2) 保育者の役割と指導の構造 (3) 保護者への対応 5. 保育環境の構成 (1) 環境を通じた教育と保育環境の概要 (2) 保育の環境構成の実際 6. 保育内容の指導法 (1) 遊びを中心にした総合的な指導 (2) 基本的な生活習慣の自立 (3) 課題活動の指導 7. 視聴覚教材の活用 (1) ビデオソフト・テレビ番組の活用法 (2) パソコンの活用法	
<b>【評価方法】</b>  出席状況とテスト	

【授業科目】 乳児保育Ⅱ	
【開講期】 2年 前期	【担当者】 鈴木 佐喜子
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育Ⅰの基礎の上に、乳児保育のあゆみ、乳児保育の理論、地域・家庭の生活や子育ての実態と保育所の果たす役割を学習し、広い視野から乳児保育を捉える。</li> <li>2. 乳児の指導計画の立案や乳児保育における具体的事例の検討を通じて乳児保育における実践のあり方を考え深めていく。</li> </ol>	
<p>【テキスト】 授業時に指示する</p> <hr/> <p>【参考書】 授業時に紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>乳児保育をめぐるさまざまな問題を考えるため、演習形式を交えて、以下のようなことを行う予定である。その中で各自が、乳児保育をとらえる総合的な視点を深め、乳児保育のあり方、内容、方法についての課題意識を育んでいけるようにしていきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育の現状とあゆみ       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)今日の親の労働実態や子育ての実態と乳児保育</li> <li>(2)乳児保育の現状と課題</li> <li>(3)わが国における乳児保育の歩み</li> <li>(4)乳児保育をめぐる考え方</li> </ol> </li> <li>2. 乳児の指導計画と保育実践       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)乳児の指導計画の実際</li> <li>(2)指導計画の立案・検討           <ul style="list-style-type: none"> <li>— あそびの計画を中心に —</li> </ul> </li> <li>(3)乳児保育における具体的事例の検討           <ul style="list-style-type: none"> <li>— 子ども理解、保育者と子どもとの関係を中心に —</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>3. 乳児保育における保育者のあり方と専門性</li> </ol>	
<p>【評価方法】 出席・授業への参加状況・テスト</p>	

【授業科目】	養護内容	
【開講期】	2年 後期	【担当者】 中山正雄
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設で生活する子どもの事例を通して、子どもの生活への具体的な援助を理解させる。</li> <li>2. 子どもの事例を通して、社会的養護の理念を理解させる。</li> <li>3. 具体的なテーマや子どもの抱える課題について、演習をとおして実践的能力を身につけさせる。</li> <li>4. 児童生活支援、家族生活支援の計画から援助までの実際を理解させる。</li> <li>5. 援助者としての施設職員のあり方について理解させる。</li> </ol>	
【テキスト】	福永博文編著「養護内容」北大路書房	
【参考書】	『子どもが語る施設の暮らし』明石書店	
授 業 計 画		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設で生活する子どもたち <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 親の状況から家庭で生活できない子どもたち</li> <li>(2) 環境から逸脱行動を起こした子どもたち</li> <li>(3) 心身に障害を持つ子どもたち</li> <li>(4) 虐待を受けた子どもたち</li> </ol> </li> <li>2. 児童養護の理念 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの最善の利益</li> <li>(2) 生存と発達の保障</li> <li>(3) 子どもの権利と権利擁護</li> </ol> </li> <li>3. 施設における援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 基本的な生活習慣と日常生活</li> <li>(2) 生活の中の治療としての人間関係と生活目標</li> <li>(3) 子ども集団を生かした積極的養護</li> <li>(5) 親子関係調整</li> <li>(6) 学校や地域との関係</li> <li>(7) リービングケア・アフターケア、自立への援助</li> </ol> </li> <li>4. 児童養護計画、自立支援計画の実際 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 個別児童援助計画の実際</li> <li>(2) グループ援助計画の実際</li> <li>(3) 行事計画の実際</li> <li>(4) 家族支援計画の実際</li> <li>(5) 自立支援計画の実際</li> </ol> </li> <li>6. 施設職員論 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 施設職員に求められるもの</li> <li>(2) 施設職員の資質</li> <li>(3) 施設職員としての倫理</li> </ol> </li> </ol>		
【評価方法】	出席状況と討議への積極的参加及びレポート	



【授業科目】 障害児保育	
【開講期】 2年 前期	【担当者】 堀江まゆみ
<p>【授業目標】</p> <p>障害のあるこどもの保育アプローチにおける基本的な知識と技術を理解する。</p> <p>さまざまな障害児保育の実践を知り、保育現場の悩み、親の手記など具体的な事例を通して障害児保育の見方や考え方を深める。</p> <p>また、自らの感性やイマジネーションを磨くことの大切さにも気づく。</p>	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>「保育所における障害児への対応」 障害児保育研究会編（全社協）</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害児保育の意義と理念</li> <li>2. 障害のある子どもの基本的理解とその援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>①「人間」的理解    ②「障害」に関する理解    ③「発達」的理解</li> </ol> </li> <li>3. 親の心理とその援助</li> <li>4. 障害児保育の実践 <ol style="list-style-type: none"> <li>①知的障害    ②肢体不自由    ③広汎性発達障害</li> <li>④保育園・幼稚園における「気になる子」を中心に</li> </ol> </li> <li>5. 保育集団における仲間関係（障害のない子どもたちとの関係）</li> <li>6. 保育所と地域生活支援機関との連携 <ol style="list-style-type: none"> <li>①連携の意義と進め方    ②通園施設における「出前療育」</li> </ol> </li> <li>7. 保健・福祉行政と障害児保育</li> <li>8. まとめ</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験（持ち込み不可）、平常点</p>	

【授業科目】 保育臨床相談	
【開講期】 2年後期	【担当者】 佐々加代子、森 玄枝
<p>【授業目標】</p> <p>幼稚園、保育園などの保育の現場で日々の保育に携わっている保育者たちが直面している子どもたちのさまざまな問題についての問題の見かた、考え方、子どもたちとのかかわりかたについて、具体的な問題から検討すること、及び保護者からの相談についても同様に検討し、保育者自身がその問題を解きほぐすことができるようにすることを目標とする。また、保育者と専門職との境界についても検討しながら、子育て支援における保育者の役割を明確にすることで、保育における臨床相談のあり方を学ばせる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>佐々加代子『発達臨床相談』犀書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>佐々加代子『コミュニケーション能力弱者のQOL援助』、『子どもからの贈りもの』、『言語臨床相談』すべて犀書房 他、随時紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>佐々と森の同時開講。 1回目は全員を対象として全体の概要を説明する。 佐々は理論から実践までの全体を統括する。森は実践から得られた問題とその解決法の導かせ方などを事例をもとに概説し、方法論を模索させながら展開していくという進めかたをする。講義の内容を両者が半分ずつ分担する。以下の内容について検討していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における保育の臨床相談の内容；子育て支援の現場から</li> <li>2. 保育園における保育者たちからの相談内容からの検討；3歳未満児の場合</li> <li>3. 保育園における保育者たちからの相談内容からの検討；就学前の子どもたちまでの場合</li> <li>4. 保護者からの相談内容からの検討</li> <li>5. 幼稚園における保育者たちからの相談内容からの検討</li> <li>6. 子育て支援の現場で見出す内容；臨床的に考えるということ</li> <li>7. 相談をうける保育者としての役割について及び保育者同士の連携</li> <li>8. 専門職との境界領域；専門職との連携のとり方</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>1. 出席状況 2. 平常点 3. 課題提出の評価 4. レポート、による</p>	

【授業科目名】 音楽Ⅱ	(声楽)
【開講期】 2年前期・2年後期	【担当者】 加宮葵・惣田修・豊野雄次郎
【授業目標】 小グループでの発声練習や練習曲の視唱になれてきた所で一人ずつの視唱にかえてゆき、人の前での(無伴奏・伴奏付)演奏が自由に出来るようになることを目標としている。	
【テキスト・参考書】 : ソルフェージュ 1b : コンコーネ50番	
授 業 計 画	
① 45分の授業の中で、ソルフェージュを隔週に1回位の割合でソロすることにより、人前での演奏に慣れる(無伴奏) ② コンコーネを階名で練習し、声区の転換と息のミックスを感じる為に、各母音で、細かく練習をする。 又、学生全員の前に出て演奏する(伴奏付)事により、自発的に進んで歌えるようにする。 ③ コンコーネを細かく練習することにより、曲をきれいに、楽しく歌えるようにする。 ④ 複雑な音程やリズムのパターンを記憶する能力を養い、読譜力、音楽表現力(正しいリズムや、音程をもって表現する能力)をも養う。	
【評価方法】 平常点・出席点・期末テストの成績	

【授業科目】 音楽Ⅱ	ピアノ
【開講期】 2年前期・後期	【担当者】 秋山治子・他(下記参照)
<p><b>【授業目標】</b>          保育者として子どもの発達に応じた音楽的興味を育て、且つ展開させることのできる音楽の応用技術の習得を図り、子どもに対する援助・指導方法を理解することを目的とする。</p> <p>① 主として鍵盤楽器による伴奏法の習得          ② 保育者に要求される鍵盤楽器の音楽的表現や幼児曲の実践力の育成</p>	
<p><b>【テキスト】</b></p> <p>1、秋山治子 監修「コードネーム・和声・伴奏付け」：共同音楽出版社          2、秋山治子 著「子どものうた楽譜集」：小学館          3、秋山、舛本、高林共著：「キラッとマーチ」：共同音楽出版社</p>	
<p>-----</p> <p><b>【参考書】</b></p> <p>1、ソナチネ、ソナタ、ブルグミュラー、他</p>	
<p><b>授 業 計 画</b></p>	
<p>1、譜表・音符・拍子記号・各種記号並びに標語・音階・調性・和音の深い理解</p> <p>2、読譜力と音楽能力の更なる向上</p> <p>3、大譜表の読譜力及び鍵盤楽器の応用技能の習得</p> <p>4、幼児曲を中心とした伴奏法の習得及び実践力の育成と音楽能力の向上</p> <p>5、マーチ、スキップ、ワルツ等身体表現に付帯する音楽演奏技能の習得</p>	
<p><b>【評価方法】</b>          期末試験の成績（詳しくは年度当初に配布するピアノカードを読むこと）</p>	
<p><b>【担当者】</b>          泉晶子・稲村敬子・大澤美紀・長永理恵・掛場久子・機田美帆・小西千鶴・諏訪羚子・          関根美和子・永坂緑・中瀬千央・西山裕子・舛本清美・松本宏子・富士素子・前田まゆみ・          港理々子・秋山治子          (文責：秋山)</p>	

【授業科目】 体 育	
【開講期】 2年 前期・後期	【担当者】若松美恵子 有川いずみ
<p>【授業目標】</p> <p>保育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能を習得させ、自ら動ける身体を作り、体力の維持増強をはかる。また、子どもの発達をふまえ、保育における、運動遊びの援助・指導に関する、基礎的な知識や技能の習得を目指し、実践的に学ばせる</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>石井美晴・菊地秀範 編「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1 身体運動に関する基本的な知識と技能</p> <p>(1) 運動の種類と体の動かし方</p> <p>(2) 身体の部位と体の動かし方</p> <p>(3) 基礎的ステップの種類と動き方</p> <p>(4) 体力の種類と高め方</p> <p>(5) 自ら動ける身体作り</p> <p>①運動の極限までのびのびとリズムカルに身体を動かすことができるようにする</p> <p>②自分で多様な動きを豊富に見つけ動けるようにする</p> <p>③動きの連続がなめらかで変化に富んだある感じをとらえた一連の動きを作れるようにする</p> <p>④表現したいものになりきって動き、身体で表現できるようにする</p> <p>2 保育と子どもの身体運動に関する基礎的知識</p> <p>(1) 体育の意味と保育</p> <p>(2) 子どもの体力の意味と発達</p> <p>(3) 子どもの運動能力の意味と発達</p> <p>3 保育実践における必要な知識や技能</p> <p>(1) 幼児期の心身の発達と運動遊び</p> <p>(2) 保育の中での運動遊びの基本と保育者の援助・指導のあり方</p> <p>(3) いろいろな運動遊びの基本と保育者の援助</p> <p>(4) 運動遊びの計画と指導の実践</p> <p>4 運動遊びにおける安全管理に関する知識</p> <p>(1) 幼児の健康・安全指導</p> <p>(2) 運動内容と安全管理</p> <p>(3) 運動遊具と安全管理</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>前期に実技試験を2回行い、学年末の筆記試験の成績と合わせて評価する 授業に出席し体を動かすことを重視する</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	
【開講期】 2年 前期・後期	【担当者】 本学専任教員
【授業テーマ】 各グループ共通テーマ：人間尊重の理解と実践	
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>今日、地域環境、異文化理解、地域紛争、男女の共同参画といった人類共通の課題や、都市化、少子・高齢化と福祉、こころの崩壊、家庭のあり方、自然破壊など我が国の社会全体に関わる課題が生じている。こうした状況の中で、これからを生きる子どもたちにとって、また子どもたちにかかわる保育者の資質として、「人間尊重」の考え方が重要である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間尊重という視点から、教育・保育・福祉が直面している今日的課題について理解を深めるとともに、その解決に必要な能力を身につける。</li> <li>2. 教育・保育・福祉の課題にかかわる指導内容を適切に指導するために必要な実践的能力を高める。</li> </ol>	
<p><b>【授業形態】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数のグループに分かれて、担当する教員の専門性を生かしつつ、さまざまな観点から授業テーマに取り組む。</li> <li>2. 授業は、少人数による演習形式でおこなう。</li> <li>3. 文献講読やVTR検討、調査、見学、観察、指導案や教材の作成、模擬指導の実施など、具体的な保育実践に即して演習する。</li> <li>4. 各グループからの発表の場を設け、学習成果の共通化を図る。</li> </ol>	
<b>授 業 計 画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゼミナールⅠの学習成果をもとに、文献やVTRソフトの検討などにより、学習課題を明確にするとともに、教育・保育・福祉が直面している課題について理解を深める。</li> <li>2. 教育・保育・福祉の課題に関わる事項について、調査や見学、観察などを実施して具体的に理解する。</li> <li>3. 人間尊重という視点から、教育・保育・福祉の課題について解決策を考える。</li> <li>4. これらの学習成果をもとに、人間尊重に関わる保育内容を適切に指導できるようにするために、指導案や教材の作成、模擬指導などをおこなう。</li> <li>5. さまざまな観点から取り組んできた「人間尊重の理解と実践」についての学習成果を各グループごとに発表し（ゼミナール発表会等）、演習の成果を共有する。</li> </ol>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>学習意欲、学習態度、レポートなど</p>	

【授業科目】ゼミナールⅡ	
【開講期】2年 前期・後期	【担当者】秋山治子
<p>【授業目標】</p> <p>① 音楽を知る、わかる、近づく、工夫する、楽しむ。</p> <p>② 色々な保育場面で対応できるような音楽表現力と指導力を各自が得る。</p> <p>③ 上記①②で培った力を生かして一人またはグループで小論文を書く。</p>	
【テキスト】	
<p>【参考書】</p> <p>ゼミの中で適宜、指定紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>① 乳幼児向けの手遊びを実践する</p> <p>② 大学の中にある色々な幼児向けの打楽器・シンセサイザー・旋律楽器に親しむ</p> <p>特にミュージック・ベルを中心にして、楽器を幼児の年齢発達に合わせて導入する方法についてゼミ全員で取り組む。</p> <p>そして、ミュージック・ベルを幼児の合奏の中に無理なく取り入れるにはどうしたらよいかについて、を共同の研究課題とする</p> <p>③ 白梅祭でミュージック・ベルの演奏ほかピアノの連弾、大正琴の合奏、歌などを発表する</p> <p>③ (子どもの) 音楽についての疑問点や問題点を出し合う</p> <p>④ オーケストラ曲の中に出てくる楽器や旋律やリズム形などを聴き、たのしむ。 それらを基礎に置いて幼児向けの器楽編曲について勉強する</p> <p>ミュージック・ベルとハンドベルとの違いを知るために、ハンドベルの演奏会をゼミ全員で聴きに行き、ゼミ活動をたのしむ</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>1、ゼミ活動への参加状況（出席）</p> <p>2、レポート（2年次1回目の授業に提出する）</p>	

【授業科目名】	ゼミナールⅡ
【開講期】	2年前期・2年後期
【授業目標】	コンサートでの演奏、ミュージカルの公演など、自分たちの声を生かした発表の場を一回でも多くもつこと。（実際に人の前で演奏する事により、自分の声の改善されていない部分を再認識し、より良い声へ向けて研究・努力すること）
【テキスト・参考書】	: 加古三枝子 「歌のうたい方」 (参考書) : 歌曲・ミュージカル等 テキスト多数 * 研究室にすべて用意してあります。
授 業 計 画	
<p>ゼミナールⅠで、基本姿勢、基礎発声等を学びやや声が出るようになったゼミナールⅡでは、一人一人の声質にあった歌曲等やや専門的なレッスンに入ります。それと並行してミュージカルの具体的な練習に入っていきます。専門的なレッスンの成果は、ゼミ員の自主的な催しとして、</p> <p style="padding-left: 40px;">クリスマスコンサートや新春コンサート等 演奏の形で発表します。</p> <p>又 子どものミュージカルやディズニーパラダイスなどを研究し（時間が、ある場合のみ）幼稚園・保育園・児童館等で公演したりする事もあります。</p> <p>こまかい授業のすすめ方や、ミュージカルの選定（ゼミナールⅠで決定されている場合を除き）はゼミのメンバーの顔ぶれによって、話し合いのうえ決定します。</p>	
【評価方法】	平常点



【授業科目】	ゼミナールⅡ
【開講期】	前期 後期
【授業目標】	<p>童話・絵本とは何なのか、対象化して考える態度を養いたい。          史的な展開の中で、童話・絵本を捉える態度を身につけたい。          現在に至るまでの様々な童話・絵本・ビデオ作品のなかで、今期は特に          「優しさ」はどう描かれているかをテーマに、具体的に見ていきたい。</p>
【テキスト】	<p>小川未明・新美南吉・宮沢賢治・斎藤隆介などの作品から          宮崎駿の作品(ビデオ) ほか</p>
-----	
【参考書】	<p>随時、プリント配布。</p>
授 業 計 画	
<p>日本の童話の最初に位置づけられる小川未明以下の作品を中心に読む。</p> <p>① * 作品を輪読し、担当者のレポートとそれに基づくディスカッションで、作品の読みを深める。          * 未明以下の作品の評価をめぐる様々な意見について検討する。          童話とは何か、考えたい。</p> <p>②未明以下の童話の中で、絵本になっているもの、そうでないもの の違いについて考える。          絵本とは何か、考えたい。          物語性(主題・展開)・ことばと映像喚起の問題など。</p> <p>③未明・南吉・賢治の童話 を比較して、相互の位相差について考える。</p> <p>また、国内外を問わず様々な童話・絵本・ビデオにあたり、様々な「優しさ」の表現について調べ、優しさとは何か、その表現の差異、等について考えたい。</p>	
【評価方法】	<p>出席・ゼミへの参加態度・提出物・レポート</p>

【授業科目】 ゼミナールⅡ	
【開講期】 2年 前期・後期	【担当者】 小松 歩
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 乳幼児期の子どもの育ちを、具体的な実践場面の観察をとおして理解する。</li> <li>2 子どもの遊びを分析的にとらえる力を養う。</li> <li>3 調べること、考えること、わかることの楽しさを知る。</li> </ol>	
<p>【テキスト】 授業のなかで適宜、紹介する。</p>	
<p>【参考書】 授業のなかで適宜、紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p style="text-align: center;">「遊び」をとおして子どもの育ちと援助について考えよう</p> <p>ゼミナールⅠで進めた「子どもにとっての遊びの意味」の学習を、具体的な遊び場面にテーマを絞ってさらに深めます。</p> <p>まず各自が興味をもつ分野についてレポートをし、基本的知識を整理しながら、その分野に関して、今の子どもの「育ち」の実状や、影響する諸問題などを明らかにします（新聞記事や文献の講読など）。</p> <p>また、幼稚園や保育所などで具体的な生活や遊びの様子を実際に観察し、実際の子もたちの「育ち」について理解を深めます。</p> <p>そして、文献などで学んだことと比較しながら、現代の子どもが主人公として健やかに「育つ」ために必要なことは何か、私たちにできること（援助）は何かなど、一緒に考えてみましょう。</p> <p>研究テーマとしては次のようなものが考えられる。</p> <p>「遊びの“おもしろさ”の分析」：子どもは「遊び」をするなかでどんなことにおもしろさを感じているのか。そもそも「おもしろさ」とは何なのか、実際に遊んでみたり、観察をしたり、文献をまとめるなどして考えてみたい。</p> <p>「ごっこ遊びの分析」：幼児期の中心な遊びである「ごっこ遊び」は、子どもの生活経験が反映している。実際に行われている「ごっこ遊び」のテーマや内容から、今の子どもの経験内容と、何が育っているのかを考える。</p> <p>どんなテーマにするかは、ゼミメンバーと相談して決定したい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">ゼミ活動への参加姿勢と研究テーマへの取り組み</p>	

【授業科目】ゼミナールⅡ			
【開講期】2年 前期・後期		【担当者】近藤正樹	
<b>【授業目標】</b> 身近な自然事象について、認識を深めるための体験を大切にしながら、まだ知らなかったことや、疑問を解くために、個人単位で研究をすすめる。この学習を通して、研究の企画・実施・論文の書き方・発表（口頭発表およびポスター発表など）のしかたについて体験することになる。知らないことを知るためには“勉強”や“した調べ”という活動と“研究”という手段がある。後者についての体験を身につけてほしい。			
<b>【テキスト】</b>  <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <b>【参考書】</b> 演習中に紹介する			
<b>授 業 計 画</b>			
4月13日	武蔵野の植物	9月21日	夏休みの研究報告
4月20日	武蔵野の灯火に集まる虫	9月28日	論文紹介
4月27日	武蔵野の土壌にいる虫	10月5日	論文紹介
4月29日	校外学習（高麗→宮沢湖）	10月12日	論文紹介
6月1日	雑木林の小動物	10月19日	テーマ研究中間報告
6月8日	草地・林の小動物	10月26日	報告書提出・評
6月15日	田無演習林の灯火にいる虫	11月30日	テーマ研究の補い
6月22日	田無演習林の土壌動物	12月7日	テーマ研究の補い
6月29日	田無演習林の地上小動物	12月14日	テーマ研究の補い
7月6日	レポートの書き方	12月21日	ゼミ旅行レポート提出
7月13日	レポート提出・評	1月11日	レポート添削
7月20日	個人研究テーマ検討	1月18日	ゼミ発表準備
8月2日 ～4日	ゼミ旅行	1月25日	ゼミ発表準備
<b>【評価方法】</b> 学習態度・研究計画と方法・論文・口頭（ポスター）発表などの成果を総合して行う			

【授業科目】ゼミナールⅡ	
【開講期】 2年前後期	【担当者】佐々加代子
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>教員と少人数のメンバーとともに、さまざまな活動を通して、“創造”すること、“表現”することをねらいとする。考えられる人、行動できる人、創造できる人、をめざすことにある。</p>	
<p><b>【テキスト】</b></p>	
<p><b>【参考書】</b>  佐々加代子『コミュニケーション能力弱者のQOL』犀書房 ほか佐々の著書  及び随時提供する</p>	
<p><b>授 業 計 画</b></p>	
<p>保育者はさまざまな子どもたちと、さまざまな状況で出会う。そのような状況にあっても、その時、その場で瞬時に判断して対応することが求められる。保育者であろうとすることは、同様に、ひとりの人間としての自分自身をみることになる。どのような人間関係を切り結んでいるのか、その内容は……。さまざまな人間関係の場면을、コミュニケーション場面としておさえ、その時々発信者としての自分、受信者としての自分の内容を見つめるということをする。また、子どもと親、子どもたち同志、などのさまざまな人間関係のみかた、その上での関係の展開法・かかわりかたなどについて考えられる人をめざしていく。</p> <p>そのために以下の活動をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児の観察（新生児からを含む）</li> <li>2. 障害児の観察</li> <li>3. 保育園児、幼稚園児における遊びの観察</li> <li>4. 1～3の場面でのかかわり、ともに活動することを通して、発達について見る目を養成</li> <li>5. さまざまな場面の設定による、さまざまなかかわりの工夫の検討</li> <li>6. 教材の活用とその習熟（絵本、紙芝居、素話、パネルシアター、人形など）</li> <li>7. 発信者としての技量のひとつとしての、音声、朗読力などの養成</li> <li>8. 発信者としての技量のひとつとしての、“想像から創造”の表現法の工夫と創作</li> </ol> <p>いずれも、保育者としての質につながるものとしておさえている。</p>	
<p><b>【評価方法】</b>  平常点で行なう</p>	

【授業科目名】      ゼミナール Ⅱ	
【開講期】          前期    ・    後期	【担当者】          佐野 英司
<p>【授業目標】</p> <p>ゼミ基本テーマ   ：   「ノーマライゼーションの追求」</p> <p>1年生ゼミで学び考えた成果をもとに、2年次ゼミでどこに焦点をあててゼミ研究を進めるか、ゼミ学生と話し合い、決めていくことを当ゼミでは基本としている。</p> <p>【2004年度の場合】</p> <p>これまで8期にわたる佐野ゼミ学生の研究到達点、とりわけ最近3年間学生が手がけた「障害児・者ととともに暮らす地域を求めて・・・乳幼児健診とその後の対応をめぐる・・・」、「子どもや親の願いにあった保育をつくる一統合保育の在り方をめぐって」、「子育て支援のあり方研究」を継承し、滋賀県大津市の実践から学び、自ら住む自治体での障害児・者福祉、統合保育の在り方をどう構築していくかを学び研究していきたい。具体的には、学生と相談しながら決めていきます。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>ゼミ開講時およびゼミ開講中に必要に応じて示す。</p>	
<p>【授業計画】</p> <p>1年次ゼミは担当教員がリードし、基礎的な学習を、実体験を含め幅広く展開してきました。それを基礎に、2年次では学生が主体で研究活動を進めていきます。</p> <p>16名のゼミ学生の力を結集して自ら立てた研究課題を追求していけるよう、教員はアドバイザーとして学生の力を引き出し援助していきます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミへの出席状況、研究テーマへの積極度、共同研究、共同行動への関わり度により評価する。</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	
【開講期】 2年 前期・後期	【担当者】 鈴木 佐喜子
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゼミナールⅠの学習を基礎に、保育・幼児教育をめぐる諸問題を学習し、保育・幼児教育についての理解、課題意識を深める。</li> <li>2. 一つのテーマに絞って、共同で学習する中で、自らの問いを調べ、深めていくことを体験し、専門的・実践的な力量を高めていくことを目指す。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に適宜、紹介する</p> <hr/> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今日の保育・幼児教育をめぐる現状と保育実践の課題 保育・幼児教育の内容・方法や保育・幼児教育をめぐる様々な問題を取り上げた文献、論文の精読、レポート、討論を行う。</li> <li>2. ゼミ研究の共通テーマを決め、それに沿って学習を深める 各自の研究関心を一つのテーマに絞って、主体的に調べ、学習したことをまとめていく。 〔過去のゼミ・テーマ〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京の延長保育</li> <li>・親と保育者の関係</li> <li>・乳児の遊びとおもちゃ</li> <li>・共働きの子育てと保育所</li> <li>・地域子育て支援について</li> <li>・育児用品と子育て</li> <li>・母乳と育児用粉乳について</li> </ul> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミ活動への出席、参加姿勢、研究テーマへの取り組み</p>	

【授業科目】ゼミナールⅡ	
【開講期】 2 年 前期・後期	【担当者】瀧口 優
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1年のゼミを基礎に、平和・非暴力の文化についての研究をすすめる。</li> <li>2. 子どもを取り巻く暴力的な文化について、実践的に検討する。</li> <li>3. 望ましい子ども観とは何かを具体的な作品を読みながら考える。</li> <li>4. 新しいメディアについてその内容を検討する。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>「脱暴力宣言」平和文化</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>「軍隊のない国コスタリカ」草の根出版会</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの周りのおもちゃを分析、検討する。</li> <li>2. 子どもが視聴するテレビの番組について非暴力の観点から分析する。</li> <li>3. 様々な絵本を非暴力の観点から分類し、どの年齢にふさわしいか検討する。</li> <li>4. コンピューターによるテレビゲームの問題点について検討する。</li> <li>5. 子どもをとりまく漫画文化について非暴力の観点から調査する。</li> <li>6. 子どもが見る映画やビデオを非暴力の観点から調査、分析する。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>ふだんの学習状況などの平常点（出欠、予習、質問、意見発表など）とレポートで行う。</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	
【開講期】 2 年 前期・後期	【担当者】 民秋 言
<p>【授業目標】</p> <p>保育のなかの年中行事 私たちの生活には、さまざまな年中行事があります。それは、さかんに行うものもありますが、あまりさかんでないものもあります。社会全体からみるとさかんに行われているものもありますが、自分にとってはあまり意味のないものもあります。日本に伝統的なものもありますが、わりに近いときに外国から入ってきたものもあります。いずれにしても、私たちの生活の節目の役割をもっています。</p> <p>こうした年中行事は保育のなかにもみられ、そして保育の節目の役割を果たしています。本ゼミナールでは、この年中行事を4月から順次取りあげ、その意味を考え、保育カリキュラムを組み立てる勉強をします。</p>	
<p>【テキスト】 萌文書林『子どもに伝えたい年中行事・記念日』萌文書林編 萌文書林『幼稚園・保育所での研究の進め方と実例』民秋言編著</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>(1)年中行事は私たちの生活のなかで、どのような位置を占めているかを考える。 1年間12か月あるいは春・夏・秋・冬の四季ごとにさまざまな年中行事がみられる。私たちの生活は、従来は、この年中行事によってリズムが保たれていた。今日の生活では、どのような位置を占め、役割を果たしているのか考える。</p> <p>(2)年中行事にはさまざまなものがあることを理解する。 年中行事に、ともすれば歴史的に古いものと思われがちである。しかし、その内容を検討するとさまざまなものがあることに気付く。宗教に関するもの、ヨーロッパからの伝来のもの、政治的ないみをもつもの、実生活に直ちにつながるものなど、いろいろなポイントから整理する。</p> <p>(3)今日の生活で、直に影響をうけている年中行事をまとめる。 上記(2)のなかで、いまの生活の中で直接影響をうけている年中行事をとりあげ、その意味をしっかりとめてみる。</p> <p>(4)保育の中に導入すべき年中行事のいみを検討する。 いまの保育には多くのそしてさまざまな年中行事が組み込まれている。それぞれにはどのようないみがあるのか、その検討をしっかりとしたうえで、保育の中に導入すべきものはどれか、を考えてみる。</p> <p>(5)保育カリキュラムの中に位置づく年中行事のあり方を考える。 保育の中の年中行事は、そのカリキュラムとの関連で、捉えてみる必要がある。カリキュラムの流れの中に無理なく組み込まれていることが大切だからである。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常授業の成績による</p>	



【授業科目】ゼミナールⅡ	
【開講期】2年 前期 2年後期	【担当者】富永静枝
<p>【授業目標】</p> <p>男女がともにそれぞれの能力を生かし、ともに人間らしく生きるためにはどうしたらよいか、男女それぞれの自立と21世紀における望ましい家族のあり方やについて考える。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは使用しない。必要に応じて授業時に資料プリントを配布する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業中、必要に応じて紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>前期</p> <p>新聞の切り抜き情報を集めた「女性情報」の中から、子ども・女性・仕事・家族に関する記事を各自の関心にそって選び出し、それを手がかりにして、現代女性の抱えている諸問題を考察する。</p> <p>各自数冊の「女性情報」に目を通し、その中から自分が最も関心を寄せた問題を選び、その情報が伝える問題点を明らかにし、わからない点は調査して報告する。</p> <p>ゼミの構成員全体で互いに学び合い、理解を深めるために積極的な討論が展開されることを期待したい。</p> <p>後期</p> <p>学生自身の将来設計における就労の位置付けを明確にするため、特に「女性と職業」に重点をおいて学習をすすめる。</p> <p>女性労働の現状を理解し、仕事と家事育児の両立、家族のあり方や子育てのあり方について考える。また国や地方自治体の育児支援政策などについても理解を深める。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末のレポート、平常時の提出物、出席状況の総合評価</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	
【開講期】 2年 前期・後期	【担当者】 中山正雄
<p>【授業目標】</p> <p>虐待を受けた子どものケアの実際を数箇所の施設で調査し、子どもへのケアの体制と内容について学びます。専門的な職種の中で保育士の果たす役割を追及します。</p> <p>また、施設での合宿を通して虐待を受けた子どもへの対応の実際を学びます。</p>	
<p>【テキスト】 1年次の「子ども虐待～その発見と初期対応～」を引き続き使用</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】 必要に応じて紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1. 調査の目的、内容、調査対象、方法の検討</p> <p>2. 施設合宿に向けての獲得目標の検討</p> <p>3. 施設合宿に向けての紙芝居作り</p> <p>4. 調査の実施と集計・結果の検討</p> <p>夏休みのゼミ合宿に向けて、4～7月は1～3をグループごとに論議して進める。</p> <p>調査項目と調査の方法を6～7月に行い、8.9月に訪問調査を実施</p> <p>夏以後は、調査の実施と集計を行なう。結果についてグループごとに検討してまとめる。</p> <p>ゼミとしては、集団で協力し合い進めていくことを第一として仲間作りも大切にすすめる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と積極的な参加姿勢</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	
【開講期】 2年 前期・後期	【担当者】 花原 幹夫
<p>【授業目標】</p> <p>大きくは『子どもの造形と遊び』について、協同で学びます。共通の具体的なテーマと目的にそって、各自が主体的に問題意識をもち、協同しながら実践的に学んでいきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>◆特に「保育とデザイン」というアプローチで活動をすすめていき、「モノのデザイン」（造形におけるデザイン）と、「コトのデザイン」（計画デザイン）を考え、さらに、「子どものデザイン活動」をどうとらえていくかを、保育現場などで実践的な方法論を用いながらすすめていきます。</p> <p>◆具体的なテーマ・目的・方法などについては、こちらの提案とゼミナールメンバーの話し合いの上、調整して、初期の段階で決定していきます。</p> <p>◆活動の運営については、ゼミナールメンバー各自が主体的に役割を分担し合い、自分たちの立てた計画スケジュールと、こちらのスケジュールとを調整しながら行なっていきます。</p> <p>★<u>ゼミメンバー相互で常に連絡連携をとり合いながら、互いの動きを把握しながら、全体の動きや流れを把握して活動することを特にだいじにしていきます！！</u></p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（各自が主体的に動いていく活動のプロセスを評価します。）</p>	

【授業科目】	ゼミナールⅡ	
【開講期】	2年前期	【担当者】堀江まゆみ
【授業目標】	<p>現代社会における子育てや障害のある子・人たちの暮らしに注目し、学生自身が問題意識をもって資料収集しあるいは実際の暮らしに接するなどの経験を通して、問題解決の力量を高めるとともに、保育者としてどのような理解と支援が必要になるのかを議論していく。事例や本人・家族との話し合いなどを通して理解していく。</p>	
【テキスト】	なし	
【参考書】	ゼミの中で紹介する	
授 業 計 画		
<p>1. ゼミナールⅠから進めてきた各班のテーマについて、それまでの資料から得られる問題を整理し報告しながら、および今後の課題をまとめる。</p> <p>①「入所施設から地域生活への移行」班 ：脱施設とはなにか、地域での暮らしとはなにか、グループホーム、地域生活支援センターの役割とサービスほか</p> <p>②「障害のある人の余暇支援」班 ：余暇とはなにか、自分で決めるとはなにか、音楽と余暇、ほか</p> <p>③「自閉性障害の子どもと療育・保育」班 ：自閉性障害の特徴、療育の実践と課題、ほか</p> <p>2. ゼミナールⅡとしてのテーマ設定を行う 各自がさらに深めたいと思うテーマの設定を行い、各班ごとに研究方法を検討する</p> <p>3. 各班ごとに「当事者に聞く！」企画を計画する それぞれの問題を一番の中心にいる当事者（障害のある子・人あるいは家族）から話を聞く機会を設け、資料や文献、議論で得た各自の学習成果を実際の当事者の思いと重ねてあらためて検討を行う</p> <p>4. 成果報告のためのプレゼンテーション方法を学ぶ—パワーポイントの活用他</p>		
【評価方法】	授業の中でのレポート	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	
【開講期】 2年 前期・後期	【担当者】 村田 務
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>1 保育活動における健康問題について理解を深めるとともに、それらの健康問題を解決するための効果的な方法について、文献研究や質問紙調査等を通して習得する。</p> <p>2 子どもの健康を守り育てるために必要な保健指導の方法について理解するとともに、健康保育の問題について研究するための方法を身につける。</p>	
<p><b>【テキスト・参考書】</b></p> <p>参考書 学術雑誌：「小児保健研究」「学校保健研究」「健康教室」「保健の科学」「チャイルドヘルス」「保育と保健」等</p>	
<p><b>授 業 計 画</b></p>	
<p>「今日、子どもや保育者には、どのような健康問題があるのか」、「それらの問題を解決するためには、どうすればよいのか」について、より具体的、実践的に学ぶ。</p> <p>まず、①関心ある健康問題についてレポートしたり意見を出し合いながら、子どもや保育者の健康問題について概括する。次に、②これらの健康問題の原因について明らかにしたり解決するための方法について、研究論文を検討しながら理解する。そして、③文献講読で不明であったことや疑問に思ったことについて、質問紙調査をしたり、実験などをして体験的に明らかにする。最後に、④一連の学習や研究の成果をもとに、テーマとした健康問題の解決策について考察するとともに、子どもへの指導法について検討して教材を作成する。</p> <p>1、今日の健康問題を理解する・・・・・・・・個人レポートの発表</p> <p>2、健康学研究の方法を知る・・・・・・・・研究論文の講読と検討</p> <p>3、ゼミ研究の共通テーマを決める</p> <p>〔過去のゼミテーマ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児のアトピー性皮膚炎の状況と対策</li> <li>・保育者のエイズへの意識と対応</li> <li>・保育者のストレス状態とその背景</li> <li>・学生の月経痛の状況とその対処法</li> <li>・小児肥満の問題と健康的なダイエット法</li> <li>・ダイオキシン問題の背景と母乳育児への影響</li> <li>・主として厚底靴に焦点をあてた足の健康問題とケア法，対処法</li> <li>・健康的な食育と楽しい食事援助の方法</li> <li>・健康の社会的側面から見た子どもの「気になる行動」と保育的指導法</li> </ul> <p>4、研究テーマに関する事項について文献講読する</p> <p>5、文献研究で分からなかった事項について、質問紙調査や実験等を実施する</p> <p>6、健康問題の解決と教材づくり及び模擬指導の体験</p>	
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>研究レポートや集団討議への活動意欲と努力</p>	

【授業科目】	ゼミナールⅡ
【開講期】	2 年 前 期・後 期
【担当者】	師 岡 章
<b>【授業目標】</b> 1. 子どもの遊びを重視する保育実践の在り方を考える。 2. 確かな保育実践を展開する上で必要な専門的的力量について考察する。 3. 問うこと、調べること、わかること、の楽しさを味わう。	
<b>【テキスト】</b> 	
<b>【参考書】</b> 授業時に適宜、紹介する。	
<b>授 業 計 画</b>	
<p style="text-align: center;">〔子どもの遊びを重視する保育実践の在り方を考える〕</p> <p>保育において遊びを重視することは自明のことである。しかし、実際にはそれがスローガンに終わり、真に遊びを中心とした保育実践が展開されているとは言い難い状況がある。未来の保育者にはこうした現状を改善していく視点と力量を身につけていくことが求められている。</p> <p>そこでゼミナールⅡでは、以下に上げる内容を通して、子どもの遊びを重視した保育実践の在り方について考察したい。</p> <p>① 保育実践をめぐる現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の子どもの育ちと課題を探る</li> <li>・幼稚園教育要領及び保育所保育指針の改訂内容を考える</li> <li>・多様化する保育実践の問題点を探る</li> </ul> <p>②子どもの遊びを重視した保育実践の在り方を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミナールⅠでの学びを基に、各自が関心を持つ研究テーマを出し合う。</li> <li>・討論を通して、テーマを絞り、自主的に調べた内容をまとめていく。</li> </ul>	
<b>【評価方法】</b> ゼミ活動への参加姿勢と研究テーマへの取り組み	

[授業科目名]    ゼミナールⅡ	
[開講期]        2年前期・後期	[担当者] 八木 紘一郎
<p>[授業目標]</p> <p>子どもの発想と表現を豊かに育むための効果的援助方法を「造形人形劇活動」を通して身に付ける</p>	
<p>[テキスト・参考書]</p> <p>未定</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p style="text-align: center;"><b>保育のための「造形人形劇研究」</b></p> <p>具体的な方法手段として、「造形人形劇活動」を「できるかな」的な工作人形劇活動として展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 身近な素材を加工していくプロセスそのものを劇にする＝たとえば、「小人のぼうけん」のような紙一枚で行う人形劇を通して、なぜかを考察していく。</li> <li>2) 音楽・リズム・動きを総合的に扱う。</li> <li>3) 絵本や昔話を創造的想像をめぐらしてアレンジする。  その際には、原作に関する分析考察を行いながら、上演意図について絞り込んでいく。  たとえば、「ももたろう」の背景について、なぜ3匹の動物が登場するのか？なぜ他の強そうな動物を連れて行かなかったか？サルや雉たちがきび団子で命をかけて「ももたろう」に加勢するのはなぜか？持ち帰った宝物はどうしたか？ももたろうは、その後どうしただろうか？などを考察しながら、この原作が意図しているメッセージは何か？などを分析し、自分たちはどう考えるか。どういうふうに考えたいか。出かけていく季節は？もし夏だったら、もし秋だったら、冬だったら、モモは一つしか流れて来なかったのか？もしかしたら沢山流れてきたかもしれないなど創造的想像をめぐらす。そうしたなかから、子どもたちに何を見せ、何を考えさせ、何を伝えたいのかを検討しあい、表現として創作していく。</li> <li>4) 上演活動に関する記録  後できちんと分析考察するために記録及びデータをとっていく。(映像・アンケートなど)</li> <li>5) 上演の意味・意義に関する考察  上演した人形劇を通して、見る子どもたちや、保育にどう役立つのかなどについて保育現場と連携して考察して、保育に役立つように検討していく。</li> <li>6) 企画準備から運営・上演・まとめまでの一連の活動を通して、「創造的想像」を実現させる組織的活動の運営調整方法を学ぶ。保育現場における多様かつ複雑な保育環境状況のなかで、個性を生かしあう場としてアート活動のコーディネートとの必要性と具体的な対策技術を習得できるようにしていく。</li> </ol>	
<p>[評価方法]</p> <p style="text-align: center;">平常点</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	
【開講期】 2年 前期・後期	【担当者】 吉川 研二
<p>【授業目標】</p> <p>自然界には模範ない解答のない問題がたくさんある。自然の事物や現象に関心をもち、自然の意外性や美しさに触れ、発見する楽しさを知り、自らの考えを論理的に展開する姿勢を養う。今年度のテーマは“四季の博物誌”</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「ネイチャー・カレンダー」平凡社 「自然観察入門」中公新書 ほか</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>「空の名前」光琳出版 「草花ウォッチング」NHK ほか</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>自然に対する知識や、私たちの生が深く自然に根ざしている          感じを子どもたちに伝えるためには、まず大人が自然を見直し          してみる必要があるだろう。もう一度、野や山を歩いて、自然の          美しさ、すばらしさ、楽しさを再発見し、日本の自然、日本の          風土に新鮮な眼をひらく必要があるだろう。          (日浦 勇『自然観察入門』)</p> <p>2003年3月16・17日 野外実習① 個人課題の検討          4月13日 3月の自然観察報告          20日          27日</p> <p>野外実習②          5月11日 4月の自然観察報告          6月8日 5月の自然観察報告          15          22          29 6月の自然観察報告          7月6日 個人課題の中間発表①          13 個人課題の中間発表②          20 個人課題の中間発表③          補 7月の自然観察報告</p> <p>野外実習 ③          9月上旬(夏ゼミ合宿) (場所未定) 8月の自然観察報告          28日 9月の自然観察報告          10月5日</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点+レポートなど</p>	



【授業科目】 ゼミナールⅡ	
【開講期】 2年 前期・後期	【担当者】 若松美恵子
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼児の身体表現やリズムカルな身体活動について、文献の精読、報告、討論、研究方法の習得により理解を深め、グループ研究を行う</li> <li>2 動きの追求を行ない、表現力豊かに動け、子どもと共に動くことを楽しめる保育者になることを目指す</li> <li>3 集団学習や共同作業を通して企画力、創造力、実行力を養う</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>若松美恵子 「動きのリズム指導の現状と問題点」 舞踊学第2号 舞踊学会  若松美恵子 「保育の中の運動あそび」 萌文書林</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>前期は1年で学んだ、手あそび、フォークダンス、リトミック、体操、身体表現に関する基礎知識の上に、学生自身の興味、関心、疑問から研究テーマを見出し、研究を進めると共に、学生自身が自信をもって動け、楽しんで身体で表現できるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 先行研究の精読</li> <li>② 研究テーマ、方法の決定および研究の推進</li> <li>③ 学生自身の選んだテーマで身体表現活動</li> <li>④ 手あそび、フォークダンス、リトミック、体操、身体表現の模擬指導</li> </ol> <p>後期は身体表現活動と研究活動をそれぞれ発表会へと推進する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 身体表現（ダンス）を文化祭で発表する</li> <li>② 幼児の身体表現やリズムカルな身体活動に関する研究を進め、ゼミナール研究発表会で発表する</li> </ol> <p>過去の主な研究テーマ</p> <p>3歳児、4歳児、5歳児の身体表現の指導のあり方  幼児の身体表現、リズムカルな動き、フォークダンス、体操の指導法について  幼児のリズムあそび、わらべうた、身体表現について</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミナールの全ての活動を通して評価する</p>	

【授業科目】 幼稚園実習	
【開講期】 2年 前期	【担当者】 小松 歩・林 薫
<p>【授業目標】</p> <p>1年次の「見学・観察実習」をふまえて、2年次は、3週間にわたる実習で、幼稚園教育に参加する。今回は、実際に指導計画案を立てて、指導の実際を体験する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「実習ガイドブック」・「幼稚園実習日誌」必携</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>「幼稚園・保育所実習の指導計画案はこうして立てよう」 萌文書林 阿部明子・岡本富郎 ほか 著</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>2年次の実習は、「参加・指導実習」という段階の実習である。 この実習で、幼稚園教育に参加し、自分で1日ないし2日の仮の担任になって指導実習を体験する。</p> <p>【2年次】 参加・指導実習のテーマ</p> <p>1週目 ・ 保育計画の流れと関係させて指導を理解する。 ・ 子どもの遊び場を主に観察する。</p> <p>2週目 ・ 指導に部分参加（指導計画案の作成） ・ 子どもの遊びや活動を、発達・生活・保育内容との関わりで理解する。</p> <p>3週目 ・ 子どもと園生活全体を見通す総合的理解と全日指導</p> <p>今回はとくに、「指導計画」を立案することが求められるので、そのためのオリエンテーションを特別に設ける。 2年次のオリエンテーションは、およそ次のような項目にそって実施する。</p> <p>① 参加・指導実習とは（全般的説明）</p> <p>② 遊びへの関わり方</p> <p>③ 実技（絵本・童話・手遊び）</p> <p>④ 指導計画の立て方</p> <p>⑤ 教材研究（指導実習に向けてのアイデア）</p>	
<p>【評価方法】 ① 学内オリエンテーションへの出席／受講状況 ② 実習日誌 ③ 実習中の出欠席 ④ 学内反省会</p> <p style="text-align: right;">などを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 実習指導	(保育所実習Ⅱ)
【開講期】 2 年 前期・後期	【担当者】 鈴木 佐喜子・秋山 治子ほか
<b>【授業目標】</b> 事前指導として、実習の目的・意義・テーマ、保育所における子どもの活動と指導計画、指導法、指導案の立て方などについて学ぶ。実習後、実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成などを行い、実習日誌などの評価・指導を受ける。	
<b>【テキスト】</b> 『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携	
授 業 計 画	
今年度の実習指導は以下の予定で実施するが、一部内容が変わる場合もある。 <b>《実習前》</b> I. 講義 「保育所実習Ⅱ」のすすめ方と実習日誌の書き方 1. 「保育所実習Ⅱ」の目標と内容 子どもの活動と保育者の指導法について学ぶ 1) 子どもになじみ、そのあそび、生活を体験しながら学ぶ 2) 保育者の指導内容・方法について学ぶ 3) 指導計画案を作成して指導実習を行う 2. 指導案・指導法 指導実習を通して指導案の立て方・指導法について学ぶ 幼児の指導案・指導法は「幼稚園実習」「保育計画法」で学ぶ 乳児の生活に関わる部分の講義は「乳児保育」「小児栄養実習」などで扱う 3. 実習日誌の書き方 II. 講義 保育所における子どものあそびと指導計画 1. 3歳以上児の生活・あそびと指導計画 2. 3歳未満児の生活・あそびと指導計画 III. 講義 保育所におけるあそび指導の実際 1. 保育環境の設定 2. 年齢別のあそびと指導計画 VI. 実習日誌の提出・点検・指導  実習期間 9月7日(火)～9月17日(金) <b>《実習後》</b> V. 実習を振り返って(反省会) 各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成をゼミ単位で実施 VI. 実習日誌の提出・点検・指導 個別面接	
<b>【評価方法】</b> 平常点	

【授業科目】 実習指導	施設実習Ⅰ・Ⅱ
【開講期】 2年 前期・後期	【担当者】 中山正雄・堀江まゆみ・船津秋子
<p>【授業目標】</p> <p>児童福祉施設（保育所を除く）での実習は、保育士資格取得のための必修科目である。心身に困難や障害を持つ子ども達の生活に触れ、そこで働く保育士の姿や保育内容、技術などをつぶさに見、体験することで保育士としての職務を理解させる。実習での体験や疑問を持ち帰り、子ども達に関わることの意義を深める。実習を積極的にまた学びの多いものにするために、実習指導を行なう。</p>	
【テキスト】 開講時に提示する	
<p>-----</p> <p>【参考書】 実習先の業種に応じた参考文献を5月に指定する</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 総合オリエンテーション</p> <p>(1) 児童福祉施設全般についての理解を深める</p> <p>(2) 実習の目的・獲得目標・実習への姿勢を確認する</p> <p>(3) 各配属先の施設に関する基本的な目的と内容を理解する</p> <p>2. 制度オリエンテーション</p> <p>障害系施設と養護系施設に大別し、法律、制度の現状について理解する</p> <p>児童福祉法、児童福祉施設最低基準など</p> <p>3. 援助内容オリエンテーション</p> <p>障害系施設と養護系施設に大別し、施設における生活の流れ、職員の関わり方、子どもの理解について学ぶ</p> <p>4. 現場講師によるオリエンテーション</p> <p>知的障害、身体障害、重症心身障害、養護施設に大別し、現場職員を招いて施設での実際について学ぶ</p> <p>5. 現場実習と訪問指導</p> <p>実習期間に実習先職員による指導と、教員の訪問による指導を行い、実習をより効果的に進める</p> <p>6. 反省会</p> <p>実習後に各ゼミナールごとに反省会を行い、実習で得たこと反省することを深める</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>1～6の全ての出席、課題の提出、日誌の記載、実習の態度等を総合して判断する</p>	

【授業科目】 保育所実習Ⅱ	
【開講期】 2 年 前期	【担当者】 鈴木 佐喜子・秋山 治子
<p>【授業目標】</p> <p>1年次の「保育所実習Ⅱ」の学習を土台に、乳幼児の生活、あそびなどに関するより高度な観察、理解を深めるとともに、保育者の子どもへの対応、指導課程、指導法などに学び、指導案をたてて実習を行う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>2年次の「保育所実習Ⅱ」は「施設実習Ⅱ」との選択必修科目である。  「保育所実習Ⅱ」は1年次の「保育所実習Ⅰ」に継続し、原則として同じ園で行う。今年度は9月7日（火）から9月19日（金）の10日間で行われる。1年次の「保育所実習Ⅰ」、1・2年次の「幼稚園実習」を終え、「保育所実習Ⅱ」では保育に助手的な立場で参加する中で、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保育への理解をさらに深める</li> <li>2) 配属クラスで指導の実際と方法を学ぶ</li> <li>3) 実習指導期間の後半を中心に、指導案を立てて指導実習を行う</li> </ol> <p>指導実習は配属クラスの子どもの年齢や実習園の実情に応じて実施する  なお実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会がある</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学内オリエンテーション（実習指導）への出席／受講・実習日誌の記録  実習中の出欠席・学内反省会などを総合して評価</p>	

【授業科目】	施設実習 I
【開講期】	2年 後期
	【担当者】
	中山正雄 堀江まゆみ 船津秋子
<b>【授業目標】</b> 1. 児童福祉施設の内容・機能・保育士としての職務のあり方などを実践の場で観察・体験を通して理解させる。 2. 授業で学んだ知識・技能・理論を実践の場で総合的に体験することにより、応用力・行動力を養う。 3. 保育士としての職務内容、子どもの生活の保障における保育士の役割、保育士として働くことの意義を実体験させる。 4. 親元を離れ児童福祉施設で生活する子どもの現状から、その最善の利益の具体化について学ばせる。	
<b>【テキスト】</b> 開講時に提示する	
<b>【参考書】</b> 授業の中で紹介する	
授 業 計 画	
1. 実習施設について理解させる。 2. 一日の生活の流れを理解し、参加することにより日々の生活の意味を理解させる。 3. 子どもの観察や直接の関わり、職員の対応や助言などを通して子どものニーズを理解させる 4. 施設の運営・援助計画などの実際を理解させる。 5. 生活や援助の一部分を担当し、養護技術・援助方法を習得させる。 6. 職員間の役割分担やチームワークについて理解させると共に職員としての資質について学ばせる。 7. 子どもの最善の利益についての配慮、子どもの権利への配慮について理解させる。 8. 記録や職員からの助言、観察などを通して家庭・地域社会との関係調整の役割を理解させる。 9. 施設で生活する子どもの理解を深め、親と子の関係を学ばせる。 10. 24時間の生活で丸ごと子どもを養護していくための安全や衛生等の配慮について理解させる。  実習は10月末から11月はじめを予定、実習先の関係で時期をずれて行うこともある。参考文献は学内オリで提示する。各実習施設に応じて適切な文献を読み感想文の提出が必要である。	
<b>【評価方法】</b>  学内オリへの出席、日誌の記載、実習態度、実習先評価、反省会などを総合	

【授業科目】 施設実習Ⅱ	
【開講期】 2年 前期	【担当者】 中山正雄 堀江まゆみ 船津秋子
<b>【授業目標】</b>  1. 児童福祉施設の内容・機能・保育士としての職務のあり方などを実践の場で観察・実際の参加体験を通して理解させる。 5. 授業で学んだ知識・技能・理論を実践の場で総合的に体験することにより、資質・応用力・行動力を養う。 6. 保育士としての職務内容、子どもの生活の保障における保育士の役割、保育士として働くことの意義を理解させる。 7. 親元を離れ児童福祉施設で生活する子どもの現状から、その最善の利益を具体化する援助の方法と能力について学ばせる。	
<b>【テキスト】</b> 開講時に提示する	
<b>【参考書】</b> 授業の中で紹介する	
授 業 計 画	
1. 実習施設について理解し養護業務に参加することにより養護の方法・技術を習得させる。 2. 一人一人の子どもに応じた援助のあり方を理解し、幅広い子どもへの理解と援助技術を学ばせる。 3. 子どもの観察や直接の関わり、職員の対応や助言などを通して子どものニーズを理解し、その対応について学ばせる。 4. 施設の運営・援助計画などの実際を理解し援助計画の立案及び実践を通して学ばせる。 5. 職員間の役割分担やチームワークについて理解させると共に職員としての資質について学ばせる。 6. 子どもの最善の利益についての配慮、子どもの権利への配慮について理解させ、その実現についての施設の努力内容を理解させる。 7. 記録や職員からの助言、観察などを通して家庭・地域社会との関係調整の役割を理解し、部分的な参加を通してその方法を習得させる。 8. 施設で生活する子どもの理解を深め、親と子の関係を学ぶと共に、家庭再建への援助について学ばせる。 9. 24時間の生活で丸ごと子どもを養護していくための安全や衛生等の配慮について理解し、保育士に求められる資質・能力・技術及び倫理を具体的に学ばせる。 10. 施設から地域の福祉に貢献する保育士としての姿勢と課題を学び明らかにさせる。	
<b>【評価方法】</b>  学内オリへの出席、日誌の記載、実習態度、実習先評価、反省会などを総合	







学籍番号・

氏名・

---

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

教務課 042(346)5619